

第 40 回

教育研究発表会要項

自己教育力の育成

ゆれのある学習

平成元年 5 月 25 日・26 日

金沢大学教育学部附属小学校

目 次

日 程	2
第 1 日 授業一覧 教科別研究協議会及び会場	3
学習指導案	4
研究発表要項 1 研究概要	50
2 体 育	51
第 2 日 授業一覧 教科別研究協議会及び会場	53
学習指導案	54
研究発表要項 3 音 楽	96
4 国 語	97
講演会要項	98

要 項

日 程

第1日 5月25日(木)

時刻	8:30	9:00	9:15	9:45	10:15	10:45	11:15	12:00	13:15	14:00	14:15	15:30
日 程	受 付	開 会	研究発表 (沢野)	研究発表 (松本)	児童 発表	移 動	公開授業 (1)	昼 食	指定授業 (2)	移 動	教科別研究協議会	

◆ 研 究 発 表

1. 研究概要 自己教育力の育成 ゆれのある学習

教諭 沢 野 等

2. 体 育 動きが高まる追求の場をめざして

教諭 松 本 亮

◆ 児 童 発 表 「ペンギンの旅」

2年生児童

第2日 5月26日(金)

時刻	8:30	8:50	9:00	9:45	10:00	10:45	11:00	12:00	13:00	13:30	14:00	14:10	15:30
日 程	受 付	朝 の 会	公開授業 (1)	移 動	指定授業 (2)	移 動	教科別 研究協議会	昼食	研究発表 (曾山)	研究発表 (坂根)		講 演 熱海則夫先生	

◆ 研 究 発 表

3. 音 楽 表現が豊かになる追求の場をめざして

教諭 曾 山 哲 夫

4. 国 語 読みが深まる追求の場をめざして

教諭 坂 根 順 子

◆ 講 演

「学習指導要領の改訂について」

文部省大臣官房審議官

(初等中等教育局担当)

熱 海 則 夫 先生

(於 小学校体育館)

第 1 日 5 月 25 日 (木)

第1日 授業一覧

1限 公開授業 (11:15~12:00)

学年・組	教科	主 題	指導者	授業の教室	掲載ページ
1の2	生活	ばくもわたしもふぞくっ子	橋本 有可	1階 1 の 2	4
1の3	国語	うさぎ	谷内比能雄	1階 1 の 3	8
2の1	算数	三角形と四角形ー1	中西 清二	1階 2 の 1	10
2の2	生活	ばく、わたしのおべんとう	菅谷内 清	1階 2 の 2	12
2の3	図工	ゆめのつばさ	藤村いずみ	1階 2 の 3	14
3の1	体育	軽くて柔かい感じ (表現運動)	小笠原佳子	1階 体育館	16
3の2	音楽	ふけるかなりコーダー	中村 恵子	3階 音楽室	18
3・4年複式	社会	安全なくらし	寺本 一伸	3階 複式教室	24
4の1	社会	安全なくらし	福永 善則	2階 4 の 1	26
4の2	理科	熱のつたわり方	沢田 祐一	2階 4 の 2	28
4の3	道徳	ロンとわかれたくない	北川 信広	2階 4 の 3	32
5の2	国語	動物の体	新村 裕二	3階 5 の 2	38
6の1	理科	電磁石と電熱線	木戸 実	2階理科室(1理)	42
6の2	理科	電磁石と電熱線	福田 信正	3階 6 の 2	46

2限 指定授業 (13:15~14:00)

学年・組	教科	主 題	指導者	授業の教室	掲載ページ
1の1	生活	ばくもわたしもふぞくっ子	乗富 章子	1階 1 の 1	4
3の2	社会	わたしたちの住んでいるところ	中村 光男	2階 3 の 2	20
3の3	理科	わたしの体	新保 修	2階理科室(1理)	22
4の2	音楽	音で気持ちをもらわそう	曾山 哲夫	3階 音楽室	30
4の3	国語	一つの花	坂根 順子	2階 4 の 3	34
5の1	体育	ソフトベースボール (ボール運動)	松本 亮	運動場(雨天は体育館)	36
5の3	図工	ランプシェード	清水英理子	1階 図工室	40
6の2	家庭	毎日の食事	浅田 幸子	2階 家庭室	44
6の3	算数	対称な形	藤森 慎一	3階 6 の 3	48

◇ 教科別研究協議会 (14:15~15:30)

協議会名	研究協議題	助 言 者	司 会 者	研究協力者	協議会場
国 語	読みが深まる追求の場のあり方 (物語文)	金沢大学教育学部 深 川 明 子 先生	金沢市立諸江町小学校 町 出 憲 子 先生	金沢市立金石町小学校 長 井 珠 子 先生	1階 1 の 3
社 会	地域を見る目を育てる追求の場のあり方	金沢大学教育学部 田 中 武 雄 先生	金沢市立長田町小学校 大 浦 博 幸 先生	金沢市立新神田小学校 砂 田 武 嗣 先生	2階 4 の 1
算 数	算数科における追求力の育成	金沢大学教育学部 三 塚 正 臣 先生	金沢市立長田町小学校 石 野 あや子 先生	金沢市立弥生小学校 浅 岡 吉 宏 先生	3階 6 の 1
理 科	理科的追求力を育てる学習	金沢大学教育学部 松 原 道 男 先生	石川県教育センター 前 川 儀 男 先生	金沢市立鳳凰町小学校 森 真 治 先生	2階 理科室
音 楽	表現を広める追求力の育成	金沢大学教育学部 水戸部 克 己 先生	金沢市立諸江町小学校 袋 井 真 之 先生	金沢市立三谷小学校 清 水 正 明 先生	3階 音楽室
図 工	個を生かす追求の場のあり方	金沢大学教育学部 向 坂 一 弥 先生	金沢市立大徳小学校 加 藤 詩 郎 先生	金沢市立戸板小学校 滝 川 真 人 先生	1階 2 の 2
家 庭	食生活を豊かにする追求の場のあり方	金沢大学教育学部 豊 村 洋 子 先生	金沢市立木曳野小学校 水 野 都 代 先生	金沢市立中央小学校 番 井 法 子 先生	2階 家庭室
体 育	体育科における追求力の育成 (ボール運動について)	金沢大学教育学部 出 村 慎 一 先生	金沢市立安原小学校 小 平 豊 彦 先生	金沢市立大浦小学校 西 川 茂 治 先生	1階 1 の 1
生 活	自立をめざす生活科の授業のあり方	金沢大学教育学部 吉 田 貞 介 先生	金沢市立南小立野小学校 林 道 子 先生	金沢市立鳳凰町小学校 市 川 政 枝 先生	3階 集会室

指導者 1限 橋 本 有 可

2限 乗 富 章 子

1 単 元 名 ぼくもわたしもふぞくっ子

2 目 標

- ・ 学校には、多くの先生や上級生・友だちがいることを知り、それらの人たちと積極的に交わろうとすることができるようにする。
- ・ 学校には、いろいろな施設・設備があることを知り、それらを上手に利用して、楽しい学校生活を送ることができるようにする。
- ・ 学校生活を送る上で関わりをもつ、施設・設備や人々、動植物と、心の通い合う、明るい交流を持とうとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 本単元は、学校生活の入門期にある子どもたちが、学校の人々や動植物、施設、設備などを知ることがきっかけにして、それらの人や物と、より積極的に関わりを持とうとするようになることをねらって設定した。

これまでの社会科や理科でも、同じような単元が組まれているが、生活科では特に「自分と関わりのある」人々や動植物とのふれ合いを大切にしたい。それは、生活科として子どもたちの身につけさせたい学び方のひとつがまず「自分が」気に入ったものや場所を見つけ、その良さや楽しさを十分に味わった上で、クラスの友だちにも知らせ、互いに学び合うことであると考えからである。

- ・ 入学して一ヶ月半あまりの日々で、子どもたちは、クラスの友だちや担任と親しく言葉を交わすことができるようになって来た。一方では、生活科の活動を通して、二年生以上の上級生と交わったり、担任以外の先生を知ったり、教室以外の学習や活動の場所を知り始めたりしている。また、学校行事や児童会活動での「一年生を迎える会」などを通して、それらの人々や施設・設備が、自分たちを積極的に受け入れてくれようとしていることに気づいている。しかし、それらの人々や物は、常に自分たちに対して「してくれる」のであって、自分たちが、考えたり、行動したりといった、積極的な働きかけを「する」、あるいは、自分たちよりも弱い立場にある動植物に対して、優しい行動をとることには、慣れていない。また、まだまだ自分中心の行動が多く、友だちの考えを聞いたり、友だちにわかるように話したりすることにも慣れていない。
- ・ 前単元「ちゅうりっぷをありがとう」では、子どもたちは、2年生が大切に育ててきたチューリップをもらうことを通して、一番身近な上級生である2年生と親しくなった。そこで、本単元では、2年生が案内してくれる活動を中心とした二次「どうぞよろしく(Ⅱ)」を経て、「ぼくのお気に入りの場所」を見つけ、それをクラスの友だちに紹介していく、「みんなのお気に入りの場所」へと広がっていく活動の流れを考えた。
- ・ 教えてもらった楽しい場所で、自分が満足するまで遊ぶことによって、みんなにも知らせ、みんなでもっと楽しく遊べるようにしようと行動できるようにしたい。そして、みんなで楽しむには、その特徴をもっとよく知り、相手の立場を思う優しさが大切であることもわからせたい。

4 単元計画 (総時数24時限+課外)

次	主 な 活 動	時数	次	主 な 活 動	時数
一次 どうぞよろしく(I)	<div>学校の人たちと仲よしになろう</div> <div> 2年生 学校案内をしてもらう 3年生 サインをもらう 4年生 サインをもらう 5年生 授業の様子を見せてもらう 相手の名前先生の名前を教 えてもらう 6年生 昼休みに遊んでもらい相手の 名前先生の名前を教えてもらう 校長 } 先生と握手し 名前を教えて 副校長 } もらう 教 頭 } 専科の先生 } シールをもら 一年の他クラスの先生 } う 保健の先生 } どんな仕事をしているか 事務員さん } 調べて書く 校務員さん } ○たくさんの方の名前がわかったよ ○学校にはいろんな仕事をしている人 がいるね </div>	9 + 課外	三次 ぼくのお 気に入り の場所	<div>お気に入りの場所を友だちに教えてあげよう</div> <div> ●案内してもらった中で 一番 お気に入りの場所を決める ●自分のお気に入りの場所へ行き 友だちに教 えたひみつをみつける ・鉄棒の遊び方 ・花だんの花の名前 ・うさぎのだき方 ・図書室にあるおもしろい本 ●友だちに紹介する準備をする ・絵で ・実際に連れて行って ●紹介しあう ○友だちはいろんなおもしろいことをみ けているね わたしも行ってみたいなあ </div>	5 + 課外 (1 の 1 4 /5 5 /5)
	<div>2年生に 学校の案内をしてもらおう</div> <div> ●グループに分かれ 2年生の好きな場 所を案内してもらう ・中庭 (花だん ジャングルジム) ・前庭 (うさぎ小屋) ・運動場 (鉄棒 遊具 砂場) ・図書室 ・集会室など ○学校の中には 楽しい所があくさんあ るんだね </div>	4	四次 みんなのお 気に入り の場所	<div>友だちのお気に入りの場所へ行こう</div> <div> ●うさぎ小屋へ行く ・えさを探す (台所の野菜くず 家の庭や近くの野原の草花) ・えさをやる ・うさぎに名前をつける ・うさぎに手紙を書く ●運動場へ行く ・鉄棒の新しい技を教えてもらって遊ぶ ・遊具の楽しい遊び方を教えてもらって 遊ぶ ●図書室へ行く ・代本板を使い本をかりて読む ○友だちのお気に入りの場所も楽しかった ね </div>	6 + 課外 (1 の 2 2 /6 3 /6)

5 本時の学習（四次の2時）

1限 授業の教室（1の2）

ねらい うさぎにえさを与える活動を通して、身の回りの草花や食べ物のくずもえさになることを知り
うさぎに親しみの気持ちを持つ。 （内容選択の視点⑥）

本時のねがい 子どもたちは、飼育小屋のうさぎにえさをやりたいという気持ちを持っている。しかし、うさぎにはにんじん、という先入観があり、食べ物についてはくわしく知らない。そこで今まではただの雑草だと思っていたおおばこやつめくさなどの草花や台所では捨てられてしまうにんじんやりんごの皮などの食べ物のくずがうさぎの好物であることを知り、うさぎの食べ物に興味を持たせたい。そしてそれらをうさぎに与えることから、今度は家の近くの野原や家の台所からもっとたくさんの食べ物を持って来てやりたいという気持ちを持たせたい。

授業過程

中心活動	配時	教師の働きかけと児童の活動	教師の意図
1 うさぎのえさについて話し合う	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">うさぎさんにごはんをあげよう</div> <p style="text-align: center;">〈何を食べるのかな〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">にんじんを 食べるよ</div> <div style="text-align: center;">お母さんに 聞いたら…</div> <div style="text-align: center;">飼育委員の人 に聞いたら…</div> <div style="text-align: center;">本で調べて みたら…</div> </div> <p style="text-align: center;">いろいろ食べるんだね</p>	・野菜や草花の名ばかりでなく 絵も提示し えさを具体的に知らせたい
2 先生が持ってきたえさをうさぎに食べさせる	32	<p style="text-align: center;">〈これも食べるのかな〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">にんじんの皮 ・きつと食べるよ ・きたないのはだめだよ ・ごみだけど食べるかなあ</div> <div style="text-align: center;">りんごの皮 おおばこ つめくさ ・つめくさは食べるって 本に書いてあったよ</div> </div> <p style="text-align: center;">〈うさぎさんにあげてみよう〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">すぐ食べに 来たよ</div> <div style="text-align: center;">雑草でも 食べたよ</div> <div style="text-align: center;">皮でも食 べたよ</div> <div style="text-align: center;">おいしそうに食 べたよ</div> <div style="text-align: center;">かわい いなあ</div> </div> <p style="text-align: center;">全部食べたよ もっとほしそうだね</p> <p style="text-align: center;">〈明日は家から持って来てあげたいなあ〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">うさぎの食べ そうなもの をもらって来るよ</div> <div style="text-align: center;">家の近くから ○○○をつ んで来るよ</div> </div>	<p>・家ではゴミになってしまうような食べ物のくずや 身近にあるただの雑草だと思っている草花を食べることから身近なものの中にえさになるものがあることを知らせる</p> <p>・うさぎがえさを食べる様子から うさぎに親しみの気持ちを持たせたい</p> <p>・えさを与えてもすぐになくなってしまうことから 今度は家から持って来たいという気持ちにさせたい</p>
3 本時のねがい	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">うさぎさんが何を食べるのかわかったよ 明日は家からうさぎさんのごはんを持って来てあげよう</div>	

5 本時の学習（三次の4時）

2限

授業の教室（1の1）
協議会場（集会室）

ねらい 自分が最も気に入った場所とその楽しさを、クラスの友だちに紹介することができる。また友だちの話を聞くことができる。
(内容選択の視点②⑤⑥)

本時のねがい 子どもたちには、2年生に教えてもらった4ヶ所の「すてきな所」の中から、自分に向いて最も気に入った場所を見つけ、自分なりに楽しく遊ぶことができた。そして、それをどんな方法で、クラスみんなに知らせたらよいか、自分の考えをもとに準備してきた。本時では、自分で準備してきたことを、友だちがよくわかるように知らせることができるようになりたい。また、友だちの話を上手に聞くこともできるようにしたい。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 活 動	教 師 の 意 図
1 用意したことを出し合う	10	<div> <div>ばくやわたしのお気に入りの場所をみんなに教えてあげよう</div> <div>〈どんな用意をしたの〉</div> <div> <div>絵を描いてきたよ</div> <div>お話できるようになったよ</div> <div>してみせれるよ</div> <div>本物をもってきたよ</div> </div> </div>	・前時に準備したことを出し合っているいろいろな準備の仕方があることを確かめ合う
2 用意を確認する	7	<div> <div>〈発表のじゅんびをしよう〉</div> <div>・友だちにわかってもらえるようはっきり話そう</div> <div>・よく見えるように大きく動こう</div> <div>・友だちにさわらせてあげたいな</div> </div>	・簡単に準備する時間をとって自信をもって発表にのぞむことができるようにしたい
3 発表する (発表を聞く)	25	<div> <div>〈友だちによくわかるように教えてあげよう〉</div> <div> <div> <div>わたしも行ったところがある</div> <div>ぼくの決めた所と同じだ</div> <div>同じ所だけど遊び方がちがうよ</div> <div>知らない所だった</div> </div> <div>〈場所がよくわかったかな〉</div> <div> <div> <div>(中底) 砂場</div> <div>(運動場) プレイスカルプチャー</div> <div>(飼育小屋) うさぎ</div> <div>(校舎内) 図書室</div> </div> <div> <div>花壇</div> <div>鉄棒など</div> <div>体育館</div> <div>集会室</div> </div> <div>ジャングルジム</div> </div> </div> </div>	<div>・話すことと同時に聞くことも大切であることを意識づけたい</div> <div>・自分なりのとらえ方で整理しながら聞くことができるようにしたい</div> <div>・その場所の名称をはっきり言うことができるようにしたい</div>
4 本時のねがい	3	<div> <div>お気に入りの場所をみんなに教えてあげることができたし 友だちのお気に入りの場所もわかったよ その場所の名前も言えるよ</div> </div>	

1 題材名 うさぎ (東書1年上)

2 目 標

- ・ うさぎの食べ物と耳と足について、説明されていることがらを正しく読みとらせる。
- ・ 絵とことばを結びつけて、書かれていることがらを読みとるという経験をさせる。
- ・ 友達や先生の話最後まで聞きとることができるようにする。

3 指導にあたって

- ・ うさぎの特徴を食べ物・耳・足の三つに分け、説明している。いずれも、三つの文で構成されている。耳と足については、第一文で、それぞれの特徴を述べ、第二・三文では、それぞれの働きについて具体的に分かりやすく説明している。また、さし絵が大きくなっており、さし絵と文章を結びつけることで、書かれていることがらが読みとりやすい題材である。
- ・ 子どもたちは、先に学校のうさぎ小屋に出かけ、うさぎと遊んでいる。また、経験的にうさぎを抱いた子もいる。したがって、うさぎの特徴として、耳が長いことや草を食べることは知っている。しかし、その耳の働きや足の働きについてまでは、知識として知っている子は少ない。子どもたちは、自分の経験をもとに、知っていることを話たがったり、表現したりしようとする。
- ・ 子どもたちは、生活経験をもとに知っている知識を並べることで満足するだろう。このような子どもたちの意識を大切にしながら、それぞれの思いをことばや動作で出させたい。そうすることで、「あれ おかしいな。これでもいいと思っていたのに」という他の子との思いの違いに気づくであろう。この違いから子どもたちは、教科書の叙述やさし絵に必要感をもつことができると考えた。自分の思いだけでなく、教科書の叙述やさし絵から考えることが大切なんだという経験をさせたい。

4 単元計画 (総時数5時限)

主 な 学 習 活 動		時数
一次	全文を読み 読みのめあてを持つ	1
二	読み深める <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">うさぎは何を食べるの</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ くさを食べます ・ たんぼばやしろつめくさが好きでやわらかい木の芽も食べます <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">うさぎの耳はどんな耳なの</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長くて 大きい耳です ・ 遠くの音やあやしい音が聞こえるとすぐに にげることができます だから とっても便利な耳です 	3 (本時2 / 3)
次	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">うさぎはどうやってにげるのかな</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ にげる時は 後ろ足で地面を強くけって ぴょんぴょんと飛びながらとてもはやく走ってにげます だから 丈夫な後ろ足を持っています 	
三次	学習のふり返しをする	1

ねらい うさぎの耳が、長くて大きいのは、あやしい音をよく聞くためであることを、耳をぴんと立てているさし絵や、「よく きこえます」「すぐ にげます」という言葉から読みとる。

意識の変容 うさぎの耳は、よく聞こえるいい耳だよと言っている子どもたちに「そんないい耳出してごらん」といって動作化させる。ぴんと立てている耳と、ただ上に出している耳の出し方の違いでゆれを起こす。これのゆれによって、ぴんとたてたり、みみのむきをかえたりすると、あやしい音がよく聞こえ、すぐににげる耳だということを読み深める。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 めあてをつかむ	5	<div>うさぎの耳は どんな耳かな</div>	・ うさぎの絵を黒板に描きながら聞きたい
2 めあてについて話し合う	5	・ ながいみみです ・ おおきいみみです	・ 子どもたちに思いを出させた上で 教科書を一読させたい
3 読み深める	20	<そんなに長くて大きい耳なら いいことあるの> ・ あるよ・・よく聞こえるから とおくの音がよく聞こえるから あやしい音が聞こえたら すぐ逃げられます (長くて大きい耳だと 遠くの音やあやし い音もよく聞こえ すぐに逃げられるよ)	・ 発言内容をよく聞きたい (教科書から・経験から) ・ いい耳だよという意識に安定させたい (安定の場)
・ 動作化する		<そんなにいいことできるうさぎの耳 出してごらん> <div><div>(両手を)ぴんと立てて出している耳 (叙述を意識した)</div><div>⇔</div><div>(両手を)ただ出している耳 (叙述を意識しない)</div></div> <div>(これでいいと思うんだけど 友達のとちがうぞ どうすればいいのかな 教科書に書いてあるのかな)</div> ・ ぴんと立てたり 耳の向きを変えたりするとい いんだよ だってすぐに逃げられるもの ・ 教科書に書いてあるよ 「みみをぴんとたてたり みみのむきをかえたりすると」 ・ 教科書の絵にあるよ うさぎが耳を立ててるもの	・ それぞれの思いを動作やことばで出させたい その上で 動作のちがいに気づかせたい (ゆれの場)
4 本時のまとめをする	15	<div>うさぎの耳は 長くて大きいから便利だよ だって ぴんと立てたり耳の向きを変えたりすると 遠 くのあやしい音もよく聞こえ すぐににげられる 耳だよ</div> <うさぎさんになって ようく音を聞いてね> ・ 小さい音や大きい音を出して 動作で示す	・ 教科書の叙述やさし絵から そうすることで 遠くの音も 良く聞こえることに気づかせ たい (追求の場)
		・ ぴん立てたり 向きを変え たりしながら音を聞いて反応 する動作をさせる	

1 単元名 三角形と四角形—1

2 目 標

- ・直線概念を導入することで、図形の構成要素である辺や頂点を知らせ、三角形や四角形を理解させる。
- ・図形の弁別について、構成要素（観点）で、整理・分類する力を育てる。
- ・友だちに対して、自分の意見が、はっきりと発表できる態度を養う。

3 指導にあたって

- ・第一学年では、形の学習として、輪郭に目をつけて、かど、へりなどのことばを用い、さんかく、しかくの見方を指導している。本単元では、図形教育の基礎である、辺や頂点などの構成要素を理解させ、それらの要素で図形を分類することができるようにするのである。そのため、具体的に図形を操作して辺や頂点を意識づけたい。

- ・児童は、三角形や四角形は見ただけで、類別できていると思っているので、辺の数や頂点の数まで考えていない。まだ、かどがいくつあるという見方で類別すると思われる。例えば、



の様な凹形については、さんかく
かしかくで意見が分かれるであろう。
つまり、辺や頂点の意識がうすく、かどの考
えが優先し、その見方は曖昧に終わると思わ
れる。

- ・そこで、見た目やかどの見方で類別するの
でなく、図形の構成要素である辺や頂点の観
点で、しっかりと類別できることを指導した
い。また、それらの構成要素について、単に
その数だけで構成されているという意識を具
体的に操作し吟味することで、辺の長さの関
係に目をつけたり、頂点の位置の関係に目を
つけたりして、理解を深めたい。

4 単元計画（総時数7時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>まっすぐな線はどれだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・見ただけだと 意見がバラバラだ ・定規で合わせたり 糸をびーんとはっ て調べると分かる ・まっすぐな線のことを直線という 	2
二 次	<div>さんかく しかくに分けよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・かどのところがはっきりするとよい ・へりの数で分けるとよい ・頂点の数、辺の数で三角形や四角形 をきめる <div>辺6本で三角形をつくろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・辺3本で三角形が1つできる ・辺3本でも 三角形ができない時が ある 辺の長さも大切だ <div>頂点6こで三角形をつくろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・頂点3こで三角形が1つできる ・頂点3こでも 一直線だとできない ・辺や頂点は 三角形 四角形をつく るのに大切なきまりがある 	3 (本時 1/3)
三 次	<div>三角形 四角形をかこう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・辺や頂点に気をつけてかかないとだ めだ ・今までの学習をふりかえる 	2

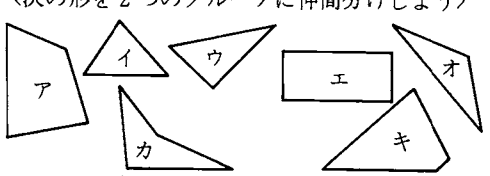
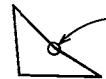
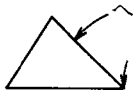
5 本時の学習（二次の1時）

授業の教室（2の1）

ねらい 図形の構成要素である辺や頂点の数を観点として整理分類することで、三角形や四角形がはっきりすることを知る。

意識の変容 児童は、三角形や四角形は見た目だけで、分類できるという意識でいる。そこで、㊦の様な凹形の四角形について、「どちらの仲間かな。」というゆれから、かどの数をはっきりさせる。そして、直線（辺）の数で分類すれば、三角形や四角形が類別できるという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 活 動	教 師 の 意 図
1 素材を知る	10	<p>〈次の形を2つのグループに仲間分けしよう〉</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・大きい仲間（アエキ）と小さい仲間（イウオカ） ・平べったい形（エカオ）とどっしり形（アイウキ） ・さんかくの仲間としかくの仲間に分けるといい 	<ul style="list-style-type: none"> ・形ということから、大きさで分ける考えなどはのぞく ・根拠の乏しい考えなどはのぞいていく
2 課題を確認する	25	<p>さんかくグループとしかくグループに分けよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・イウオキとアエカ 〔㊦の形は「さんかくグループ」だ〕</p> <p>・さんかくに見えるよ ・かどが3つだ</p> </div> <div style="font-size: 2em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・イウオカとアエキ …… 〔㊦の形は「しかくグループ」だ〕</p> <p>・へりが4つあるよ ・かどが4つだと思う</p> </div> </div> <p>〈かどのことをはっきりさせよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凸形だけかどがはっきりしているが凹形の場合はむずかしい  ・2本の直線を合わせて かどのことを調べるとよい ・かどは 凸形や凹形でも 直線2本で決っている ・直線の数で さんかく しかくが分けられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「さんかく」「しかく」で分けられるという意識にさせる (安定の場) ・見た目で さんかくなのかしかくなのかという意識にさせる (ゆれの場) ・見た目だと人それぞれでバラバラなので はっきりさせようという意識にさせる (追求の場) ・かどの見方を直線ではっきりさせれることに気づかせる
3 まとめる ・三角形・四角形を知る	10	<p>さんかく（イエオ）としかく（アエカキ）だ 囲んでいる直線の数で はっきり分けれた</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・へん3本 頂点3この時 三角形という 	<ul style="list-style-type: none"> ・ア～キについて 辺 頂点を確認め 三角形 四角形を定着させたい

1 単元名 ぼく・わたしのおべんとう—おかずしらべ—

2 目 標

- ・ 自分のお弁当を見て、いろいろなおかずが入っていることがわかり、その材料に目を向けることができるようにする。
- ・ お弁当のおかずの材料をどこで買うのかを調べながら、マーケットやお店に興味や関心をもたせる。
- ・ お弁当のおかず調べを通して、自分の食生活に目を向け、それが家族や様々な人たちのおかげで成立していることに気づかせる。

3 指導にあたって

- ・ この単元は、子どもたちにとって親しみのあるお弁当のおかず調べを通して、自分たちの食生活に目を向けさせると同時に、おかずの材料を買う、マーケットや市場、小売店等への興味や関心をもたせるねらいがある。また、自分の食生活が様々な販売店と家族の関係において成立しているという社会的認識や、いつも自分のために栄養のバランスを考え、工夫をこらしてお弁当を作ってくれる家人への感謝の念を育てる教材であると考える。
- ・ 子どもたちは、週二回のお弁当を楽しみにしているが、普段は食べることに夢中で、おかずの材料が何であるか、それらの材料をどこから買ってくるのかを考えたことは、あまりないだろう。つまり、食生活への関心はあっても、どんな道筋をたどって店の品物がおかずとなって、自分の口に入るかについて理解していないだろう。
- ・ まず、自分の持ってきたお弁当のおかず調べを導入とし、それを十分観察し、絵を描かせる活動を通して、おかずやその材料に目を向けさせる。そして材料をどこで買うのかを実際に家人に聞き、学級全体では、それぞれの家庭で異なっていることを具体的に知らせていきたい。

4 単元計画（総時数9時限＋課外）

主 な 活 動		時 数
一 次	<div>おべんとうのおかずはなにかな</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のお弁当の中身をスケッチする ○ おかずには生のものもあるぞ <div>おかずのざいりょうはどこで買ったのだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家人に買ったところを聞く ○ いろいろなところで買うんだな 	2 (本時 1/2)
	<div>学校の近くのマーケットを見に行こう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見学に行く ○ ぼくたちも野菜を買ってみたいなあ <div>マーケットへやさいをかいに行こう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで予算を決め 選び 支払いもする ○ 食べてみたいなあ <div>なまやさいをたべよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな風に並べるか設計図を描く ・ 切って食べる ○ 楽しかったなあもっと食べたいなあ 	4 + 課 外
三 次	<div>やさいをつくってみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ なえを植える ○ どんな実がなるかな ○ どんな世話ができるかな 	4 + 課 外

5 本時の学習（一次の1時）

授業の教室（2の2）

ねらい 自分の弁当をスケッチすることを通して、お弁当のおかずは何が入っているかわかる。

（内容選択の視点④⑥⑩）

本時のねがい 子どもたちはお弁当を楽しみにしているが、ふだんは食べることに夢中で、おかずが
に向けて どんな材料で、どのように調理されているかを考えたことはない。そこで、自分が持ってきたお弁当をスケッチする活動を通して、おかずの材料にはいろいろなものがあることに気づかせる。さらに、それぞれの家ではお弁当を自分のために、工夫をこらして作っていることにもふれたい。

授業過程

中心活動	配時	教師の働きかけと児童の活動	教師の意図
1 自分のお弁当をスケッチする	20	<p><今日のお弁当は何か></p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみだなあ ・わあ うれしいなあ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">おべんとうをスケッチしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今日のごちそうだなあ ・お肉や野菜がいろいろ入っている ・おもしろい形に切っているよ ・色がきれいだね ・おいしそうだなあ ・早く食べたいね 	<ul style="list-style-type: none"> ・色どり 切り方 材料などができるだけわかりやすく描けるようにしたい ・調理されているおかずと生のままのおかずがあることに気づかせたい
2 お弁当の材料について話し合う	10	<p><おかずのなまえ わかるかな></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生野菜—きゅうり トマト レタス キャベツ ・ごはんはお米 肉 魚 ほうれんそう ・ハンバーグ（ウィンナー かまぼこ）は何でできているかわからないなあ ・フライにしてあるのは 食べてみないとわからないなあ 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前＝材料というとなえ方をさせたい ・見てわかる範囲内で発表させる
3 おかずの材料をどこで買うのかの予想を出し合う	10	<p><おかずはどこからかってきたのかな></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも近くのマーケットへ行っているよ ・いっしょに行ったこともある ・近江町市場へ行く時もあるなあ ・肉はどうか 魚はどうか…… ・野菜は自分の家の畑で作っているけど…… ・よくわからないなあ <p><家で弁当の材料をどこで買ったのか聞いてみよう></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の生活経験を土台にして意見や予想を自由に出させたい ・わかっていること よくわからないことをはっきりさせたい
5 本時のねがい	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お弁当にはいろいろなおかずが入っている どれもお母さんがいっしょけんめい作ってくれたんだね</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・家人が心をこめて作ったことにもふれたい

1 題材名 ゆめのつばさ（造形あそび）

2 目標

- ・ 自ら材料を集め、ゆめのつばさを作り、それを身につけて遊ぶことを通して、身近にあるものに目を向け、それらを用いてものを作る楽しさを味わわせる。
- ・ 色々な材料の中から、自分のイメージを表現するために最も適した材料を見つけ出す力を育てる。
- ・ 自分の作品に愛着を持って、最後まで根気強く作り上げようとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 身のまわりにあるものに目を向け、それらを利用して作る楽しさを味わわせることをねらった題材である。自分のイメージしたゆめのはねを作るために必要な材料を探し集めるところから始めたい。材料を求めて身のまわりのものに目を向ける中で様々な素材との出会いが期待できる。また、低学年の児童にとって、作ったつばさを身につけて鳥に変身することは大きな楽しみであり、その中で新たなイメージも広がり、色々な工夫を試みる契機となるだろう。
- ・ 児童は、これまでに工作用紙や色画用紙で面や帽子づくりを経験してきた。また、休み時間におり紙や切りおしの画用紙で紙工作を楽しむ児童も多い。しかし、全身を飾ること、イメージに合わせて自ら材料を探し集めてくることは初めての経験である。
- ・ 児童は、紙、布、ビニールなど色々な材料を集めてこよう。それらを利用してゆめのつばさを作る過程では、ハサミの使い方、配色の効果、接着の仕方などの学習も含まれてくる。しかし、本題材ではそれらの知識・技能の獲得よりも、まず色々な材料を使ってみよう、使い方を工夫してみようという姿勢を大切にしたい。そうすることで身近な材料を活かす喜び、作る中で新たなイメージを広げる楽しさを味わわせることができると考えた。

4 単元計画（総時数8時間）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>ゆめのとりがいる森を作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ お話を聞いて 森の様子を考える ・ 木・草・花などを作ろう 	2
二 次	<div>ゆめのとりになろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんなつばさにしようか考える ・ つばさを作るための材料を集めよう ・ つばさを作ろう もみ紙を作る つばさの形に切りとる ・ つばさを飾ろう 集めた材料ではねを作る はねを並べて接着する つばさの飾りをつけ加えて 仕上げる ・ つばさ以外にも飾りをつけよう 尾・頭なども飾ってみる 	5 (本時4/5)
三 次	<div>ゆめのとりに変身!</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ つばさやそのほかの飾りを身につけて遊ぼう ・ ゆめの森のファッションショーをひらこう 	1

5 本時の学習（二次の4時）

授業の教室（2の3）

ねらい 自分のイメージに合った材料をえらんで、自慢の飾りのあるつばさを作ることができる。

意識の変容 色や模様を工夫することがゆめのつばさ作りだと考えている児童に、つばさには厚みや暖かみもあることに気づかせることで、まだ使っていない材料も活かして自慢の飾りをつけてみようという意識を持たせたい。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 自分のつばさの良さを見つける	5	<p>〈みんなのつばさは どこが自慢かな〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろんな色のはねをならべたよ ・ かわいいもようがついているのよ ・ はねの形がかわっているよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ きれいな色のはねやおもしろい形のはねを並べて すてきなつばさになったよ という思いにさせる（安定の場）
2 本時のめあてをつかむ	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もっとすてきなつばさにしよう</p> </div> <p>〈ほんとうのとりのつばさと比べてみよう〉</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> <p>ほんとうのつばさ</p> <p>同じ色のはね 同じ形のはね はねがいっぱい ふわふわ</p> </div> <div style="margin: 0 10px;"> <p>⇔</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> <p>自分が作ったつばさ</p> <p>いろいろな色のはね いろいろな形のはね はねが少ない うすっぺらい</p> </div> </div> <p>・ 自慢の飾りを考えないと勝てないよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥の写真を見せ 自分たちが作っているつばさと比較させることで もっと素敵なたつばさにしたいという思いを持たせたい（ゆれの場）
3 自慢の飾りをつける	30	<p>〈いろいろな材料で 自慢の飾りを作ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はねの枚数をふやそう ・ はねは重ねてはったほうがいいぞ ・ ふわふわさせたいから紙をカールさせてはろう ・ 強そうな飾りをつけたいから アルミホイルを使ってみよう ・ ビニールテープでおしゃれなつばさにしよう ・ ほかに使える材料はないかな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほかの鳥に負けない自慢の飾りを作るために いろいろな材料の中から自分のイメージに合った材料を選ばせたい（追求の場） ・ 材料を探す中で生まれる新しいイメージも大切に し 創作意欲を高めたい ・ いろいろな材料が経験できるように自由に使える共同の材料箱 材料に適した接着剤も用意しておく
4 本時のまとめをし あとかたづけをする	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>いろいろな材料で すてきな飾りがいっぱいできたよ</p> </div> <p>〈あとかたづけもがんばろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まだ使える材料はたから箱に入れておこう ・ 接着剤のふたはしっかりしめよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみと使える材料の区別もできるように育てたい

1 題材名 軽くて柔らかい感じ（表現運動）

2 目標

- ・ 日常生活では表わすことの少ない、軽くて柔らかい動きを、身近な題材になりきることを通して、自己の体で工夫しながら表現する楽しさを味わわせる。
- ・ 友だちの動きを見て、自分の動きのイメージと関連づけて考え、自己の動きに取り入れる力を育てる。
- ・ はずかしがらず、みんなの前でも動き、友だちの動きを素直に認める態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 本単元では、日常生活で表わすことの少ない動きを、腕を大きくふったり広げたりし、体をかたげたりまわしたりして表現する満足感を味わえる。また、いろいろな方向へ早く走ったり、ゆっくり歩いたりすることにより、工夫する楽しさが味わえる。しかし、自分のイメージする動きと実際の動きが違うというギャップもある。
- ・ この学年の子ども達は、1・2年の時、模倣遊びで、動きをまねする動物や乗物になりきることは十分経験してきた。しかし、本単元では、たんぼの形を模倣する部分と、自ら飛んでいる状態を創造する部分がある。動きたいのにどう動いてよいかわからなくなる子どもが出てくることも予想される。
- ・ そこで、友だちの動きを見ることを手がかりとして、自分に取り込もうとする意欲を授業に生かしたい。それには、教師の言葉がけを中心とし、楽器の音や音楽を使い、子どもの表現したいという意欲を持続させるようにしたい。友だちの動きをまね、自己の表現を広げることで、自己の動きがより深まると考えている。また、本題材に入る前に、リトミックで体の可動範囲を広げておくことで動きを創造する追求力の手がかりとなると考え、指導した。

4 単元計画（総時数4時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<p>〈軽くて柔らかい感じのするものにはどんなものがあるかな〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥の羽 シャボン玉 風船 雲 たんぼの種などもあるよ <p>シャボン玉が飛ぶところを表わそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 軽い感じを出すためには、つま先立ちで走ったり歩いたりすればいいな <p>たんぼの種の軽く柔らかく飛ぶところを表わそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体をひねったりかたげたりすると柔らかい感じが出せるよ ・ くるりと回ったり いろいろな方向に走ると軽い感じが出せるぞ ・ 強い風や弱い風を考えて とばされ方を変えたとおもしろいよ ・ 風によってたんぼの種の飛ばされ方も 変える方がいいよ 	3 (本時2/3)
	<p>班ごとに「〇〇〇の旅」の発表会をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つま先立ちして、体を大きく動かせば 軽くて柔らかい感じが出せるよ ・ 班で仲良く話を作れたぞ ・ マナーよく他の班の表現を見て 良いところを見つけられたよ 	

5 本時の学習（一次の2時）

授業の教室（体育館）

ねらい たんぼの種の軽くて柔らかい感じを、友だちの動きを見て動きを取り入れていく中で、手や体を大きく動かし、つま先立ちで歩いて表現することができる。

意識の変容 手を広げて走っていればよいという意識から、自分の動きは軽くて柔らかい動きができていのかというゆれを通して、体をひねったり走る方向を変えたりして、大きく動けばよいという意識に深化させる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 準備運動をする	5	・ジンギスカンのレクリエーションダンスで体をほぐしながら楽しくおどる	・おどりに慣れたダンスで 心も体もほぐしたい
2 課題を知る	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> たんぼの種の軽く柔らかく飛ぶところを表わそう </div> ・手を上へ上げたらかたができたよ ・飛ぶのは走ればよいよ 〈種がじくにくっついているよ そよ風がふいてゆれているよ〉 ・手を広げたままゆれたらできるよ 〈またそよ風が吹いてじくからはなれるよ〉 ・走って行けば とばされたところを表せられるぞ 〈タンバリンの音に合わせて軽く柔らかくとぼう〉	・自分なりの動きで 軽くて柔らかい感じを表せたよという意識にさせる（安定の場）
3 動きを深める	25	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> 手を広げ つま先立ちだが ただ走り回る動き </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;"> ⇔ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> つま先立ちで走り腕や体をくねらせたりゆらしたりする動き </div> </div> ・くるりと回ったりゆれたりするとおもしろいぞ ・手や体を大きくゆっくり動かしたらよさそうだよ 〈柔らかい感じを出している友だち 軽い感じを出している友だちの動きを見つけよう〉 ・大きくゆっくりかたがると柔らかい感じが出るぞ ・飛ぶ方向をいろいろ変えると軽い感じが出せるよ ・くるりと回ったり 走る速さを変えると変化があって楽しいよ 〈友だちの良い動きを自分にも取り入れよう〉 ・動きを工夫すると楽しく表わせられるよ	・自分とは違う友だちの動きを見て 自分の動きは柔らかな、もっと動かせるところがあるのではないかという意識にさせる（ゆれの場）
4 本時のまとめをし 次時の課題を知る	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 体をかたげたり走る方向を変えたりして たんぼの種を表わすことができたよ </div> ・この次の風のふき方によってたんぼの種はどう飛ぶか表わしてみよう	・自分とは違う友だちの動きを見て 自分の動きは柔らかな、もっと動かせるところがあるのではないかという意識にさせる（ゆれの場） ・柔らかい感じはどこを動かすと良いか 軽い感じはどんなことに気をつけると表わせられるかを 友だちの動きを限定して見させることで 自分のイメージに合った動きを見つけ自己に取り入れさせたい（追求の場） ・はずかしがらずに自分の表現を見せられる態度を養う ・動きの深まった部分がどの友だちから取り入れたのか確認する

1 主題名 ふけるかなりコーダー（メリーさんのひつじ、かっこう、ぶんぶんなど）

2 目標

- ・ ソラシドレの5音を使い、やわらかなタンギングでポルタート奏ができるようにする。
- ・ タンギングの舌の使い方、5音の指使い、息の使い方に気をつけ、正しい奏法になっているかどうかを聴き分ける力を育てる。
- ・ 友だちの演奏や範奏などに、注意深く耳を傾けようとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ リコーダーは、わずか8コの穴からすばらしい音楽が生まれる。一学期の間に、4つの穴を使い、5音までふけることをめあてにしている。「メリーさんのひつじ」は、4音からなり、児童に親しみのある曲である。ひつじそのものの様子の変化に結びつけることにより、1つの表現がそれに合った様々な表現に生まれ変わる。このことは、3年の児童にとって、楽しい学習となり、自然にダンギング、フィンガリング、ブレスなど、正しい奏法が身につくようになる。
- ・ リコーダーを手にして1カ月あまり。児童は、やわらかなタンギングに気をつけ、4つの穴をどうにかふさげるようになり、大変意欲的に取り組んでいる。しかし、どの曲もポルタート奏で演奏することで、曲の持つイメージを表現しているつもりである。また、同じ曲でも、違った様子を表現すると、曲趣が変わることは、まだ知らない。
- ・ まず、やわらかなタンギングで、4つの穴を上手にふさぐことができ、ブレスコントロールができることが大切である。次に、同じ曲ではあるが、違った様子を表現している演奏を聴かせ、どんな様子かを想像させたり、また、ふき方の秘密をさぐったりさせたい。様子の変化がその基となる要素（リズム、音の切り方のばし方）によって、聴き分けることが重要である。様子の変化を表現することにより、曲趣が変わる楽しさを十分味わわせたい。

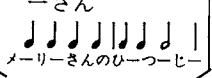
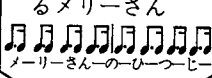

4 単元計画（総時数8時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>「メリーさんのひつじ」を演奏しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ やわらかな毛をした かわいいひつじについて話し合う ・ タンギングに気をつけ ソラシドレの4音をふく ・ かわいいひつじを思い浮かべながら楽しくふく 	2
二 次	<div>楽しいメリーさんの1日を演奏しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴き 様子を想像する ・ リズムの違いや 音の切り方のばし方の違いを聴き分ける ・ 他の違った様子（かけっこ ダンスなど）を表現する ・ つなげてメドレーで演奏する ・ グループごとに他の様子を表現した表現をつけ加えたり 順番を変えたりして工夫し 発表する 	2 (本時1/2)
三 次	<div>「かっこう」を演奏しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ かっこうが鳴いている様子を想像しながらふく ・ 音の切り方のばし方を工夫し フレーズごとに曲想表現の工夫をする <div>「ぶんぶん」を演奏しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2フレーズのくり返しの部分の表現を工夫し 気持ちよく遊んでいる様子を表現する 	4

ねらい リズムの違いや、音の切り方のばし方の違いを聴き分けることにより、「メリーさんのひつじ」のいろいろな様子を表現することができる。

意識の変容 やわらかなタンギングでポストスタート奏ができ、かわいい「メリーさんのひつじ」が表現できたという意識に安定している児童に、ある様子を表現していることが聴いて想像できるような演奏を聴かせることにより、リズム音の切り方のばし方によっていろいろな「メリーさんのひつじ」が表現できるという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 「メリーさんのひつじ」を演奏する	5	<p>〈「メリーさんのひつじ」をふこう〉</p> <ul style="list-style-type: none">・やさしい感じでタンギングできたよ・指もまちがえなかったよ・かわいいメリーさんの感じだせたよ	<ul style="list-style-type: none">・情景を想像しながら 気持ちをこめて演奏させる・かわいい「メリーさんのひつじ」が表現できたという満足感を持たせる（安定の場）
2 課題をつかむ	10	<div>楽しい「メリーさんのひつじ」の1日を演奏しよう</div> <p>〈ひつじのメリーさんは 何をしているのだろう〉</p> <div><div>自分たちの演奏</div><ul style="list-style-type: none">・かわいいメリーさん<div>メリーさんのひつじー</div></div> <div>⇔</div> <div><div>範奏テープの演奏</div><ul style="list-style-type: none">・スキップをしているメリーさん<div>メリーさんのひつじー</div></div>	<ul style="list-style-type: none">・スキップリズムの範奏テープを対峙させる・曲が同じなのに 違った様子を表現していることに驚き演奏してみたいという意識になるであろう（ゆれの場）
3 いろいろな様子を表現する	23	<p>〈他に何をしている様子がふけそうかな〉</p> <ul style="list-style-type: none">・かけっこ・ダンス（ワルツ）・行進  <p>メリーさんのひつじー メリーさんのひつじー メリーさんのひつじー</p> <p>〈ふき方の秘密は何だろう〉</p> <ul style="list-style-type: none">・かけっこは細かくタンギングしてるよ・ダンスは はじめの音をのばして次の音は短かくね・行進曲は 1つ1つの音を短かく切るといいよ	<ul style="list-style-type: none">・タンギング（追求の手がかり）を手がかりにして 追求が始まる（追求の場）・児童の実態に応じて 表現の種類に限られてくると思われるが 少ない場合は教師が伴奏型を変えたり リズムを入れたりする・その様子を表現するために 1つ1つの音をどのようにふいているか聴き分けさせる
4 まとめの演奏をする	7	<p>〈全部つなげて 楽しいメリーさんの1日にしよう〉</p> <div>リズムや 音の切り方のばし方を変えると いろいろな「メリーさんのひつじ」の様子を表現することができて 楽しいメリーさんの1日になったよ</div>	<ul style="list-style-type: none">・それぞれの様子を想い浮かべながら 心をこめて 表情豊かに演奏させる

1 単元名 市のみどりしらべ

2 目 標

- ・ 緑の樹木は、私たちの生活環境を守る大事なはたらきをしていることに気づかせ、緑を守り、ふやす市や市民の努力の大切さを理解させる。
- ・ 地図や資料をもとに、緑のはたらきや人々の緑を守り、ふやそうとする努力を具体的に与えられる力を育てる。
- ・ 自分の考えを持ち、友だちの考えと比べながら聞くことによって、自分の考えをより深めようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 便利で快適な暮らしをもとめ、町は再開発の波でビル化が進んでいる。一方、郊外に目を移せば、住宅や工場、道路建設のために、山はけずられ、どんどん田畑はつぶされている。このような開発のエネルギーのなかで、森の都とよばれる金沢でも、人々に安らぎを与え、環境を保全してきた緑は、だんだんと失われようとしている。本小単元では、このような自分たちの住む環境に対して関心を高め、緑の大切さに気づかせ、その保全のために市や市民が努力していることをつかませることをねらっている。
- ・ 児童は、毎日の通学のなかで、町の様子や緑のあり様についてはある程度目を向けていると思われる。しかし、その目は、意識されたものとなっておらず、町を住環境として考えてみようとしたり、緑の役割や分布について注意をはらおうという意識は弱いと考える。
- ・ そこで、児童が興味や関心を持ちやすい動物を登場させることによって、緑の現状や分布をとらえることから学習を始めることにした。また、小鳥や小動物のために緑を守ろうという人々の存在を知することは、児童に動物の住めないような環境は、人間にとっても住み良い環境とはいえないことに気づかせ、緑の大切さについても十分考えを深めさせれると考える。

4 単元計画（総時数7時限+課外）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>県庁にタヌキが出たのは どうしてか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近くの城跡は 緑が豊かだ ・ 小立野のガケは 山から緑が続いている ・ 金沢は 町の真ん中でも緑が豊かだ ・ タヌキは この緑を利用して生活している <div>道路建設に反対し緑を守ろうとするのは</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 便利な暮らしのために道路は 必要だ ・ 緑は 心をなごませる 空気をきれいにする 町中の騒音をふせぐ etc ・ 人間が快適に暮らすためには緑は 大事だ 	2 (本時 1/2時)
	<div>市の緑の多い所 少ない所を調べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山や海べでは緑は 豊かだ ・ 片町や武蔵等町中は緑は少なくビルが多い ・ 町中でも城跡 兼六園 中央公園 犀川べり 寺町等では緑は多い <div>今も昔も市の緑の様子はいっしょかなあ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町中はビルが少なく 緑が今より少し多い ・ 昔は 田畑はすごく多かったのだ ・ 郊外の緑は家や工場 道路のために減った 	
三 次	<div>市や県の緑を増す計画や活動を調べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑化の市民への宣伝 ・ 緑化協定 ・ 公園や緑地づくり ・ いろいろ緑を守り ふやす努力をしている <div>文や図 絵で金沢の緑をまとめよう</div>	3+課外
	<div>苗木配布</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 街路の緑化 ・ 百年木運動etc 	

5 本時の学習（一次の1時）

授業の教室（3の2）
協議会場（4の1）

ねらい 私たちの住む市は、町の真ん中に野生の動物が住むくらい、緑が豊かであることに気づく。
意識の変容 県庁周辺の町中は、タヌキが住める環境ではないという意識を、タヌキ出没地図によって意外に出没しているぞというゆれをおこし、自分たちの住む町は野生動物が町中に住めるくらい緑が豊かなんだという意識に変容させる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 本時の課題をつかむ ・ 県庁に出没したタヌキ	10	町の真ん中に野生のタヌキが出てくるのは 私たちの住む町がどんな様子だからか考えよう (映像資料) 県庁にタヌキが出た ・ 何をしているのだろう ・ 人が 何か動物を追っかけているぞ ・ タヌキが 出たのだ どこかな ・ 金沢の町の真ん中の県庁に出たのだ	・ 市の緑の現状 分布をしらべるとっかかりとして 県庁に出没したタヌキをとりあげる ・ 市の真ん中に出没したタヌキに児童は 大きな驚きと関心をよせ どうしてこんな所に出没したのだろうかと思考を開始するだろう ・ 児童は解決のための手がかりを十分もっておらず 解決には到らないと予想する ・ 児童の意識は 原因はわからないが出没は大変めずらしいことだと安定する (安定の場)
2 課題について話し合う ・ タヌキ出没地図	15	く 町の真ん中にタヌキが出たのは どうしてか > (山から出てきた) <=> (飼われていたのが逃げた) ・ タヌキは山にいるぞ ・ 山から遠い ・ まちがって出てきた ・ 誰か飼っていたのだ ・ エサを求めて町へきた ・ 動物園から逃げたのだ ・ 町はタヌキが住める状況ではなく出現はめずらしい (地図資料) タヌキ出没地図 ・ 案外よくタヌキが出るのだなあ ・ 飼われていたタヌキが逃げ出したのではなさそうだ ・ 山から遠いけど こんなに出るのはどうしてかなあ	・ 意外なタヌキ出没の多さとその地点の片よりに どうしてかとゆれる (ゆれの場) ・ 野生のタヌキが出没するわけをまわりの環境の様子を追求することによって考えさせる (追求の場)
3 タヌキの出没するわけをしらべる ・ タヌキの出没地の様子	15	タヌキがよく出る場所に 何か秘密があるのかなあ (写真資料) 空から見た金沢 ・ タヌキが出た近くには木が多いぞ ・ 山の方から緑の帯が続いているぞ (映像資料) 城跡の森 本多の森 国立病院裏 ・ 本とうの山のように木が茂っているぞ ・ 町の真ん中でも緑が多いなあ ・ タヌキは 山から緑の帯づたいに町へやってくるのだ ・ タヌキは 町中の林の中で生活しているのかもしれない	・ 写真や映像をもとに まわりの環境（緑が多い）の様子を具体的にとらえさせる (追求力) ・ 緑の様子や分布の姿からタヌキの出没できるわけを考える
4 本時のまとめ	5	私たちの住む市では ときどき 野生のタヌキが町の真ん中に出てくるほど 緑が豊かだ	

1 単元名 わたしの体

2 目標

- ・ 人の体を観察したり、他の動物と比べたりして、人の体には目、耳、皮膚など生きるのに役立つ感覚器官のあることや、骨や筋肉の働きによって体を動かせることを知る。
- ・ 事実の観察からその理由を考え、確かめるための活動（実験）を、観点を決めて行なっていけるという一連の科学的解決法を育てる。
- ・ 互いに意見を聞き合い、その良い所を自分の考えに生かしていこうとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 外から観察しやすい感覚器や骨格、筋肉の働きなどを、体感を生かして調べることにより、その役割や仕組みを知る。そして、改めて人の体の巧みなつくりに気づかせると共に、生命あるものを大切にしていこうという気持ちも育てたい教材である。
- ・ 子ども達は1、2年の生活科で、自然や社会との関わりの中で「自分」を見てきているが、生物としての学習は初めてである。また、この頃の子ども達は体も成長し活発で、筋肉や感覚器を充分使う活動を好むが、これらが日常生活にどれ程役立っているかの自覚は殆んどないし、その巧みな働きへの関心も低い。
一方、学習態度は活発だが、他の意見を自分の考えに生かすことが不十分である。
- ・ まず自分の体に興味を持たせるため、うでずもう遊びから入り、強さの秘密を探る中で筋肉と感覚器の存在に気づかせる。次に、筋肉の働きを体感から調べさせ、腕から全身、そして他の動物と比較させることにより、骨と筋肉の役割を理解させる。感覚器としては目と耳、皮膚を扱い、各々の事実の観察（目が2つあることなど）から、その理由を考えさせ、器官としての巧みなつくりに気づかせたい～そして、単元を通して生物としての人の体のすばらしさに気づかせ、生命を大切にしようとする心情も育てていきたい。

4 単元計画（総時数8時限）

主 な 学 習 活 動		時数
一 次	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなでうでずもう大会をしよう チャンピオンが強いのはどうしてかな ・ 力が強いから（うでが太い 筋肉ある…） ・ 相手の動きをよく見ている ・ コツを知っている（手前に倒す…） 力を入れた時のうでのきん肉を調べよう ・ 腕の上の筋肉は曲げると縮んで固い ・ 腕の下側の筋肉は曲げると伸びて柔かい ・ 腕のもけいを作って実験しよう ・ 腕は骨と それに付く筋肉の伸縮で動く 人の体の骨ときん肉のつき方を調べよう ・ 外から手でさわって調べてみよう ・ よく動かす所は たくさん筋肉がある ・ 他の動物も調べて比べてみよう 	3
	<ul style="list-style-type: none"> 周りのようすを知るのに役立つものは？ ・ 目 耳 皮膚 鼻 舌など 目が2つあって 良いことは何だろう ・ 2つの方がよく見え 見える幅も広い ・ 両方で見ると遠い近いがはっきりする 耳の役目は何だろうか ・ ウサギの耳が大きい理由を考えよう ・ 音の聞こえ方と方向を調べてみよう 皮膚の役目は何だろうか ・ 指先の感覚の鋭さを調べてみよう 	4 (本時2/4)
三 次	私たちの体についてまとめよう	1

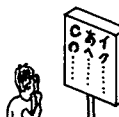
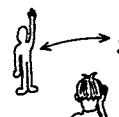
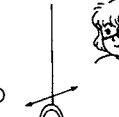
5 本時の学習（二次の2時）

授業の教室（第1理）
協議会場（第1理）

ねらい 私たちの目が2つあるのは、1つのときより良く、広く見え、遠い近いが分かって便利なためだという事実を、各々のねらいに合った実験を行なうことにより、見つけることができる。

意識の変容 目が2つあると、1つより良く、広く見えて便利だとは思っていない子ども達の意識を、遠近感も分かるのではないかとゆらす。そこで、この3つの予想を、各々の狙いに合った実験方法を工夫させて調べることにより、遠近感も、目が2つあることの大切な利点であるという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 課題を把握する	4	<p>今日は目のはたらきについて考えてみよう 〈目は 何のためにあるのだろう〉 物を見るためだ 見るなら1つで良いはずだ どうして目は2つあるのだろう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 目が2つあって 良いことは何だろう </div>	<p>・目は「物を見るためにある」という意識に落ち着かせる。 （安定の場）</p>
2 予想をする 試す 試し合い	10	<p>試しながら 考えてみよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> よく見える ・視力検査の経験 ・1つケガしても大丈夫 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 広く見える ・片目だと半分程しか見えない </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 遠近も分かる ・片目だと良く分からない </div> </div> <p>3つの理由が合ってるか 実験で調べてみよう</p>	<p>・試させながら予想させる ・生活経験からの予想を大切にしたい ・遠近感について出なかったら片目で両指先をつける実験をさせ 気づかせる ・良く広く見えるは良いが遠近感はどうかなという意識と全部良いという意識の間にゆれを起こす （ゆれの場）</p>
3 実験により 検証する グループ 実験	20	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  視力測定器で調べる （よく見えるか） </div> <div style="text-align: center;">  どこまで見えるか調べる （広く見えるか） </div> <div style="text-align: center;">  片目で2つをそろえる （遠近分かるか） </div> </div>	<p>・ねらいに合った実験をしているか 各グループの助言や指導をする （追求の場）</p>
4 結果を話し 合いまとめる 結果の発表と話し 合い	10	<p>両目の方がよく見える 両目の方が広く見える 片目だと余り入らない</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>どれも 目が2つある良い点だった どれか1つでもなかったらどうかな どれがなくなっても 生活に大へん不便だ</p> </div>	<p>・視力測定器 ピンポン玉などを置いておき ねらいに合った実験を自分たちで考え 器具を選択できる力を育てる ・遠近感もあることを確認する ・生活との関わりを考えさせる</p>
生活との 関連 5 次時の課題 をもつ	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>私たちの目が2つあることによって 良く、広く見え、加えて遠い近いも分かる。目が2つあることは 私たちの生活に大へん役立っている。</p> </div> <p>次は 耳の役目について考えてみよう</p>	

1 単 元 名 火事をふせぐ

2 目 標

- ・ 火災から人々の生命や財産の安全を守るために、関係の機関が相互に協力体制を組み、いつ、どこで火災が発生しても、その被害を最少限にいとめる消火体制が作られていることや、日常も防火にそなえて活動していることを理解させる。
- ・ 問題解決に向けて、資料などをつかんだ事実をもとに多面的にとらえる力を育てる。
- ・ 自分の考えの根拠は何かをはっきりさせて友達の考えと比べることを通して、自分の考えをより確かなものにしていこうとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 火災は、人々のそれまでの営みを一瞬にして文字通り「灰」と化してしまう恐ろしい災害である。本単元は、火災から人々のくらしを守るために、消防本部を中心に関係する諸機関が相互に協力体制を組んで万一の時に備えているほか、日常も訓練や点検、市民への呼びかけなど努力している事の理解を深めさせるものである。
 - ・ 3年生もいる複式学級の実態を考えると、火災や消火活動は、他の災害に比べて身近なものであり、見学や作業を取り入れれることから適切な教材であろう。また、火事の消火活動に関する知識も豊富ではあるが、それが組織的、計画的に行われているということには気づいてはいないし、事実を多面的にとらえる力は十分ではない。
 - ・ そこで、本単元では、まず火事の恐さとともに、消防車が短時間で出動できるシステムを理解させた上で、実際の火事現場での消火活動を、ポンプ車のしくみと水源に目を向けてとらえさせたい。そしてその際、実物や写真、見学などによってより具体的に事実をつかませることを重視したい。
- さらには、身近な学校や家の消火施設を見直したり、火災の原因を追求させる中で、防火に対する関心・態度を一層深めたい。

4 単元計画（総時数10時限＋課外）

主 な 学 習 活 動		時数
一 次	<div>火事による被害とはどんなものだろう</div> <div>・ 火事は怖い ・ 早く通報することが大切だ</div> <div>119番にかけるとどこにつながるのかな</div> <div>・ 消防本部につながるのか</div> <div>・ 本部からいろいろな所に連らくがいくんだ</div> <div>・ 短い時間で消防車が来れるように市にはたくさんの消防署や消防団があるんだな</div>	3
	<div>火を消すのに必要な水はどこにあるのか</div> <div>・ 消火栓があったぞ たくさんあるなあ</div> <div>・ 川や池 学校のプールの水も利用するのか</div> <div>ポンプ車にホースは何本つんであるか</div> <div>・ 20本もつんである</div> <div>・ 大きな火事などで足りなくなったらこまる</div> <div>ポンプ車をどこに止めたのだろう</div> <div>・ 必ずしも現場近くの消火栓のそばではない</div> <div>・ いろいろな条件を考えて止めている</div> <div>学校が火事になっても早く消せるかな</div> <div>・ 消水器や消火栓がいくつもあるぞ</div> <div>・ 広坂消防署もすぐ近くにあるよ</div>	5 (本時3/5)
三 次	<div>消防署の人達はふだんは何をしてるのか</div> <div>・ 見学してこよう</div> <div>・ 消火訓練や点検活動も大切な仕事だな</div> <div>私達はどんなことに気をつけたらよいか</div> <div>・ 出火原因で火遊びも多い</div> <div>・ 自分の家の消火施設も見直そう</div>	2＋課外

5 本時の学習（二次の3時）

授業の教室（3・4年複式）

ねらい 実際のホースの使い方を知ることにより、大きな火災などの場合も考えて20本ものホースをつんでいることを理解する。

意識の変容 消火栓が随所に配置されている事実から、児童はホースは多くは必要ないという意識を持つ。そこで、実際には20本ものホースをつんでいる事実によってゆれを起こし、大きな火事など万一の場合のためにたくさんホースをつんでいるという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 素材であるホースを目で確かめる	5	(20mのホースの実物1本を提示) ・うわあ長いなあ ・けっこう重いぞ ・内側は水がもれないようにゴムになっているんだな 〈ホースは1本だけでだいじょうぶかな〉 ・1本じゃ足りないよ ・何本かつなぐんだ	・教室の端から端を往復できるくらい長いことを示す
2 課題をつかみ予想する	15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> ホースは何本くらいつのであるのだろう </div> ・消火栓の配置図から考えてみよう <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> そんなにたくさんは つんでないだろう 7、8本くらい </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;"> ⇔ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 20本つんでいる ポンプ車によってち がうが18本はある (消防署の人の話) (スライドで確かめる) </div> </div> ・消火栓から消火栓まで 100m もなかったよ	・消火栓の配置図から そう 多くは必要ないという意識に 落ち着くだろう（安定の場） ・20本もの本数は児童からは 出ないと考えられるので 消 防署の人の話によってゆれを 起こす （ゆれの場）
3 予想以上に つんであるわ けを考える ・資料をもとに 自分の考えを見 直す ・消防署の人の 話で確かめる	20	〈どうして20本もつのであるのだろう〉 ・長くつなげるんじゃないかな ポンプ車はたくさん 来るから遠くの消火栓も使うこともあるのだろう ・1台のポンプ車に何本かつなげれるんじゃないかな ・もし大きな火事になって足りなくなったら大変だ 資料①消防署の人の話（テープ） 『ポンプの力を考えると10本以上は長くつなげない』 資料②ポンプ車の4か所の放水口（スライド） 資料③火事現場でのホースのひき方を表した図 ・1台のポンプ車に4か所もホースをつなぐ所がある ・別のところへホースをひく時には新しいホースを出 すんだな その方が速いからだ ・大きな火事になったらホースもたくさんいるんだな 『万が一の時のために備えている 大きな火事のほか 続けて火事が起きた時のことも考えている』	・①～③の資料から 20本も ホースをつんでいるのは4つ の放水口と関係がありそうだ という意識にさせる （追求の場） ・火事現場のホースのひき方 を具体的にとらえる力を追求 力と考える ・続発火災への予備でもある ことにも触れておく
4 まとめる ・次時の予告	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 1台のポンプ車に20本もホースがつんである 大きな火事では次々にホースを出していく場合も あり足りなくなったらこまるからだ </div> ・実際の火事現場にポンプ車を止めてみよう	・実際には20本全てを使うこ とはほとんどないことを押さ えておく

1 単元名 火事をふせぐ

2 目 標

- ・ 火災発生時には、被害を最小限にとどめようと消防署や警察など関係諸機関が相互に連絡をとり合い、協力し合っていること。さらに、市では、消防署が中心となって市民を火災から守るために、施設や仕組みを整え組織的な活動がなされていることを理解させる。
- ・ 消防署や関係諸機関の相互活動を理解させるために、資料を具体的に捉える力を育てる。
- ・ 自分の考えを持ち、友だちの考えと比べながら聞くことによって、自分の考えをより深めようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 火災は、時として私たちの生命や財産をも奪ってしまう恐ろしい災害である。市では、人々を火災から守ったり、一刻も早く火を消すために消防署を中心に消防団、警察署、電力会社、ガス・水道局が組織的に活動している。また、火災をすぐ消し止めることができるように消火施設が整備されている。この単元では私たちの安全なくらしを守るための市の組織的な活動を理解させることがねらいとなる。
- ・ 児童は火災を実際に見たり、新聞やテレビの報道によって直接的に、または間接的に知っている。しかし、火災といっても児童の目は燃えている火の恐ろしさや消防車、救急車のかっこよさ消火活動の華々しさに向いており、火災に対して興味本位的な見方をしたり現象面だけにとらわれがちである。また、火災を防ぐための設備や仕事についても見ているが気づいていないことが多くある。
- ・ そこで、児童の身近な学校の中の防火施設から学習を始める。それから広坂近辺で起きた実際の火災現場を取り上げ、火災の危険性や恐怖は毎日の生活と隣合わせであるという意識に追い込むことによって、安全のための協力体制や防火施設の持つ意味を理解させたい。さらに、市民の一人として注意すべきことがあるのだということにも気づかせたい。

4 単元計画（総時数9時限＋課外）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>学校ではどのように火災を防ごうとしているか</div> <div>・ 消火器 ・ 消火栓 ・ 防火扉など</div> <div>学校の中の防火施設分布図を作ろう</div> <div>学校の中にもたくさんの防火施設がある</div>	3
二 次	<div>火災の様子と被害について調べよう</div> <div>・ 市内の火災発生件数</div> <div>・ 町の様子</div> <div>・ 消防署や消防分団はどこにあるのかな</div> <div>どのようにして火を消すのだろう</div> <div>協力体制を調べてみよう</div> <div>・ 消防車は用水や消火栓のそばに止まる</div> <div>・ 近くの消防署と協力している</div> <div>・ 同時火災にも備えている</div> <div>・ 消防本部の指令室からの連絡で関係諸機関からも出動し消火活動に協力している</div> <div>・ 消防団があり5分以内で行ける</div>	4 (本時2/4時)
三 次	<div>消防署の人たちは火災を防ぐためにどんなことをしているのかな</div> <div>見学しよう</div> <div>・ 消火訓練 ・ 広報活動</div> <div>・ 建築物の検査</div> <div>まとめの消防新聞を作ろう</div> <div>・ 図や絵であらわそう</div>	2 + 課外

5 本時の学習（二次の2時）

授業の教室（4の1）

ねらい 防火施設のそばに止まらない指令車の存在を知ることにより、消火活動は、指令車の指示のもとに消防車が消火活動を行う組織的な活動であることに気づく。

意識の変容 火災現場に到着した消防車は全て消火栓や用水のそばに止まるのではないかという意識を消火栓にも用水のそばにも止まっていない車は何をするのだろうかというゆれによって指令車の存在に気づかせ、指令車を中心として消火活動が組織的に行われているのだという意識に変える。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 本時の課題をつかむ	10	<p>恐ろしい火災が起こった時 どのようにして火を消すのだろう</p> <p>（資料① 広坂付近の火災現場の写真）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの消防士さんたちがいるな ・消防車もたくさんかけつけたのかな 	・広坂付近で起こった火災を取り上げ 火災発生から消火までの時間や状況を知らせ問題意識を高める
2 消防車の止まった位置を予想し話し合う	15	<p>〈火災現場では消防車はどこに止まったのだろうか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図に7台の消防車の位置を書き入れてみよう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>消火栓や用水のそばに止まる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消しやすいように家のまわりに集まるだろう ・消火するための水を確保するだろう </div> <p style="text-align: center;">↑↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>消火栓や用水のそばに止まっていない車がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホースも出していない車があるな（教師提示） </div>	・学習経験をもとに各自が考えを持つことで安定とする（消火栓や用水のそばに止まるのではないかという意識） （安定の場）
3 資料をもとに指令車の役割をつかむ ・自分達の予想とちがったわけを考える	15	<p>〈消火栓や用水のそばに止まらなかった車は何をするのだろうか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野次馬の整理をしているのかな ・他の消防車の消火活動を手伝っているのかな <p>（資料② 指令車の絵）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンプ車とはちがうな ・車の上に台があるな ・無線の装置がいっぱいあるな <p>（資料③ 消防車の到着順）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到着順に近くの消火栓を使っているとは限らないな <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>指令車は一刻も早く消火するために他の消防車に指示しているんだな</p> </div>	・消火栓や用水のそばに止まっていない車がいるという事実によってゆれを起こす （ゆれの場）
4 本時のまとめをし次時のめあてをつかむ	5	<p>火災現場では 消防車は消火栓や用水の近くに止まり 指令車の指示をうけて組織的な消火活動をしているのだ</p> <p>・広坂消防署からは何台出動してきたのだろうか</p>	・指令車の存在を知らせることにより 指令車と消火活動は関係があるのではないかという意識を持たせる （追求の場） ・資料を具体的にとらえさせながら指令車の存在理由を明らかにさせたい ・消防車だけで消火活動をしているのではないという意識にさせる

1 単元名 物の温まり方

2 目 標

- ・ 金属は温められたところから順に温まるが、水や空気は温められた部分が移動して全体が温まることを理解させる。
- ・ 金属の温まり方についての学習をもとに、自分なりの観点を持って水、空気の温まり方を調べていける力を育てる。
- ・ 他の児童の意見をよく聞き、自分の考えを吟味しながら、互いに高め合おうとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 本単元は金属、水、空気を取り上げ温まり方を調べさせることにより、それぞれの共通点や差異点を明確にすることをねらいとする。したがって熱の考え方や対流が起きる原因は取り上げず、現象の理解に主眼をおく。

マッチとアルコールランプを使って安全に実験ができるようにすることも大切なねらいであると考えられる。

- ・ 子供たちは、漠然と物は熱い所の近い部分から温まってくると考えているだろう。また生活経験から、水、空気の温まり方の特徴に気付いている子も多少いるだろうが、金属、水、空気の温まり方に違いがあると気づいている子は少ないだろう。

- ・ 最初に子供たちにとって分りやすい金属の温まり方から入る。ここで子供たちなりの「温まり方」をつかませる。そしてそれをもとにして、水、空気の温まり方を追求していく講成をしたい。

目に見えない温まり方を調べるために、まず体感を大切に、手ざわりで予想させる。次にサーモテープなどを用いて視覚化することで確かめさせる。

また水と金属の差異点を明確にするために試験管に水を入れたものと金属棒との温まり方を比較させるなど教材にも工夫していく。






4 単元計画（総時数9 時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>金属の棒を熱してみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 横やななめにして温めてみよう ・ 火に近いところから順に温まってきた <div>金属の板ではどうだろうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火の近くから順に広がっていった 	4
二 次	<div>水を温めてみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金属とはちがうようだ ・ 金属とちがって一番上から温まってきた <div>なぜ水は上の方から熱くなってくるのだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熱が上へ行くからだろう ・ 温まったところが上の方へ動くからだろう ・ 水は温まったところが上の方へ動きその繰り返しで温まっていく 	2 (本時1/2)
三 次	<div>空気は金属型だろうか水型だろうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空気も水と同じように温まったところが上の方へ動いていた 	2
四 次	<div>まとめをしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金属は熱したところから温まったところが広がっていく ・ 水 空気は温まった部分が移動して全体が温まっていく 	1

ねらい 水の温まり方を金属の温まり方と比較して観察することにより、金属と違い水の最上部から順に温まることに気づく。

意識の変容 子供たちは水を温める実験によって、すぐ金属の温まり方とは違うらしいという意識になる。そして火元から順に温まるという考えと、水の最上部から温まるという考えでゆれが起きるだろう。そこで温まり方を再度くわしく調べることによって、最上部から順に温まっているという事実に基づき、金属と水の温まり方は違うという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 学習の課題をつかむ	10	<div>水の温まり方を調べよう</div> <p>実験</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・下の方は熱くならないぞ ・上の方は熱くなった ・上半分が温まるようだ <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の温まり方は金属とちがうみたいだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験によって水と金属の温まり方が違うらしいという意識にさせる <p>（安定の場）</p>
2 予想を立てて話し合う	10	<p>〈上半分のどこから温まっていくのだろうか〉</p> <div>    </div> <ul style="list-style-type: none"> ・火の近くから上へ ・火に近いところが早いにきまっていると思う ・口の方から下へ ・ふろでも 上が熱くても下が冷たいことがあったから 上からだと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験管の上半分に目をつけさせることによって 金属の温まり方と類似した考え方と金属の場合とはまったく違う考え方をみだしてゆらす <p>（ゆれの場）</p>
3 学習課題を解決するための実験をする	15	<ul style="list-style-type: none"> ・サーモテープを使って実験してみよう <p>実験</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・一番上が先に赤くなってきたぞ。上からだ ・火の近くからじゃなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・前次で用いたサーモテープをここでも使うことによって視覚化できることに気付かせる。 ・金属の温まり方と比べて水の温まり方を考えさせる <p>（追求の場）</p>
4 まとめと次時の予告をする	10	<ul style="list-style-type: none"> ・水は火より下は温まらない ・水は一番上から温まってくる <div> <p>水は金属の温まり方と違って 上の方が早く温まって下の方へ温まっていくんだな</p> </div> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして上の方から温まっていくのだろうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・金属と違うことがここではっきり裏付けられる。 ・新しく考えなければならぬ課題を明確にする

1 主 題 音で気持ちをあらわそう（「きつつきポルカ」「トランペット吹きの休日」）

2 目 標

- ・ タンギングの仕方によって曲がより表情豊かになることに気づき、ダブルタンギングの奏法に慣れる。
- ・ 音と音のつながりを聴きわけ、タンギングの仕方を考えて演奏することができる。
- ・ 友達や範奏の表現と自分の表現との違いに気づいて聴くことにより、自分の表現をより高めようとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 「きつつきポルカ」は、きつつきが木をつつく様子をリコーダーのスタカート奏法で表現している。ポルカ特有の速いテンポと十六分音符の連続音が、忙しく働くきつつきの様子を更によく表わしている。

高音部と低音部のかけあいがある二羽のきつつきを立体的に表現し、中間部のハーモニーが木間を飛びかう様子を描いている。ともするとゆっくりしたテンポの曲でのポルタート奏に慣れ親しんできた児童にとって、この曲は新鮮に映るであろう。ダブルタンギングと曲想の関係を学習するには最適と考える。

- ・ 児童は、リコーダーが作者楽器であり、息の強さやそのコントロール、タンギング等が曲の表情を作ることを学習してきた。意欲的な児童は、授業で学習する以外の様々な曲を演奏して楽しんでいる。しかし、ダブルタンギングを知らないため、テンポが速く連続音のある曲は十分に曲想表現できないでいる。
- ・ イメージ豊かに表現するためにも、この曲との出会いを大切にしたい。（きつつきの話・スライド・イメージ拡大のための話し合い等）八分音符のタンギングで表情豊かに演奏できたと満足している児童に、一部が十六分音符で表現されている演奏を対峙させ（範奏のような忙しく働いているきつつきを表現するにはどうしたらよいのか）と追求させたい。

4 単元計画（総時数5時限）

主 な 学 習 活 動		時数
一 次	<div>きつつきポルカを演奏しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーの範奏テープから きつつきの様子を話し合う ・ スライドやきつつきの物語から 曲のイメージを高める ・ リコーダーで視奏する ・ きつつきになって二部合奏する 	2
	<div>忙しく働くきつつきを表現しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ きつつきがさらに忙しく働いているように表現されている理由を考える ・ 速いタンギングの仕方を考え試みる ・ ダブルタンギングについて知り 忙しさを表現できるようにする 	2
三 次	<div>ダブルタンギングで表現しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ トランペット吹きの休日を試奏する 	1

5 本時の学習（二次の1時）

授業の教室（音楽室）
協議会場（音楽室）

ねらい きつつきのさらに忙しく木をつつく様子がタンギングによって表現されていることを聴きわけ、ダブルタンギングの奏法に慣れる

意識の変容 「きつつきの様子が表現できたよ（八分音符のシングルタンギング）」という児童の意識に、十六分音符ダブルタンギングで表現されていた範奏を対峙させ、「タンギングを工夫すると、もっと忙しく働くきつつきが表現できるんだ」という意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 二部合奏をする	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「きつつきポルカ」の演奏上の注意点を振り返る A……元気よく木をつついているように B……木と木の間にスイスイ飛んでるように A……また、木にとまってつついているように ・二重奏、グループ奏、学級全体での二部合奏をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・反復練習と相互鑑賞により児童に「きつつきの様子がしっかり表現できたよ」という満足感を持たせる（安定の場）
2 課題を持つ ・聴き比べる	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 忙しく働くきつつきの様子を表現しよう </div> <p>〈きつつきの木をつつく様子の表現の仕方に気をつけて演奏を聴こう〉</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; gap: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 自分達の表現 (木をつつくところ 八分音符で表現) きつつきの木をつつく表現ができたよ </div> <div style="font-size: 2em;">⇔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 範奏テープの表現 (木をつつくところ 十六分音符で表現) もっと忙しく木をつついて働いているよ </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・一部が十六分音符で表現されている範奏テープを異質として対峙させる ・聴く観点を「きつつきの木をつつく様子」に限定して聴かせる 自分達の表現よりもきつつきの働く様子がよく表れていると児童が感じたらゆれたと判断（ゆれの場）
3 表現の工夫をする ・話し合う ・工夫する ・表現する	25	<p>〈忙しく木をつつく表現の秘密は何だろうか〉 細かい音符で表現されている部分があるよ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">表現できたよ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">表現できないよ</div> </div> <p>速すぎるよ タンギングの仕方がいままでとは違うんだ トゥットゥッやティッティッではないんだよ ……………？ トゥクトゥク・ツクツクとやればいいんだな ダブルタンギングっていうんだね</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の試奏活動を通して考えさせたい（追求の場） ・児童は既習のシングルタンギングを手がかりに音を聴きわけて試行すると思われる（追求力） ・既習のシングルタンギングで表現できないため「ゆれ」を自らおさめられないでいると予想されるので ダブルタンギングについて図やゆっくりした範奏で導く（追求の手だて）
4 本時のまとめ	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> きつつき忙しく働く様子を表現するにはタンギングの仕方を工夫すればいいんだね </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時はタンギングに気づき分かることをもってゆれのおさまりとする

1 主 題 名 ロンとわかれたくない (1主題2時限)

2 目 標

- ・ 主人公勇二に自我関与することにより、友達のこうすけとの約束を大切にすること(信頼・友情)と自分の近くにおいて世話する(動物愛)こととの間で悩む中から、勇二のとるべき行動を考えさせることにより、ロンのためにはどうするのがよいか人間と動物愛について考えさせる。
- ・ 勇二に役割取得できる能力と置かれた状況に対応できる道徳的判断力や心情を育てる。
- ・ 話し合い活動の中から、友達の考えと自己の考えの共通点やちがいに気づき、自己の考えを深めようとする。

3 主題設定の理由

・ 価値について

人間は、自然の中の一員である。このことがはっきりと認識されるならば、自然の動物や植物に対してもこれを保護し、共存できる関係が成り立つものとする。ところが昨今の高度成長をとげ、その結果物質的に恵まれた現代社会の中にあっては、自然破壊が進み人間と自然との共存関係は、危機的状況にあると言わなければならない。今こそ、人間と自然との関係を見直し、人間が本来の自然の中の一員であるとの原点に立ち返り、自然を愛する心をはぐくみ育てなければならないと考える。人間を動植物や自然とのかかわりの中でとらえてこそ、人間が人間らしく、よりよく生きることにつながることになるであろう。

・ 児童について

子どもは動物好きである。クラスで動物を飼っている実態を調べてみると、35人中19人が現在飼っている。その種類は、金魚(6人)犬(5人)鳥(4人)うさぎ(2人)その他となっている。以前、飼ったことのある児童を含めると全員が飼ったことがあると答えている。動物が好きだということはわかるが、その世話となると大変なことである。フンのしまつ、エサやり、小屋や水そうの掃除など朝早く起きたりして世話をしなければならない。途中で飼うのをやめ

てしまった児童の大半は、根気が続かない、あきてしまったなどの理由が考えられる。そこで自然の動物も人間と同じように精一杯生きていることをとらえさせ、人間と動物が自然界の中で共存して生きるためその成長を共に喜び、やさしい心で世話していこうという態度を育てたい。

・ 資料について

父の都合で東京へ引っ越すことになった勇二は愛犬ロンを連れて行くことができないので、友達のこうすけにロンの世話をたのむ約束をする。ところが父の友人の青木さんの所で預かってもらえることになり、勇二はどうしようかと迷う。勇二の心の葛藤を浮きばりにすることにより、自分が勇二になったつもりで考えさせたい。

4 単元計画

主 な 学 習 活 動		時 数
第 一 次	・みんなはどんな動物を飼っているかな ・友達の作文「金魚の死」を聞こう ・資料を読んで勇二について話し合う 〈勇二はどうするのが一番だろう〉	1 (本時)
第 二 次	・判断、理由づけをもとに話し合う ・勇二との共通点や違いを話し合う ・ロンの望んでいることを話し合う 〈勇二はどうするのが一番だろう〉	1

5 本時の学習（一次の1時）

授業の教室（4の3）

ねらい 主人公勇二に自我関与することにより、友達のこうすけとの約束を大切にすることと、引越し先にロンを連れていって世話をすることとの間で悩む中から、勇二はどうすることが望ましいのか考えることにより最初の判断、理由づけをする。

意識の変容 勇二は東京へ引越すことになり、ロンを友達のこうすけにゆずるか、父の友人の青木さんの所であずかってもらって世話をするか迷っている。勇二の置かれている状況を自分が勇二になったつもりで考えさせることにより、勇二の迷いを自分の迷いとしてとらえ、どうするのがよいかとゆれを起こすであろう。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 動物を飼っていることについて話し合う	7	<p>〈みんなはどんな動物を飼っているのかな〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎ ・キウカン鳥 ・犬 ・インコ ・ネコ ・金魚 <p>・世話をしていたかわいいなと思うことや大変だなあと思うのはどんなことだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エサを食べるところ ・おしりをふっている ・顔をあらうところ ・鳴き声 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が日常飼っている動物について話し合うことにより本時への意欲づけをはかる（安定の場）
2 動物の作文を聞く	5	<p>〈友達の作文「金魚の死」を聞こう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな感想を持ったかな ・金魚をとっても大切にしているんだな ・金魚のお墓を作るなんて今までにしたことなかったよ ・金魚だってたった一つの大切な命なんだなあ 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物愛についての作文を聞くことにより自己の考えを問い直す（ゆれの場）
3 資料「ロンとわかれたくない」を読んで主人公について話し合う	25	<p>〈勇二はロンをどのようにかわいがっていたのでしょう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生まれた時から宝物のようにかわいがっていた ・お使いや遊びにいつもいっしょにつれていく <p>・勇二は今どんな場面におかれているのでしょうか</p> <p>〈勇二はどんなことで迷っているのでしょうか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロンを東京へ一緒に連れていきたい ・友達のこうすけにゆずる約束をしたのでどうしようか迷っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公のロンに対する愛情を確認させる ・主人公の置かれた状況を把握させる ・主人公の迷いはっきりととらえさせる（追求の場）
4 主人公勇二に自我関与させ最初の判断理由づけをする	8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>自分が勇二だったらどうするのが一番だろう</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>（友達のこうすけ） にゆずる</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>（東京へ連れて） いく</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・書かせることにより自分の判断・理由を明確にさせる

1 題材名 一つの花（東書4年上）

2 目 標

- ・ 戦争という状況の中でも温かく生きる親子の様子から、両親のゆみ子に対する気持ちを、想像豊かに読みとらせる。
- ・ 気持ちが表れていることばを互いに結びつけて考えることで、その中に込められている気持ちを想像する力を育てる。
- ・ 自分の考えとの違いに耳をすませ、自分の考えを深めようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 戦時中、もののない生活の中で、「一つだけちょうだい」ということばを、最初に覚えたゆみ子。ゆみ子を中心に静かに生きる親子3人の生活から話は展開される。
しかし、このささやかな幸せも、父の出征というできごとで壊される。最後の時、父は、「一つの花」に娘の幸せを願う気持ちを託し、別れて行く。十年後、ゆみ子は、父の思いそのままに育つ。
ゆみ子を中心に温かく生きる親子の情愛を、十分に感じさせたい物語である。
- ・ 大変素直な反応をする子どもたちである。このお話でも、ゆみ子のおかれた状況に同情したり、両親のゆみ子に対する愛情を感じたりするであろう。
しかし、直感的な読みが多く、叙述に着目して、そこから気持ちを考える力は弱い。
- ・ そこで、両親がゆみ子にしたことや言ったことばを中心に、父や母の気持ちを読みとらせたい。特に、父の気持ちは、直接表現されているところが少ない。「だいじにするんだよう……」などというようなことばの中に込められた気持ちを想像することが大切になる。その際には、周囲の様子や行動、言ったことばなど気持ちが表れていることばを互いに結びつけて考えるという追求力が必要であろう。

4 単元計画（総時数10時限）

主 な 学 習 活 動		時数
一次	全文を読み 読みのめあてを持つ	1
二次	一人学習をする	2
三次	<p>読み深める</p> <p>「一つだけちょうだい」を最初に覚えたのは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦争中でゆみ子はいつも空腹だった ・ そんなゆみ子に少しでも食べさせたいと思う母の口ぐせを覚えてしまった <p>めっちゃくちゃ高い高いをしたのは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「一つだけ」としか言わないゆみ子がかわいそう ・ かわいそうでも何もしてやれない <p>おにぎりを全部上げたのは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これで最後になるかも知れぬ父にゆみ子の泣き顔を見せたくなかった ・ ゆみ子にも父となき顔で別れさせたくなかった <p>一輪のコスモスを上げたのは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆみ子にコスモスのように幸せに育って欲しいという気持ちを伝えたかった <p>ゆみ子は幸せに育ったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コスモスに包まれ元気に明るく育った ・ もう「一つだけ」と言わなくなった 	5 本 時 (4/5)
四次	学習のふり返しをする	2

5 本時の学習（三次の4時）

授業の教室（4の3）
協議会場（1の3）

ねらい 一輪のコスモスに幸せに育って欲しいという願いを託し別れて行く父の気持ちを、コスモスが咲いていたときの様子と、「だいじにするんだよう」と言ったことばとを結びつけることによって読みとる。

意識の変容 〈一輪のコスモスをあげたのはどうして〉という問いに、子どもたちは「一つだけちょうだい」といって泣いたゆみ子を何とかしたいと読みとるであろう。そこで、〈父は泣きやんで欲しいという気持ちで上げたのだろうか〉と問い返すことで、泣きやんで欲しいという気持ちだけだったのか、それ以上の思いを込めていたのかというゆれを起こしたい。父のことばとコスモスが咲いていたときの情景と結びつけて想像させることで、一輪のコスモスに託した父の気持ちを付加させたい。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 本時のめあてを確認する	3	ゆみ子に 一輪のコスモスを上げたのはどうして	
2 めあてについて話し合う		<ul style="list-style-type: none"> ・「一つだけ 一つだけ」と言って泣いているから ・ちょうどコスモスの花があったから ・おにぎりの代わりになるものが見つかったから ・お別れなのに 泣き顔を見たくなかったから 	<ul style="list-style-type: none"> ・泣いているゆみ子を何とかしたいために コスモスの花を上げたいということを読み取らせる（安定の場）
3 読み深める	25	<p>〈泣きやんで欲しいと思ってコスモスを上げたのか〉</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> そうだよ 泣いたままで別れた くない </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> それだけではない 大事にするんだよと 言っている もっと 違う気持ちがあった </div> </div> <p>（コスモスの花には 父のどんな気持ちが込められているのだろうか もっと読んでみよう）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットホームのはしっぱの ごみすて場のような所に 忘れられたようにさいていたコスモスは まるで自分のようだ 自分の代わりだと思って大事にして欲しい ・こんな所ででも コスモスは美しく咲いている この花のように 負けないで育てて欲しい ・コスモスは 美しいがどこにでもはえる大夫な花だ この花のように 明るく強く育てて欲しい ・最後にして上げられることはこれだけだが 心の中はゆみ子のことを思う気持ちはいっぱいだ 幸せになって欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・泣かないで欲しいという気持ちでコスモスの花を上げたのかと問うことにより それだけの気持ちだったのか それ以上の気持ちがあったのだろうかというゆれを起こす（ゆれの場）
4 本時のまとめをし 次時のめあてをつかむ	7	<p>お父さんは 一輪のコスモスに「ゆみ子が幸せに育って欲しい」という気持ちを込めて あげたんだ コスモスの花は 父の心だったんだ</p> <p>〈ゆみ子は 幸せに育つかな〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コスモスの花が咲いていたときの情景と「だいじにするんだよう」ということばを結びつけて考えさせることで父の気持ちを想像させたい（追求の場） ・ゆみ子の幸せを願う父の気持ちをまとめさせ ゆみ子は幸せに育ったか次時につなぎたい

1 題材名 ソフトベースボール（ボール運動）

2 目標

- ・ ボールを打ったり、投げたり、捕ったりする技能を高め、自分たちでルールを工夫したり、作戦を考えたりして、ベースボール型のゲームを楽しむことができるようにする。
- ・ いろいろな場面を想定し、試してみる中から、より有効な作戦を考える力を育てる。
- ・ 自分たちのチームだけでなく、友達の良いグループを見つけて、自分に生かしていこうとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 本題材は、一定のルールの中で集団で勝敗を競う楽しさが中心である。また、ベースボール型のゲームであり、他の運動にはない。打つ、投げる、捕る、走るという四つの基本的技能から成り立っており、ゲーム様相にも特色がある。しかし、攻撃と防御が分離しており、運動量不足や指導の効率の悪さなどの問題点がある。そこで、攻撃と防御が一体となるゲーム様相へと近づけることが、ゲームの楽しさに迫る大切なポイントだと考えている。
- ・ 本学級は、男子19名、女子18名である。このうち、キャッチボールやソフトボールの経験のある子は男子の中の一部である。女子では、ほとんどの子が、ベースボール型のゲームを体験するのが初めてである。このため用具の工夫や、簡単なルールから始める必要があると考えられる。
- ・ そこで、本題材では、技能差を考慮しティーバッティングからのゲームをすることで、よりスピーディな試合展開をさせたい。また、守備側にも得点できる機会を設けることで、より積極的な守りを引き出したいと考えている。そのためには、ゲームの中での攻撃や守備のいろいろは局面を想定し、自分たちにとって、より有効な作戦を考えることが必要になってくる。その作戦を生かして、攻撃と守備が一体となった、楽しいゲームを作っていきたいと考えている。

4 単元計画（総時数8時限）

主 な 学 習 活 動		時数
一 次	<p>マナーを守って ためのゲームをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームのやり方が分かったぞ ・ 作戦を考えてゲームをしよう 	1
	<p>得点するための攻撃を工夫しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 打順を考えるといいぞ ・ 遠くへ打つ 間へ打つティーバッティングの仕方を考えるといいぞ ・ 早い走塁の仕方も考えよう 	5 (本時4/5)
	<p>得点するための守備を工夫しよう</p> <p>(一塁アウト タッチアウトは1点 ダイレクトキャッチ2点のルールを加える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早くボールをとって 早く投げよう <p>↓ ↓</p> <p>動いて 声をかける どこへ投げるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アウトの取りやすい守備位置と 打球に合った動きをするといいぞ ・ 中継プレーやカバーの動きをすると遠くへ飛んだボールでもアウトを取り得点できるぞ 	
三 次	<p>攻撃と守備の作戦を考えてゲームをしよう</p> <p>(ホームインで1点のルールに変える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダブルプレーやホースアウトがあるよ。 ・ 今までの学習を生かして ソフトベース大会を自分たちでやれたぞ 	2

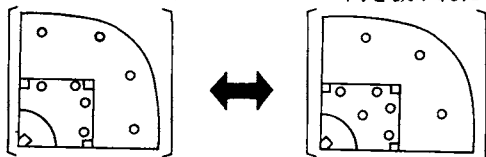
5 本時の学習（二次の4時）

授業の教室（運動場）
協議会場（1の1）

ねらい 打球の方向を想定して、打球に合った守りを試す中で、アウトのとりやすい守備位置を考えその位置での積極的な守りを使って、ゲームをすることができる。

意識の変容 子どもたちは、守り方を考える時、だれがどこを守るかまでは考える。しかし、そこで自分はどんな動きをすればいいのか、どうすれば守備位置を生かすことができるかまでは考えていない。そこで、自分の守っている位置は、アウトを取りやすいのかというゆれを通して、守備位置で打球に合った動きをすることで、積極的なアウトの取りやすい守り方ができるという意識へ深化させる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 準備運動で 体をほぐす	5	・ストレッチ キャッチボール ランニングをして 体 をほぐしておこう	・チームごとに 協力しあっ てやらせたい
2 本時の課題 をつかみ 試 しのゲームを する	15	<div>得点するための守備を工夫しよう</div> ・自分からボールを取りに動き 走者を見て素早く投 げるぞ ・だれが どこを守るかも決めておこう 〈自分たちの守備位置で ゲームをしよう〉 ・今日は○対○ 審判は○○さんだぞ 〈守りで得点できたチームは どんな位置で守ったの〉	・前時までの学習を生かした 作戦を考えて ゲームをする ことができたという意識にす る (安定の場) ・攻守交代は できるだけス ムーズに行なわせたい
3 守備位置に ついて話し合 い練習する	10	・外野を抜かれにくい ・間を抜かれにくい  ・守備位置にはいろいろあるぞ アウトの取りやすい 位置で守ろう 〈自分の守備位置の方へボールがこなかったらじっ 〉として ・エラーをした時のカバーに行く ・塁があかないように 塁をうめる ・ボールがこなくても アウトをとるために動かなか てはだめだ	・守備位置を図に表してみる ことで それぞれの特徴から 自分たちの守備位置はこれで いいのかというゆれを起こす (ゆれの場)
4 確かめの ゲームをする	10	〈みんなで動いて 守りで得点しよう〉	・ボールがこない場合を想定 させることで 自分が守って いる場所では常に動かなくて はという意識にさせ 打球の 方向に合わせての守りをいろ いろ試させる
5 本時の振り 返りをする	5	・練習したことを生かして得点するぞ 〈守りで得点できたチームはあるかな〉 <div>アウトの取りやすい 守備位置や動きで 守りで も得点してゲームができたぞ</div>	(追求の場) ・守備での得点に目をつける ことで 本時の追求の場での 学習を振り返らせたい

1 題材名 動物の体 (東書5年下)

2 目標

- ・ 動物の体は、生きていくうえでそれぞれの住む自然環境に適応した機能を持っていることを読みとらせる。
- ・ 抽象的なことばと具体的なことばを結びつけることや、対称的な例を比べることにより、内容を読みとる力を育てる。
- ・ 自分の持った考えと、友達の考えを比べて聞くことにより、お互いの考えをより深めようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 本単元は、様々な動物たちが、それぞれの環境に適応しながら生きていることを、主にその体の特徴から説明した文章である。筆者は、気温や風土に合った動物の体を外から見える形(体形、体格の大小、毛皮)と体の仕組みに分けて説明している。また、対称的な例を用いたりしてわかりやすく表現している。自然の神秘ともいえる動物の体は、子どもたちの興味を喚起することだろう。
- ・ 子どもたちは、個人の考えは持つようになったが、他の意見を参考にしたり、比べたりして、さらに深まるということはまだ意識していない。この教材では、動物の体について興味は持つだろう。しかし、これまで印象的な読みが多く、叙述の細部にまで気をつけて読めないため、動物の体がどのように環境に適応しているかまでは読みとれないだろう。
- ・ そこで、丸くて小さい耳をしているホッキョクギツネと大きな耳をしているフェネックという対称的な例を比べることにより、環境への適応を考えさせる。また、ヒトコブラクダの適応のしかたは、「体温の上昇にたえられる」を「体温が四十度をこえると初めてあせをかき始める」という具体と結びつけることにより読みとらせる。それが本単元において育てたい追求力である。

4 単元計画 (総時数10時限)

主 な 学 習 活 動		時数
一次	・ 全文を読み 読みのめあてを持つ	1
二次	・ 一人学習をする	3
三 次	・ 読み深める <div>ホッキョクギツネやフェネックの体はどのように環境に適応しているか</div> ・ それぞれの環境の中で体温を一定に保っておくために体の形がちがう <div>ニホンシカの体はどうだろう</div> ・ 寒い地方では熱量が必要なので あたたかい地方よりも体が大きいのだ <div>カモシカやフェネックはどうだろう</div> ・ それぞれの環境に合わせて 毛皮の役割がちがうのだ <div>ヒトコブラクダの体の仕組みは どのように環境に適応しているか</div> ・ 体温の上しようにたえられる によ うが少量ですむ…等 ヒトコブラクダの体の仕組みは 高温・水の欠け うというさばくの環境に適応しているのだ <div>筆者のいいたいことは何だろうか</div> ・ 動物の体は 自然が長い年月をかけて作りあげた最高のけっさくといえる	5 (本時3/5)
四次	・ 筆者の述べ方を考え まとめをする	1

授業の教室 (5の2)

意識の変容 本時の課題について話し合うことで、どちらも毛皮の働きによって適応していることは読みとれるだろう。そこで〈適応のしかたは同じか〉と問うことで、温度の影響を直接受けないカモシカの毛皮と、水分が体の表面からうばわれるのを防ぐフェネックの毛皮のちがいに気づかせ、それぞれの環境に適応した体になっていると深めさせたい。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 本時のめあてを確認する	3	ニホンカモシカやフェネックは どのように環境に適応しているのか	・本時の読みの範囲を確認する
2 めあてについて話し合う	12	どんな環境に住んでいるのだろう ニホンカモシカ フェネック ・山岳地帯 寒さ 雪 ・さばく 暑さ 乾き 〈そんな環境に 適応しているのか〉 している している ・寒さ知らずだ ・強い太陽熱から身を守る ・外気の温度のえいきょうを直接受けない毛皮を身に着けてる	・それぞれの住む環境のちがいははっきりと意識させる ・ニホンカモシカとフェネックを分けた板書をする ・どちらも毛皮で適応しているとおさえる
3 読み深める	25	〈適応のしかたは 同じか〉 ちがうよ ・外気の(温)度のえいきょうを受けない毛皮と(水)分の体の表面からうばわれるのを防ぐ毛皮だよ ←→ 同じだよ ・どちらも毛皮だし直接外気のえいきょうを受けないようになっているのだよ (同じなのか ちがうのか もっと読んでみよう) ニホンカモシカ フェネック ・外気と皮膚の間に空気 ・強い太陽から身を守り のそりが作られ 外気のかんそうした空気によつて水分が体の表面からうけけない うけるのを防ぐ	(安定的場) ・住む環境が明らかに違うのに適応のしかたは同じなのかと問うことでゆれを起こす (ゆれの場) ・抽象的なことばと具体的なことばを結びつけて考えさせる (外気の温度のえいきょうを受けないー寒さ知らず) ・ニホンカモシカとフェネックの住む環境の対比 毛の生え方の対比 温度と水分の対比をすることで深めさせたい (追求の場)
4 本時のまとめをし 次時のめあてを持つ	5	ニホンカモシカとフェネックはそれぞれの環境に合った毛皮を身に着け適応している ・ノートに 本時のまとめをする 〈ヒトコブラクダの体の仕組みは どのように環境に適応しているのか〉	・ここまでは外から見える形のことだったのに対し 次時は体の仕組みであることを確認しておく

1 題材名 ランプシェード（切りおこし）

2 目 標

- ・ 切りおこしの技法を使い、その並べ方やおこし方を工夫したランプシェード作りを通して創造的な表現の喜びを味わわせる。
- ・ 基本的な紙の操作ができ、カッターナイフの扱いに慣れさせる。
- ・ 自分のイメージに合った並べ方やおこし方などを工夫し、自分の作品を見直す力を育てる。
- ・ 自分の思いに近づけるために、納得するまで作業を続けようとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 子どもたちにとって、紙は一番慣れ新しんだ材料である。紙に切りこみを入れて立てたり、折ったり、曲げたり（切りおこし）することで、平面の紙が立体に見えることは経験済みである。しかしそれらは紙工作の一部分であり、切りおこしのもつシンプルな美しさには気付いていない。そこで今回は、白い画用紙に規則的に並べられた切りおこしをランプシェードに仕上げることで、一層美しい明暗のハーモニーが生まれると考えた。
- ・ 児童はカッターを何度か使用しているが、美しく切るところまでは習熟していない。また繰り返す模様による単調で規則的な作業の経験も少ないために、技術的抵抗も多いと思われる。だが、単調な切りおこしでもランプシェードとして用いれば美しく見えることを知り、完成までの興味を持続させたい。
- ・ 切りこみを入れるまでの作業が細かく、ていねいさを要求されるために、切りおこしの段階では早くおこして仕上げたい気持ちであろう。そこで、同じデザインのものでも切りおこし方によって、ずいぶん感じが違う作品を提示しゆれを起こし、おこし方の工夫に目を向けさせたい。自分のランプシェードに合ったおこし方をいろいろ工夫し、自分の作品を見直す（追求力）ことが、自分のイメージに近づくと考えた。

4 単元計画（総時数7時限）

主 な 学 習 活 動		時数
一 次	<div>切りおこしの見本カードを作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 条件は切りおとさない 接着しない ・ 切りこみの形を考える ・ 切りおこし方を工夫する（折る 曲げる まるめる ねじる 立てる） 	2
	<div>切りおこしを利用してランプシェードを作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ランプシェードがどんなものか知る ・ 自分のランプシェードに題名をつける ・ 切りおこしの形を決め並べ方を工夫しアイデアスケッチをする <div>アイデアスケッチをもとに下絵を描き切りこみを入れよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ カッターを正しく使う ・ 定規やコンパスで正確に描く ・ 紙をよごさない <div>自分のランプシェードに合ったおこし方をし 作品を完成させよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ おこし方により感じが違うことを知る ・ いろいろなおこし方があることを知る ・ 光の効果を考える <div>ランプの世界へ行ってみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いの作品を鑑賞しよいところを見つける 	5 (本時4/5)

5 本時の学習（二次の4時）

授業の教室（図工室）
協議会場（2の2）

ねらい 切りこみを入れた形をおこす時、おこす角度や折り方、曲げ方、まるめ方により感じが違うことに気づき、自分のランプシェードのイメージに合ったおこし方ができる。

意識の変容 切りこみを単におこしてみればよいと考えている児童の意識を、切りおこす角度や折り方、曲げ方によって感じが違うというゆれを通して、自分のイメージに合ったおこし方があるという意識に変容させる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 本時のめあてをもつ	10	<p>〈ランプシェードに切りこみがきれいにいったか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カッターできれいにできた <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">切りこみを入れた部分をおこして ランプシェードを仕上げよう</div> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 単におこせばいいだろう </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> おこし方を工夫した方がきれいになりそう </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりがない ・単調だ ・光が入りすぎ ・規則性がありきれい ・角度がそろっている ・いろいろのおこし方がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・切りこみを入れたので後は単におこせばよいという意識にさせる（安定の場） ・同じ形の切りこみの作品でもおこし方によってずいぶん感じの違う作品を提示しておこし方の大切さに気付かせたい（ゆれの場）
2 いろいろな切りおこしを考える	5	<ul style="list-style-type: none"> ・切りおこし方によってもずいぶん感じが違う 〈どんな切りおこし方が考えられるだろう〉 ・方向を変えよう ・角度によっても違う ・見本カードを参考にしよう（折る 曲げる まるめる ねじる 立てる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのおこし方の具体例を示したり 切りおこしの見本カードを参考に いくつかのおこし方に気付かせたい（追求の場）
3 作品を完成する	25	<p>〈自分のイメージに合った切りおこし方を見つけて〉</p> <p>ランプシェードを完成させよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ていねいにきれにおこそう ・紙をよごさないように ・全体を見て仕上げよう ・光を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージに合ったおこし方を工夫して見つけ出していねいに仕上げさせたい
4 本時のまとめをし次時のめあてをもつ	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">切りおこしを工夫して すてきな自分のランプシェードができた</div> <ul style="list-style-type: none"> ・光にあてて鑑賞しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・手をきれいにし いつも画用紙の白さを保つようにさせたい

1 単 元 名 電磁石と電熱線

2 目 標

- ・ 電磁石の導線や電熱線に電流を流して、電流のはたらきを調べさせる。
- ・ 電磁石の強さや電熱線の発熱量を調べるなかで、導線の長さ・電流の強さなどの電気エネルギーに関する条件をそろえて考えられる力を育てる。
- ・ 友だちの考えを自分の考えと似ているところ、違っているところを明確に意識しながら聞くことにより、お互いに考えをより深めようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 本単元は、電流のはたらきを主に電磁石つくり・性質しらべ・電熱線の発熱しらべという力と熱の面からとらえるようになっている。そして、学習を日常生活に活用できるように、モーター・ベル製作、電熱線を用いた実験が多く取り入れられている。

これらから、目に見えない電気をより身近なものとして意識できるようにするのである。
- ・ 子どもたちは、2・4学年で電気の学習をしている。電流そのもののはたらきについての意識は少ないが、回路についての見方はできるだろう。また、3学年で磁石の性質しらべについては学習している。しかし、電流による発熱については全く学習経験がない。

一方、このクラスの子どもたちは、実験を好みかなり見通しを立てて学習できると思われる。
- ・ そこで、本単元は「電流のはたらき」という観点で構成し、学習を展開させていきたい。そのため、生活の中から電流に気づかせるところからはいる。

磁力と熱は内容として直接にはつながらない。そこで、電磁石についての学習をしていくなかで、「電流の強さ」を意識させていく。そして、熱についても「電流の強さ」という条件をふまえて実験をしていかなければならないことに、子どもたちが考えつき、実行していけるように指導したい。

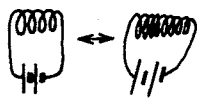
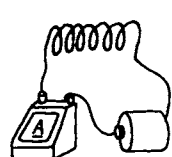
4 単元計画（総時数13時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>電気製品の仲間わけをしよう</div> <div>・ 電気は力 熱 光 音 に変わるのだ</div>	1
二 次	<div>電磁石をつくり 性質を調べよう</div> <div>・ 電磁石をつくってみよう</div> <div>・ 磁石のはたらきがあるのかな</div> <div>・ 電流の向きを変えると 極の向きも変わるよ</div> <div>もっと強い電磁石にしよう</div> <div>・ 電流を強くすればよい (熱くなる)</div> <div>・ 巻き線の数を増やせばよい</div> <div>巻き数のちがいと電磁石の強さを調べるとき の条件は何か</div> <div>・ 導線の長さをそろえることだ</div> <div>・ 電流の強さが同じになっていないといけ ない</div>	6 (本時6／6)
三 次	<div>ニクロム線の性質を調べよう</div> <div>・ エナメル線とクロム線では どちらの方が 発熱しやすいのだろうか</div> <div>・ 電熱器に使われるニクロム線が熱くならな かった理由を調べよう</div> <div>・ 電流の強さが大きいと 発熱量も大きいぞ</div>	3
四 次	<div>電磁石の性質を利用した道具をつくろう</div> <div>・ モーターをまわそう</div> <div>・ ベルをつくって ならそう</div> <div>電熱線の性質を利用した道具をつくろう</div> <div>・ 発泡スチロールカッターをつくろう</div>	3

ねらい 電磁石の強さと巻き数の関係を調べるときには、電流の強さを同じにしなければならないことを実験事実から類推していく。

意識の変容 コイルの巻き数が多いほど磁力が強くなると思っている子どもの意識を、巻き数はそれほど関係ないのではないかという実験事実でゆらす。この理由をさぐるなかで、線の長さ、つまり電流の強さを同じにして調べなければ、適当な対照実験にならないという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 課題を確かめる	2	<div>巻き数を多くすると 電磁石は強くなるのだろうか</div>	・ 前時に100回巻と200回巻の電磁石の強さ比べをさせている (安定の場)
2 考えを発表し合う	8	<div>・ 強くなるが それほどでもないよ</div> <div>〈巻き数を2倍にしたのに それほど強い電磁石にならないわけは何か〉</div> <div>「パワー不足なのだ 電池1コでは200回巻電磁石が十分に ははたらかないのだ」</div> <div>「エナメル線の長さが ちがうから 電気の むだがあるのだろう」</div>	・ 100回巻と200回巻の電磁石のちがいに目を向けるようにする (ゆれの場)
3 自分の考えにあった検証実験を行う	12	<div>電池2コでも比べてみよう</div> <div>長さをそろえてみよう</div> <div></div> <div>・ 巻き数の差があまり—— ・ 長さをそろえたら 巻 関係しない き数の差があらわれた</div>	・ 自分なりの考えで 実験をすすめさせる (追求の場)
4 電流について調べてみる	8	<div>100回巻と200回巻の電磁石を流れる電流の強さを電流計で測ってみよう</div> <div></div> <div>・ 200回巻の方が線が長いので 流れる電流が弱いのだ</div> <div>・ 流れる電流をそろえると 正しく 巻き数の効果を比べられるぞ</div>	・ 調べ目的をはっきりさせる
5 直列つなぎについて調べる	12	<div>○直列につないでも 流れる電流の強さは等しい</div> <div>電流計で測定する</div> <div>・ 確かめる</div> <div>・ 磁力を比べてみよう</div>	・ 何がわかって 何がわからないのかを発表させる
6 本時のまとめをする	3	<div>同じ電流の強さのとき 200回巻の電磁石の方が100回巻のものより 磁力が強いのだ</div>	・ 電流計を正しく使っているかを机間指導していく
			・ 直列につなぐということは 未知のことなので 教師から 教え 子どもたちには検証させる

1 題材名 毎日の食事

2 目標

- ・ 自分達の食生活の実態から、計画的な食事のとり方が必要であることを理解させる。
- ・ 米やみそについて栄養上、調理上の特徴を知らせ、ごはんとみそ汁作りの基礎的な知識や技能を身につけさせる。
- ・ 食品の栄養的な組み合わせに視点をあてて、毎日の食事を考察する力を育てる。
- ・ 食品に関心を持ち、健康的な食生活を実践しようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 食事は子ども達の健康を保ち、成長を促す大切な役割をもっている。また、今までの学習から食品を片寄りなく組み合わせて食べることの必要性を理解している。しかし、現実の食生活をみつめてみると問題点も多く、毎日の食事により強く関心を持たせねばならないと考える。中でも、ごはんとみそ汁の学習や1食分の献立作りは、毎日の食事と係りが深く、よりよい食生活を考える上で意義深い内容である。
- ・ ごはんとみそ汁の調理実習に児童は、高い関心を示しているが、栄養についての興味、関心となると低調である。また、献立作成の基盤となる日常の食生活や調理経験などに個人差がみられる。
- ・ そこで、ごはんとみそ汁の調理実習を初めに位置づけ、次の献立作成に向けての共通学習経験と考えたい。それでも、まだ調理経験の乏しい児童にとって、色々な食品や料理を組み合わせで1食分の献立を考えることは、かなり困難であろう。そこで、初めはグループで話し合いながら1食分の献立を考えさせ、次に各自で作成させたい。

本題材でつけたい追求力は、食品の栄養的な組み合わせに視点をあてて食事を見つめ直すことにある。そこで、食品の栄養素を常に資料などで確かめさせながら進めて行きたい。

4 単元計画（総時数10時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>一日の食事調べをしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝食は簡単にすませている ・ 夕食は1日で最も量が多く 栄養のバランスもとれているようだ ・ 和食が多い ・ 加工食品も使っている <div>加工食品にはどんなものがあるのだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加工食品の問題点と選び方 ・ 手作りの食事が一番よい 	2
二 次	<div>ごはんとみそ汁を作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米の種類 栄養素 ごはんのたき方 ・ みその栄養素 みそ汁の作り方 ・ 実習計画 ・ ごはんとみそ汁の調理実習 	4
三 次	<div>家庭で食事を作るときに気をつけているのはどんなことだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養 味 家族の好み 季節感 費用など ・ 食事の計画＝献立の必要性 <div>ごはんとみそ汁に合う1食分の献立を考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで1食分の献立 ・ わが家の夕食の献立 	4 (本時2/4)

5 本時の学習（三次の2時）

授業の教室（家庭室）
協議会場（家庭室）

ねらい ごはんとみそ汁にどんなおかずを加えると、栄養的に片寄りのない献立になるかを考え、グループで1食分の献立を作る。

意識の変容 ごはんとみそ汁におかずを加えるだけで1食分の献立ができていると考えている児童の意識を、栄養的に片寄りがなさそうかどうかというゆれを通して、6つの食品群のそろった献立が必要であるという意識に変容させる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 課題を知る	5	<p>ごはんとみそ汁におかずを加え 1食分の献立を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～2品のおかずを考えればいい ・ごはんとみそ汁に合うのは 和風のおかずだろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごはんとみそ汁に合うおかずが考えられそうだという意識にさせる（安定の場）
2 よい献立を考える	25	<p>〈よいおかずといえるかな〉</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> <p>ごはんとみそ汁に 味が合うからよい と思う</p> </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;"> <p>⇔</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> <p>6つの食品群がそろっていた方がよいと思う</p> </div> </div> <p>〈栄養的に片寄りのない献立を グループで作ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みそ汁でとれる主な栄養素 ・みそ汁で足りない栄養素 ・主なおかずは何にしよう ・いくつも考えてみよう ・1日に必要な量の$\frac{1}{3}$を1食分のめやすとすればよい ・使う食品は ・使う食品を食品群で分類してみよう ・1食分を絵で表そう 	<ul style="list-style-type: none"> ・6つの基礎食品群がそろっているかどうかというゆれを起こす（ゆれの場） ・みそ汁の内容は とうふ わかめ ねぎ にぼし みそであることを知らせ 足りない栄養素を補うおかずを考えさせる（追求の場） ・資料「1日に必要な食品の分量」を参考に料理の見当をつけさせる
3 作った献立を発表し合う	10	<p>〈グループ毎に 献立を発表しよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不足している食品群はないかな ・よい食品の組み合わせになっているかな ・おかずが工夫してあるな 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしてそのおかずにしたのかわけも発表させる ・使われている食品を食品群で分類させ 栄養的に片寄りがいないか確認させる
4 よい献立をまとめる	5	<p>すべての食品群がそろるように おかずを工夫すると よい献立になる</p> <p>〈次は 自分で夕食の献立を作ってみよう〉</p>	

1 単 元 名 電磁石と電熱線

2 目 標

- ・ 電磁石の導線や電熱線に電流を流して、電流のはたらきを調べさせる。
- ・ 電磁石の強さや電熱線の発熱量を調べるなかで、導線の長さ・電流の強さなどの電気エネルギーに関する条件をそろえて考えられる力を育てる。
- ・ 友だちの考えを自分の考えと似ているところ、違っているところを明確に意識しながら聞くことにより、お互いに考えをより深めようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 本単元は、電流のはたらきを主に電磁石つくり・性質しらべ・電熱線の発熱しらべという力と熱の面からとらえられるようになっていく。

そして、学習を日常生活に活用できるように、モーター・ベル製作、電熱線を用いた実験が多く取り入れられている。

これらからは、目に見えない電気をより身近なものとして意識できるようにするのである。

- ・ 子どもたちは、2・4学年で電気の学習をしている。電流そのもののはたらきについての意識は少ないが、回路についての見方はできるだろう。また、3学年で磁石の性質しらべについては学習している。しかし、電流による発熱については全く学習経験がない。

このクラスの子どもたちは、かなりの意見・考えをもっており、活発に活動するだろう。

- ・ そこで、本単元は「電流のはたらき」という観点で構成し、学習を展開させていきたい。そのため、生活の中から電流に気づかせるところからはいる。

磁石と熱は内容として直接にはつながらない。そこで、電磁石についての学習をしていくなかで、「電流の強さ」を意識させていく。そして、熱についても「電流の強さ」という条件をふまえて実験をしていかなければならないことに、子どもたちが考えつき、実行していけるように指導したい。

4 単元計画（総時数13時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>電気製品の仲間わけをしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電気は力 熱 光 音 に変わるのだ 	1
二 次	<div>電磁石をつくり 性質を調べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電磁石をつくってみよう ・ 磁石のはたらきがあるのかな ・ 電流の向きを変えると 極の向きも変わるよ <div>もっと強い電磁石にしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電流を強くすればよい ・ 巻き線の数を増やせばよい <div>巻き数のちがいと電磁石の強さを調べるとき条件は何か</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 導線の長さをそろえることだ ・ 電流の強さが同じになっていないといけない 	6
三 次	<div>ニクロム線の性質を調べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ エナメル線とニクロム線では どちらの方が発熱しやすいのだろうか ・ 電熱器に使われるニクロム線が熱くならなかった理由を調べよう ・ 電流の強さが大きいと 発熱量も大きいぞ 	3 (本時1/3)
四 次	<div>電磁石の性質を利用した道具をつくろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ モーターをまわそう ・ ベルをつくって ならせよう <div>電熱線の性質を利用した道具をつくろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発泡スチロールカッターをつくろう 	3

ねらい エナメル線とニクロム線の発熱量を比べるには、電流の強さをそろえた実験をしていかなければいけないことに気づく。

意識の変容 生活の場で使われているニクロム線は電流が多く流れるので、発熱しやすいと考えている子ども達の意識を、乾電池につないだ実験ではエナメル線よりも発熱しない事実でゆらす。この理由をさぐるなかで、電磁石の力比べの時の「同じ電流の強さ」を想起させ、発熱量の比較にも「同電流」で比べなければならない意識にさせたい。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 学習課題をつかむ	10	<div>・発ぼうスチロールカッターで切ってみる</div> <div> </div> <div>・発熱を比べる</div> <div> </div>	<div>・カッターで発ぼうスチロールを切り 発熱で切る現象を観させる</div> <div>・乾電池1個では ニクロムよりエナメルの方が熱くなることに気づき カッターの時と矛盾することに気づかせる (安定の場)</div>
2 課題について考える	10	<div>どうして ニクロム線が発熱しなかったのだろう</div>	<div>・発熱の様子は体感でとらえさせたい</div>
3 課題を追求する	20	<div> <div> <div>乾電池では弱すぎる</div> <div>・乾電池を多くするとクロムの方が発熱するのだ</div> </div> <div> <div>電流の強さがちがう</div> <div>・実験方法が問題</div> <div>・電流の量がちがう</div> </div> <div>電流がちがうか調べてみよう</div> <div>乾電池の数を増やしてみよう</div> <div>・電流計</div> <div>エナメルには多く流れ ニクロムではあまり流れていない</div> </div>	<div>・導線に流れる電流量と電気を供給する乾電池の数の観点でゆらしたい (ゆれの場)</div> <div>・流れる電流の量をそろえてニクロム エナメルの発熱のちがいを追求させたい (追求の場)</div> <div>・電磁石の強さ調べの条件を想起して その考えを適応できるように配慮したい</div>
4 まとめをする	5	<div>エナメル線にくらべて ニクロム線は 電気が流れにくいから 発熱しないようだ</div>	

1 単元名 対称な形

2 目 標

- ・ 線対称、点対称な図形について、対応する点を結ぶ線分と対称の軸や対称の中心とのきまりを理解させる。
- ・ 線対称、点対称な図形をとらえるために、線を細分化して点でみたり、対称の軸や対称の中心の位置を変えてみるができる。
- ・ 自分の判断の根拠と友だちの判断の根拠を比べて聞くことにより、自分の根拠を吟味する態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 本単元では、線対称、点対称についてそれぞれ次のように規定する。

線対称な図形は対応する点を結ぶ全ての線分が対称の軸によって垂直二等分される図形である。点対称な図形は対応する点を結ぶ全ての線分が対称の中心により二等分される図形である。いずれも折ると重なる、回すと重なるということを契機として点の対応を明らかにしていくことが重要になると考える。





- ・ 児童は、身の回りの文字やマークなどについて、整った形を直観的にとらえることはできるであろう。しかし、整って見えるのは何故かについては、左右のつり合いがとれているという意識であると思われる。

また、点の対応についても直観の域を出ることはなく、大体重なるという意識であろう。

- ・ 点の対応を明らかにしていくためには、まず点の対応を意識づける必要がある。そこで辺や角のない曲線を含んだ図形を素材に取り入れることにする。曲線図形で対称性を吟味するには、線を細分化して点でみてその対応を考えることになるからである。

また、対称な形の部分として図形を示し、全体を考えさせることにする。対称の軸や対称の中心の位置を変えてみることにより、その任意性に気づかせたいからである。

4 単元計画（総時数11時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	 <p>仲間分けをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 折るとぴったり重なる形—対称な形 ・ 対称の軸に対して合同な図形ができる <p>対称な形を完成させよう</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応する点を結ぶ線分は、対称の軸で垂直二等分される ・ 対称の軸は自由にとることができる（対称な形の作図） 	4 (本時2/4)
	 <p>仲間分けをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 180°回転するとぴったり重なる形 ・ 対応する点を結ぶ線分は1点で交わる <p>点対称 対称の中心</p>  <p>点対称な形を完成させよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応する点を結ぶ線分は対称の中心で二等分される ・ 対称の中心を通る直線で合同な図形 ・ 対称の中心は自由にとることができる（点対称な形の作図） 	4
三 次	対称な形の自分のマークをつくろう	1
四 次	学習のふり返りとまとめ	2


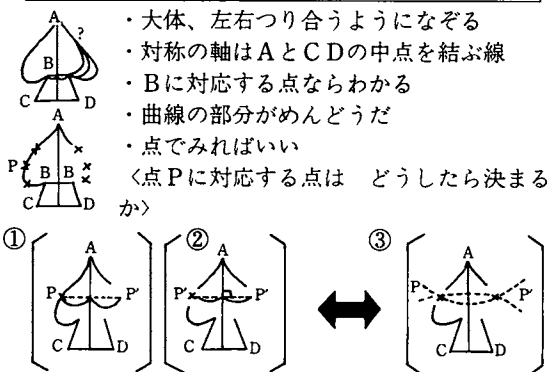
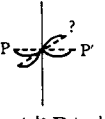
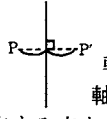
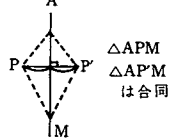
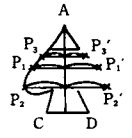

5 本時の学習（一次の2時）

授業の教室（6の3）
協議会場（6の1）

ねらい 線対称な形は、線を細かくとらえて点の対応をみていくことにより、対応する点を結ぶ線分が、対称の軸によって垂直に二等分されることに気づく。

意識の変容 児童は、線対称な形を完成させるには対称の軸に対して左右同じにかけばよいという意識になるであろう。そこで、自分のかいた対応する点是对称の軸に対して本当につり合いがとれているのかというゆれから、対応する点を結ぶ線分と対称の軸との関係に気づかせ、細かく対応する点をとれば線対称な形が完成するのだという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配 時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 素材を知る	5	 <p>線対称な形を完成させよう</p> <p>・折り重ねればよい ・写して裏返せばよい</p>	
2 課題を知る	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 重ねたり 写したりせずに線対称な形をかこう </div>	<p>・対称の軸を明らかにして点Bに対応する点を見つけさせる</p>
3 課題について考える	20	 <p>・大体、左右つり合うようになぞる ・対称の軸はAとC Dの中点を結ぶ線 ・Bに対応する点ならわかる ・曲線の部分がめんどうだ ・点でみればいい 〈点Pに対応する点は どうしたら決まるか〉</p> <p>① ② ③</p> <p>・軸に対し 軸に対し垂直 軸に対し左右 左右同じ長さ 左右同じ長さ 同じ位置 〈PとP'は 軸に対してつり合いがとれているのか〉</p> <p>    </p> <p>△APM △AP'M は合同</p>	<p>・1点Pに限定して対応する点を考えさせる</p> <p>・直線の部分をもとに、自分なりに 左右同じにかけようだという意識にさせる (安定の場)</p> <p>・軸に対して 対応する点が本当につり合いがとれているのかという意識にさせる (ゆれの場)</p>
4 対称な形を完成させる	12	<p>〈点Pに対応する点をとっていけば 対称な形をかけるのか〉</p> <p>・P₁, P₂, P₃だけでは足りない ・もっともっと細かく点をとらないとできない</p> <p>P₄, P₅, ……………</p> 	<p>・線対称な形を完成させるには 点を細かくとって対称する点をとっていけばよいという意識にさせる (追求の場)</p>
5 まとめをする	5	<p>重ねたり、写したりせずに線対称な形をかくには 軸が同じ長さ、垂直にするから 細かく対応する点をとる</p> 	

研究概要 自己教育力の育成 **ゆれのある学習**

本校教諭 沢 野 等

はじめに

- 1 ゆれのある学習のあゆみ
- 2 本年度の研究の方向と視点
- 3 「追求の場」でめざすもの
- 4 追求の場 成立のために——追求力の育成をめざして

- ・ 追求力とは

- ・ 追求力の設定

- ・ 追求力を育てるために

おわりに

体 育 科

動きが高まる追求の場をめざして

——ぼうけんダンボールリレーの実践を通して——

本校教諭 松 本 亮

はじめに

1 体育科における追求の場でめざすもの

2 ぼうけんダンボールリレーの実践から

- ・題材のとらえ方について
- ・追求力の設定について
- ・追求力を育てる手だてについて

おわりに

すしちぬを思ひ来ぬるを消ゆる體

ら 青 中

——「血を流すの——ミリキ——ぬくでふれをけ——」

読 者 公 報 部 刊 行

11月1日

あすすちぬを思ひ来ぬる體は消ゆる體

ふれを流すの——ミリキ——ぬくでふれをけ

——「血を流すの——ミリキ——ぬくでふれをけ——」

あすすちぬを思ひ来ぬる體

あすすちぬを思ひ来ぬる體

11月1日

第2日 5月26日(金)

第2日 授業一覧

1限 公開授業（9：00～9：45）

学年・組	教科	主 題	指導者	授業の教室	掲載ページ
1の1	生活	ぼくもわたしもふぞくっ子	乗富 章子	1階 1 の 2	54
2の2	生活	ぼく、わたしのおべんとう	菅谷内 清	1階 2 の 2	62
3の1	図工	高い塔	清水英理子	1階 図工室	66
3の2	社会	わたしたちの住んでいるところ	中村 光男	2階 3 の 2	70
3の3	理科	わたしの体	新保 修	2階 3 の 3	72
3・4年複式	社会	安全なくらし	寺本 一伸	3階 複式教室	74
4の1	社会	安全なくらし	福永 善則	2階 4 の 1	76
5の1	体育	ソフトベースボール（ボール運動）	松本 亮	運動場（雨天は体育館）	80
5の2	国語	動物の体	新村 裕二	3階 5 の 2	82
5の3	理科	物の溶け方	沢田 祐一	2階理科室（1理）	84
6の1	家庭	毎日の食事	浅田 幸子	2階 家庭室	88
6の3	算数	対称な形	藤森 慎一	3階 6 の 3	94

2限 指定授業（10：00～10：45）

学年・組	教科	主 題	指導者	授業の教室	掲載ページ
1の2	生活	ぼくもわたしもふぞくっ子	橋本 有可	1階 1 の 2	54
1の3	国語	うさぎ	谷内比能雄	1階 1 の 3	58
2の1	算数	三角形と四角形ー1	中西 清二	1階 2 の 1	60
2の3	図工	ゆめのつばさ	藤村いずみ	1階 2 の 3	64
3の1	体育	軽くて柔かい感じ（表現運動）	小笠原佳子	1階 体育館	68
4の3	道徳	ロンとわかれたくない	北川 信広	2階 4 の 3	78
5の3	社会	日本の食料生産	沢野 等	3階 5 の 3	86
6の1	理科	電磁石と電熱線	木戸 実	2階理科室（1理）	90
6の2	音楽	曲の感じを生かして	中村 恵子	3階 音楽室	92

◇ 教科別研究協議会（11：00～12：00）

協議会名	研究協議題	助 言 者	司 会 者	研究協力者	協議会場
国 語	読みが深まる追求の場のあり方（説明文）	金沢大学教育学部 深 川 明 子 先生	津幡町立中条小学校 木 谷 恵 子 先生	金沢市立金石町小学校 長 井 珠 子 先生	1階 1 の 3
社 会	産業学習における追求力育成の手だて	金沢大学教育学部 田 中 武 雄 先生	野々市町立菅原小学校 田 村 喜久恵 先生	金沢市立新神田小学校 砂 田 武 嗣 先生	2階 4 の 1
算 数	算数科における追求力の育成	金沢大学教育学部 宮 下 英 明 先生	宇ノ気町立宇ノ気小学校 大 木 芳 男 先生	金沢市立弥生小学校 浅 岡 吉 宏 先生	3階 6 の 1
理 科	理科的追求力を育てる学習	金沢大学教育学部 松 原 道 男 先生	津幡町立太白白小学校 喜 多 心 也 先生	金沢市立瓢箪町小学校 森 真 治 先生	2階 理科室
音 楽	表現を広める追求力の育成	金沢大学教育学部 水戸部 克 己 先生	内灘町立向栗崎小学校 石 崎 美 恵 先生	金沢市立三谷小学校 清 水 正 明 先生	3階 音楽室
図 工	個を生かす追求の場のあり方	金沢大学教育学部 向 坂 一 弥 先生	七塚町立外日角小学校 中 川 幸 代 先生	金沢市立戸板小学校 滝 川 真 人 先生	1階 2 の 2
体 育	体育科における追求力の育成（表現運動について）	金沢大学教育学部 石 村 宇 佐 一 先生	松任市立千代野小学校 板 倉 朋 文 先生	金沢市立大浦小学校 西 川 茂 治 先生	1階 1 の 1
道 徳	道徳性の発達をうながす追求力	金沢大学教育学部 松 下 良 平 先生	金沢市立菊川町小学校 堀 場 昭 一 先生	金沢工業大学 伊 藤 啓 一 先生	2階 4 の 2
生 活	自立をめざす生活科の授業のあり方	金沢大学教育学部 吉 田 貞 介 先生	金沢市立安原小学校 大 出 松 世 先生	金沢市立瓢箪町小学校 市 川 政 枝 先生	3階 集会室

指導者 1限 乗 富 章 子
2限 橋 本 有 可

1 単元名 ぼくもわたしもふぞくっ子

2 目 標

- ・ 学校には、多くの先生や上級生・友だちがいることを知り、それらの人たちと積極的に交わろうとすることができるようにする。
- ・ 学校には、いろいろな施設・設備があることを知り、それらを上手に利用して、楽しい学校生活を送ることができるようにする。
- ・ 学校生活を送る上で関わりをもつ、施設・設備や人々、動植物と、心の通い合う、明るい交流を持とうとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 本単元は、学校生活の入門期にある子どもたちが、学校の人々や動植物、施設、設備などを知ることきっかけにして、それらの人や物と、より積極的に関わりを持とうとするようになることをねらって設定した。

これまでの社会科や理科でも、同じような単元が組まれているが、生活科では特に「自分と関わりのある」人々や動植物とのふれ合いを大切にしたい。それは、生活科として子どもたちの身につけさせたい学び方のひとつがまず「自分が」気に入ったものや場所をみつけ、その良さや楽しさを十分に味わった上で、クラスの友だちにも知らせ、互いに学び合うことであると考えからである。
- ・ 入学して一ヶ月半あまりの日々で、子どもたちは、クラスの友だちや担任と親しく言葉を交わすことができるようになって来た。一方では、生活科の活動を通して、二年生以上の上級生と交わったり、担任以外の先生を知ったり、教室以外の学習や活動の場所を知り始めたりしている。また、学校行事や児童会活動での「一年生を迎える会」などを通して、それらの人々や施設・設備が、自分たちを積極的に受け入れてくれようとしていることに気づいている。しかし、それらの人々や物は、常に自分たちに対して「してくれる」のであって、自分たちが、考えたり、行動したりといった、積極的な働きかけを「する」、あるいは、自分たちよりも弱い立場にある動植物に対して、優しい行動をとることには、慣れていない。また、まだまだ自分中心の行動が多く、友だちの考えを聞いたり、友だちにわかるように話したりすることにも慣れていない。
- ・ 前単元「ちゅうりっぷをありがとう」では、子どもたちは、2年生が大切に育ててきたチューリップをもらうことを通して、一番身近な上級生である2年生と親しくなった。そこで、本単元では、2年生が案内してくれる活動を中心とした二次「どうぞよろしく(Ⅱ)」を経て、「ぼくのお気に入りの場所」を見つけ、それをクラスの友だちに紹介していく、「みんなのお気に入りの場所」へと広がっていく活動の流れを考えた。
- ・ 教えてもらった楽しい場所で、自分が満足するまで遊ぶことによって、みんなにも知らせ、みんなでもっと楽しく遊べるようにしようと行動できるようにしたい。そして、みんなで楽しむには、その特徴をもっとよく知り、相手の立場を思う優しさが大切であることもわからせたい。

4 単元計画（総時数24時限＋課外）

次	主 な 活 動	時数	次	主 な 活 動	時数
一次 どうぞよろしく(I)	<div>学校の人たちと仲よしになろう</div> <div> 2年生 学校案内をしてもらう 3年生 サインをもらう 4年生 サインをもらう 5年生 授業の様子を見せてもらう 相手の名前先生の名前を教え てもらう 6年生 昼休みに遊んでもらい相手の 名前先生の名前を教えってもらう 校長 } 先生と握手し 名前を教えて 副校長 } もらう 教頭 } 専科の先生 } シールをもら 一年の他クラスの先生 } う 保健の先生 } 事務員さん } どんな仕事をしているか 校務員さん } 調べて書く ○たくさんの方の名前がわかったよ ○学校にはいろいろな仕事をしている人 がいるね </div>	9＋課外	三次 ばくのお気に入り の場所	<div>お気に入りの場所を友だちに教えてあげよう</div> <div> ●案内してもらった中で 一番 お気に入りの場所を決める ●自分のお気に入りの場所へ行き 友だちに 教えたいひみつをみつける ・鉄棒の遊び方 ・花だんの花の名前 ・うさぎのだき方 ・図書室にあるおもしろい本 ●友だちに紹介する準備をする ・絵で ・実際に連れて行って ●紹介しあう ○友だちはいろいろなおもしろいことをみ けているね わたしも行ってみたいなあ </div>	5＋課外 (1の1 4/5 5/5)
	<div>2年生に 学校の案内をしてもらおう</div> <div> ●グループに分かれ 2年生の好きな場 所を案内してもらう ・中庭（花だん ジャングルジム） ・前庭（うさぎ小屋） ・運動場（鉄棒 遊具 砂場） ・図書室 ・集会室など ○学校の中には 楽しい所があくさんあ るんだね </div>	4	四次 みんなのお気に入り の場所	<div>友だちのお気に入りの場所へ行こう</div> <div> ●うさぎ小屋へ行く ・えさを探す （台所の野菜くず 家の庭や近くの野原の草花） ・えさをやる ・うさぎに名前をつける ・うさぎに手紙を書く ●運動場へ行く ・鉄棒の新しい技を教えてもらって遊ぶ ・遊具の楽しい遊び方を教えてもらって 遊ぶ ●図書室へ行く ・代本板を使い本をかりて読む ○友だちのお気に入りの場所も楽しかった ね </div>	6＋課外 (1の2 2/6 3/6)
二次 どうぞよろしく(II)					

5 本時の学習（三次の5時）

1限 授業の教室（1の1）

ねらい 互いに紹介し合った「お気に入りの場所」を絵地図の上で確かめることができる。

（内容選択の視点②⑤⑥）

本時のねがい 前時では、子どもたちは、互にお気に入りの場所を紹介し合って、その場所の名称にに向けてを正しく言えるようになった。しかし、その位置については、はっきりとはわかっていない。本時では、絵地図に印をつける活動を通して、それらの位置関係と共に、自分と同じ場所を選んだ友だちをみつけることができるようにしたい。

授業過程

中心活動	配時	教師の働きかけと児童の活動	教師の意図
1 前時のふり 返りをする	5	<p>〈みんなのお気に入りの場所はどこにあるのかな〉</p> <p>中庭 運動場 飼育小屋 遠くの方 すぐそこ ?</p>	・名称を言い合って前時の活動を思い出させる
2 本時の活動 をみつける	10	<p>〈だれが見てもすぐにわかるようにするにはどうしたらいいだろう〉</p> <p>指さして すぐ行って 場所のわかるような みたら 覚えたら 絵にしてみたら</p> <p>お気に入りの場所がわかるような地図を作ろう</p>	・絵地図で表わすことの意義について少し考えさせてみた
3 絵地図にピンを立てる	25	<p>〈自分のお気に入りの場所にピンを立ててみよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1の1の教室に一度集まってみよう ・中庭はすぐ行けるね ・運動場は玄関を歩いて行くよ ・飼育小屋へはどうやって行くのだったかな <p>〈自分のピンを立てることができたかな〉</p> <p>できたよ できなかったよ (外 一階) </p> <p>〈同じところにたくさ ん立っているね〉 〈な ぜ?〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんと同じだった ・二階三階なので ・一緒にあそびたいな 立てられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のピンを絵地図上の1の1教室に立て そこを出発点として順路をたどりながらピンを動かして行くことによって地図上の位置関係を理解させたい ・一階の平面図だけで活動することで 二階や三階もあるという立体感を意識づけたい
4 本時のねがい	5	<p>友だちのお気に入りの場所がどこにあるかわかったよ 二階（三階）を選んだ人もいる みんなで行ってみたいな</p>	・これでやっとなんかみんなに教えてあげることができるのだという成就感を味わわせたい

5 本時の学習（四次の3時）

授業の教室（1の2）
協議会場（集会室）

ねらい うさぎに家から持って来たえさを与えたり、名前をつけたりする活動を通して、より親しみの気持ちを持って接することができる。（内容選択の視点⑥）

本時のねがい 子どもたちはうさぎがどんな食べ物を好むか知ったが、実際に自分が集めて来たものに向けて 与える活動はしていない。そこで、近所で見つけた草花や台所の片すみにあった食べ物の中からうさぎの食べ物を探し出して学校へ持って来て、それをうさぎに食べさせる。うさぎがうれしそうに食べている姿を見て、子どもたちはなお一層愛着を感じるであろう。そしてさらに、名前をつけよう、手紙を書こうなどもっとうさぎと仲よしになる方法を見つけ、親しみの気持ちを高めていきたい。

授業過程

中心活動	配時	教師の働きかけと児童の活動	教師の意図
1 うさぎさんのえさを見つけた所を話す	7	<p>〈うさぎさんのごはん 持って来たかな〉</p> <pre> graph TD A[うさぎさんにごはん持って来たかな] --> B[台所にあった〇〇〇をもらって来たよ] A --> C[家の近くで見つけた〇〇〇をつんで来たよ] B --> D[たくさん 集まったね] C --> D </pre>	・今まで何気なく見すごしてきたが 自分たちの身の回りには うさぎのえさになるものがたくさんあることを知り見直しさせたい
2 うさぎに自分が持って来たえさを食べさせる	15	<p>うさぎさんに家から持って来たごはんをあげよう</p> <pre> graph TD A[うさぎさんに家から持って来たごはんをあげよう] --> B[おいしそうに うさぎさんの まだ残っているけど コリコリと食 前歯って力が おなかをこわすから べてくれたよ 強いんだね また明日あげよう] B --> C[うさぎさんうれしそうだね とってもかわいいな] </pre>	・自分が持って来たえさを自分で与え 喜んで食べている様子から うさぎに対し一層愛着を持たせたい
3 うさぎに もっとしてあげたいことを話し合う	5	<p>〈うさぎさんともっと仲よしくなりたいな〉</p> <pre> graph TD A[うさぎさんともっと仲よしくなりたいな] --> B[名前をつけてあげよう] A --> C[手紙を書いてあげよう] </pre>	・うさぎの気持ちになり どんなことをしてあげるとうさぎが喜ぶか 考えさせたい
4 うさぎのかんばんを作る	15	<p>〈名前を決めて かんばんを作ってあげよう〉</p> <p>（次時へ）</p> <pre> graph TD A[名前を決めて かんばんを作ってあげよう] --> B[かわいい名前がいいよ] A --> C[強そうな名前がいいよ] A --> D[絵も書いてあげよう] B --> E[小屋につけてあげよう] C --> E D --> E </pre>	・名前をつけることにより もっとかわいがりたい という気持ちに高めたい
5 本時のねがい	3	<p>うさぎさんともっとうれしそうだね 仲よしになったよ</p>	

1 題材名 うさぎ (東書1年上)

2 目 標

- ・ うさぎの食べ物と耳と足について、説明されていることがらを正しく読みとらせる。
- ・ 絵とことばを結びつけて、書かれていることがらを読みとるという経験をさせる。
- ・ 友達や先生の話最後まで聞きとることができるようにする。

3 指導にあたって

- ・ うさぎの特徴を食べ物・耳・足の三つに分け、説明している。いずれも、三つの文で構成されている。耳と足については、第一文で、それぞれの特徴を述べ、第二・三文では、それぞれの働きについて具体的に分かりやすく説明している。また、さし絵が大きくなっており、さし絵と文章を結びつけることで、書かれていることがらが読みとりやすい題材である。
- ・ 子どもたちは、先に学校のうさぎ小屋に出かけ、うさぎと遊んでいる。また、経験的にうさぎを抱いた子もいる。したがって、うさぎの特徴として、耳が長いことや草を食べることは知っている。しかし、その耳の働きや足の働きについてまでは、知識として知っている子は少ない。子どもたちは、自分の経験をもとに、知っていることを話たがったり、表現したりしようとするだろう。
- ・ 子どもたちは、生活経験をもとに知っている知識を並べることで満足するだろう。このような子どもたちの意識を大切にしながら、それぞれの思いをことばや動作で出させたい。そうすることで、「あれ おかしいな。これでいいと思っていたのに」という他の子との思いの違いに気づくであろう。この違いから子どもたちは、教科書の叙述やさし絵に必要感をもつことができると考えた。自分の思いだけでなく、教科書の叙述やさし絵から考えることが大切なんだという経験をさせたい。

4 単元計画 (総時数5時限)

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	全文を読み 読みのめあてを持つ	1
二 次	<p>読み深める</p> <div>うさぎは何を食べるの</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ くさを食べます ・ たんぽぽやしろつめくさが好きでやわらかい木の芽も食べます <div>うさぎの耳はどんな耳なの</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長くて 大きい耳です ・ 遠くの音やあやしい音が聞こえるとすぐに にげることができます だから とっても便利な耳です <div>うさぎはどうやってにげるのかな</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ にげる時は 後ろ足で地面を強くけって ぴょんぴょんと飛びながらとてもはやく走ってにげます だから 丈夫な後ろ足を持っています 	3 (本 時 2 / 3)
三 次	学習のふり返しをする	1

5 本時の学里（第二次の3時）

授業の教室（1の3）
協議会場（1の3）

ねらい うさぎの後ろ足は、地面を強くけって飛びながら走るために、長くて丈夫だということをさし絵や「じめんをつよくけります」や「ぴょんぴょんとびながら」のことはから読みとる。

意識の変容 うさぎのにげ方から、「ぴょんぴょんとびながら、とてもはやくはしります」という叙述を見付けて満足している子どもたちに、「ぴょんぴょんってどうすることなの」と問い返してゆれを起こす。このゆれから、さし絵や叙述から地面を丈夫な後ろ足でけってぴょんぴょんと飛びながらとてもはやく走ってにげることを読み深める。

授業過程


学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 本時のめあてを知る	5	うさぎは どうやってにげるの	・前時の耳を出させてあやしい音を聞かせ にげる動作をした後で聞きたい
2 めあてについて話し合う	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ぴょんぴょん走りながらにげるよ ・ぴょんぴょん飛びながらにげるよ ・とてもはやく走ってにげるよ 〈そのにげ方で つかまらないの〉 ・つかまらないよ とてもはやく走るもの 〈教科書に書いてあるか確かめてみよう〉 ・あったよ………「ぴょんぴょんとびながら、とてもはやくはしります。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもはやく走ってにげるよという意識を強めたい ・叙述をおさえ 飛びながらはやく走るという意識を持たせたい（安定の場）
3 読み深める	25	<p>〈「ぴょんぴょん飛びながら走る」ってどうするの〉</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>ただ単に「ぴょん ぴょん」のことはから 走ること (感覚的な思いで)</p> </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>後ろ足で地面をけって ぴょんぴょんと 飛んで走ること (叙述とさし絵から)</p> </div> </div> <p>(ぴょんぴょんと飛びながら はやく走るって どのような走り方をするのだろう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かるよ だって教科書に書いてあるもの 「はしるときは、うしろあしで、じめんをつよくけります」だから 地面をけってぴょんぴょんと走るんです ・うさぎの後ろ足は 前足よりも 長くて丈夫な足だから ぴょんぴょんと飛びながら走れるんです 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを表現させることで 他の考えとの違いに気づかせたい（ゆれの場） ・教科書を読めば わかることに気づかせたい（追求の場） ・ぴょんぴょんと飛ぶことの連続性に気づかせ 飛びながら走るために 後ろ足が丈夫であることへと意識を結びつけたい
4 本時のまとめをする	5	うさぎは 丈夫な後ろ足で地面を強くけって ぴょんぴょん飛びながら とてもはやく走ってにげるんだよ	

1 単元名 三角形と四角形―1

2 目 標

- ・ 直線概念を導入することで、図形の構成要素である辺や頂点を知らせ、三角形や四角形を理解させる。
- ・ 図形の弁別について、構成要素（観点）で整理・分類する力を育てる。
- ・ 友だちに対して、自分の意見がはっきりと発表できる態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 第一学年では、形の学習として、輪郭に目をつけて、かど・へりなどのことばを用い、さんかく、しかくの見方を指導している、本単元では、図形教育の基礎である、辺や頂点などの構成要素を理解させ、それらの要素で図形を分類することができるようにするのである。そのため、具体的に図形を操作して、辺や頂点を意識づけたい。
- ・ 児童は、三角形や四角形は見ただけで、類別できていると思っているので、辺の数や頂点の数まで考えていない。まだ、かどがいくつあるという見方で類別すると思われる。例えば、 の様な凹形については、さんかくかしかくで意見が分かれるであろう。つまり、辺や頂点の意識がうすく、かどの考えが優先し、その見方は曖昧に終わられると思われる。
- ・ そこで、見た目やかどの見方で類別するのではなく、図形の構成要素である辺や頂点の観点で、しっかりと類別できることを指導したい。また、それらの構成要素について、単にその数だけで構成されているという意識を、具体的に操作し吟味することで、辺の長さの関係に目をつけたり、頂点の位置の関係に目をつけたりして、理解を深めたい。

4 単元計画（総時数7時間）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>まっすぐな線はどれだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見ただけだと 意見がバラバラだ ・ 定規で合わせたり 糸をぴーんとはって調べると分かる ・ まっすぐな線のことを直線という 	2
	<div>さんかく しかくに分けよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ かどのところがはっきりするとよい ・ へりの数で分けるとよい ・ 頂点の数、辺の数で三角形や四角形をきめる <div>辺6本で三角形をつくろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 辺3本で三角形が1つできる ・ 辺3本でも 三角形ができない時がある 辺の長さも大切だ <div>頂点6こで三角形をつくろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 頂点3こで三角形が1つできる ・ 頂点3こでも 一直線だとできない ・ 辺や頂点は 三角形・四角形をつくるのに大切なきまりがある 	3 (本 時 2 / 3)
三 次	<div>三角形・四角形をかこう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 辺や頂点に気をつけてかかないとだめだ ・ 今までの学習をふりかえる 	2




5 本時の学習（二次の2時）

授業の教室（2の1）
協議会場（6の1）

ねらい 三角形の構成要素である辺について、3本の辺の観点で操作すると、三角形が構成できないことがあることに気づく。

意識の変容 児童は、3本の辺さえあれば、三角形ができるという意識でいる。そこで、いろいろな長さの竹ひご（辺）を与えることにする。すると、三角形ができない場合があるのでないかなとゆれるだろう。そして単に、3本の辺で構成できるというきまりの他に、辺の長さについてもきまりがあるのでないかという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 前時をふりかえる	5	く  は何という形かな	・ 3本の辺で三角形ができて
2 課題を確認する	20	・ 三角形だよ 辺が3本 ちょう点も3こある形  辺6本で いろいろな三角形をつくろう ・ 6本だと三角形は2こつくれるよ ・ いろいろな三角形が たくさんつくれそうだよ 〈 赤い辺と 他2本でも たくさんの三角形をつくろう 〉 〔 いろいろな三角形が できるよ 〕 ⇔ 〔 できない時がでてくるよ 〕 ・ 3本さえあれば 三角形はできる ・ できるはずだけど分からない	・ いるんだという意識にさせる ・ 6本の竹ひごについて 色分けしておく ・ 黒板で操作させて 3本さえあれば たくさんの三角形ができるという意識にさせる (安定の場)
3 実際に操作してみる	15	(実際に やって見ないと どうか分からない) ・ あれっ できない時があったよ ・ できる  〈 どうして できる時と できない時があるのだろう 〉 ・ 他の2辺をたおしても とどかない時は 三角形にならない ・ できる時は とどく時だよ ・ 他 全部 確かめよう	・ どうしてできない時があるのだろうという意識にさせる (追求の場)
4 まとめる	5	三角形は 3本の辺があっても できない時がある それは 他の辺2本が みじかい時だ	・ できる時とできない時の操作をもとに どうも辺の長さにひみつがありそうだという意識にさせる

1 単元名 ぼく・わたしのおべんとうーおかずしらべー

2 目 標

- ・ 自分のお弁当を見て、いろいろなおかずが入っていることがわかり、その材料に目を向けることができるようにする。
- ・ お弁当のおかずの材料をどこで買うのかを調べながら、マーケットやお店に興味や関心をもたせる。
- ・ お弁当のおかず調べを通して、自分の食生活に目を向け、それが家族や様々な人たちのおかげで成立していることに気づかせる。

3 指導にあたって

- ・ この単元は、子どもたちにとって親しみのあるお弁当のおかず調べを通して、自分たちの食生活に目を向けさせると同時に、おかずの材料を買う、マーケットや市場、小売店等への興味や関心をもたせるねらいがある。また、自分の食生活が様々な販売店と家族の関係において成立しているという社会的認識や、いつも自分のために栄養のバランスを考え、工夫をこらしてお弁当を作ってくれる家人への感謝の念を育てる教材であると考ええる。
- ・ 子どもたちは、週二回のお弁当を楽しみにしているが、普段は食べることに夢中で、おかずの材料が何であるか、それらの材料をどこから買ってくるのかを考えたことは、あまりないだろう。つまり、食生活への関心はあっても、どんな道筋をたどって店の品物がおかずとなって、自分の口に入るかについて理解していないだろう。
- ・ まず、自分の持ってきたお弁当のおかず調べを導入とし、それを十分観察し、絵を描かせる活動を通して、おかずやその材料に目を向けさせる。そして材料をどこで買うのかを実際に家人に聞き、学級全体では、それぞれの家庭で異なっていることを具体的に知らせていきたい。

4 単元計画（総時数9 時限＋課外）

主 な 活 動		時 数
一 次	<div>おべんとうのおかずはなにかな</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のお弁当の中身をスケッチする ○ おかずには生のものもあるぞ <div>おかずのざいりょうはどこで買ったのだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家人に買ったところを聞く ○ いろいろなところで買うんだな 	2 (本時2/2)
	<div>学校の近くのマーケットを見に行こう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見学に行く ○ ぼくたちも野菜を買ってみたいなあ <div>マーケットへやさいをかいに行こう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで予算を決め 選び 支払いもする ○ 食べてみたいなあ <div>なまやさいをたべよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな風に並べるか設計図を描く ・ 切って食べる ○ 楽しかったなあもっと食べたいなあ 	4 + 課 外
三 次	<div>やさいをつくってみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ なえを植える ○ どんな実がなるかな ○ どんな世話ができるかな 	4 + 課 外

5 本時の学習（一次の2時）

授業の教室（2の2）

ねらい それぞれの家で、お弁当のおかずをいろいろなお店で買っていることがわかる。

（内容選択の視点④、⑥、⑩）

本時のねがい 子どもたちは昨日のお弁当のおかずの材料を家人がどこで買ってきたのかを家で聞いて向けて 来ている。結果的には、比較的マーケットで買う家が多いことになるだろう。しかし、おかずの材料をどこで買ったのかを学級全体で調べてみることにより、マーケット以外にも市場や小売店、あるいは共同購入で買うなど、様々のところでおかずの材料を買うことができることに気づかせたい。

授業過程

中心活動	配時	教師の働きかけと児童の活動	教師の意図
1 自分の家の 買い物の店を 明らかにする	5	<p>〈お弁当のおかずはどこで買ったの〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり きのう言った通りだった ・ちょっときのうの予想と違っていた ・マーケットで全部 おかずの材料を買っている ・マーケットだけでなく 肉屋や魚屋へも行くよ ・米は米屋さんが配達してくれるよ ・野菜は家で少し作っているよ ・市場へ行って魚とか買うこともあるよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べてきたことを確かめる程度にする
2 友だちの店 についても調べ る	35	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>みんなはどこで買うのかな</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケット 米屋 肉屋 市場 生協…… ・いろいろな店がありそうだ ・もっとくわしく調べよう ・行く場所がないよ <p>〈おかずの材料をカードに書いて 買った店の〉 はこに入れよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくはマーケットのはこにカードを全部入れればいいよ ・わたしはマーケットと市場と肉屋だわ ・米屋 肉屋 魚屋 マーケット… ・マーケットのはこにたくさんカードが入ったね ・いろいろの名前のはこができたよ ・それぞれのはこにカードが何枚か入っているね 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの家の買い物にも目を向けさせるために教室に作ったコーナーへ動く活動を取り入れたい ・どんな店を利用する家庭が多いかをわからせたい
3 本時のねがい	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>いろいろ買うところがあるけど マーケットで買う家が多いね 行ってみたいな</p> </div>	

1 題 材 名 ゆめのつばさ（造形あそび）

2 目 標

- ・ 自ら材料を集め、ゆめのつばさを作り、それを身につけて遊ぶことを通して、身近にあるものに目を向け、それらを用いてものを作る楽しさを味わわせる。
- ・ 色々な材料の中から、自分のイメージを表現するために最も適した材料を見つけ出す力を育てる。
- ・ 自分の作品に愛着を持って、最後まで根気強く作り上げようとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 身のまわりにあるものに目を向け、それらを利用して作る楽しさを味わわせることをねらった題材である。自分のイメージしたゆめのはねを作るために必要な材料を探し集めるところから始めたい。材料を求めて身のまわりのものに目を向ける中で様々な素材との出会いが期待できる。また、低学年の児童にとって、作ったつばさを身につけて鳥に変身することは大きな楽しみであり、その中で新たなイメージも広がり、色々な工夫を試みる契機となるだろう。
- ・ 児童は、これまでに工作用紙や色画用紙で面や帽子づくりを経験してきた。また、休み時間におり紙や切りおとしの画用紙で紙工作を楽しむ児童も多い。しかし、全身を飾ること、イメージに合わせて自ら材料を探し集めてくることは初めての経験である。
- ・ 児童は、紙、布、ビニールなど色々な材料を集めてこよう。それらを利用してゆめのつばさを作る過程では、ハサミの使い方、配色の効果、接着の仕方などの学習も含まれてくる。しかし、本題材ではそれらの知識・技能の獲得よりも、まず色々な材料を使ってみよう、使い方を工夫してみようという姿勢を大切にしたい。そうすることで身近な材料を活かす喜び、作中で新たなイメージを広げる楽しさを味わわせることができると考えた。

4 単元計画（総時数8時間）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>ゆめのとりがいる森を作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ お話を聞いて 森の様子を考える ・ 木・草・花などを作ろう 	2
二 次	<div>ゆめのとりになろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんなつばさにしようか考える ・ つばさを作るための材料を集めよう ・ つばさを作ろう もみ紙を作る つばさの形に切りとる ・ つばさを飾ろう 集めた材料ではねを作る はねを並べて接着する つばさの飾りをつけ加えて 仕上げる ・ つばさ以外にも飾りをつけよう 尾・頭なども飾ってみる 	5 (本時5/5)
三 次	<div>ゆめのとりに変身!</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ つばさやそのほかの飾りを身につけて遊ぼう ・ ゆめの森のファッションショーをひらこう 	1

5 本時の学習（二次の5時）

授業の教室（2の3）
協議会場（2の2）

ねらい ゆめのつばさを身につけてみて、もっとゆめのとりらしくなるための工夫を思いつき、つけ加えることができる。

意識の変容 つばさ以外の部分も飾り始めている作品を示すことにより、つばさを飾ることのみに集中している児童に、他の部分も飾ってみたいという意識を持たせたい。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 つばさをつけてみる	7	<p>〈つばさをつけて 森の中をとんでみよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれにも負けない強そうなつばさだよ ・とぶとひらひらきれいなつばさだよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自慢できるつばさができたという思いで安定させたい <p>（安定の場）</p>
2 本時のめあてをつかむ	3	<p>もっと自慢が多いゆめのとりに変身しよう</p> <p>〈ゆめのとりにうまく変身できたかな〉</p> <p> つばさ以外にも 飾りのある作品 ↔ つばさのはねだけ 飾った作品 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つばさを飾ったことだけで満足している子が多いだろう そこで つばさ以外の部分例えば尾を意識した飾りのある作品を提示することでもっと自慢の飾りをふやせそうだという思いにさせたい <p>（ゆれの場）</p>
3 つばさ以外の部分の飾りも工夫する	30	<ul style="list-style-type: none"> ・つばさのほかにも飾りをつけよう ・もっと自慢の飾りをふやそう <p>〈どこを飾ればいいのか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い尾をつけてみよう ・足にも飾りをつけたいな ・頭も飾ったほうがいいよ ・くちばしもつけたいね <p> { 材料はいろいろあるよ いろんな飾りを作ってみよう </p> <ul style="list-style-type: none"> ・もみ紙にはねをつけよう ・くちばしのついたぼうしを作ってかぶろうかな ・おめんを作ろうか ・背中に手一プで飾りをつけよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほんとうの鳥の写真を見せはねや飾りがあるのはつばさだけではないことに気づかせほかの部分も飾りたいという思いを高めたい（追求の場）
4 本時のまとめをし 次時のめあてを持つ	5	<p>体全体がゆめのとりらしくなってきたよ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このつばさなら遠くまでとべそう <p> { こんどは ゆめのとりになってみんなで遊んでみたいなあ </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに経験した工作の方法が役立つことに気づかせた ・材料を十分に用意しておき自由に試してみることができるようになりたい

1 題材名 高い塔

2 目標

- ・ 画用紙の可能性をいろいろ工夫しながら確かめ、丈夫で高い塔を作る楽しさを味わわせる。
- ・ 今までの紙工作の経験や、新たな紙の知識を活かして丈夫な工夫を見つけ出す力を育てる。
- ・ 最後までていねいに、見通しをもって作品を仕上げようとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 画用紙は子どもたちにとって、一番身近な材料であり、低学年では、切ったり折ったりしながら平面的な紙工作や簡単な立体的な作品を作ることができた。

本題材では、さらに紙の特性を活かして丈夫な高い塔を作るには何を工夫すればよいかを考えさせたい。また、一枚の画用紙を無駄なく利用し、できるだけ丈夫で高く作り、高さ比べをすることは児童の意欲を最後まで持続させるものとする。

- ・ 物を作ったり描いたりすることが大好きな中学年の児童にとって、特に紙工作は興味をもつものである。しかし、接着の仕方や切り方も考え、ていねいに見通しをもって作業を進める児童は少ないと思われる。また、紙の方向を考えたり折り方を工夫したりすれば、紙の強度が増すことに気付いていないので、塔作りの前に試作を経験させたい。

- ・ 一枚の画用紙をできるだけ丈夫で高い塔に変えるこの題材では、児童の興味はやはり高さに向くであろう。そこで、いくら高くても少し力を加えれば崩れそうな作品と丈夫な作品とを比較してゆれを起こし、丈夫さの工夫に目を向けさせたい。

ここでの追求力は、丈夫な塔を作るためにどこを工夫すればよいかを、今までの紙工作の経験や新たな紙の特性の知識を活かして、見つけ出すことである。

4 単元計画（総時数4時限）

主 な 学 習 活 動		時数
一 次	<div>画用紙の高さを変えないで 押し ても曲がらない柱を作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ねじる 折る 曲げる 切る 組み 合わせは自由にする ・ 上からだけではなく 横から押し てもつぶれない 	1
二 次	<div>一枚の画用紙を使って できるだ け丈夫で高い塔を作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 画用紙の使い方 ・ 切り方 折り方 曲げ方 接着の仕 方を工夫する ・ 支柱の数や長さ ・ 小部屋をつみあげる ・ 決められた土台の上に建てる <div>紙を無駄なく使い 仕上げよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ まっすぐにつみ上げる ・ 紙の切れはしは 塔の先 飾りに利 用 	2 (本時 1/2)
三 次	<div>できた塔の高さ比べをしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ チャンピオンを決める ・ 塔に名前をつける ・ お互の作品を鑑賞する 	1

5 本時の学習（二次の1時）

授業の教室（図工室）

ねらい 一枚の画用紙を有効に使い、折り曲げ方や接着の仕方を工夫をしながら丈夫で高い塔を作ることができる。

意識の変容 折り方を工夫して丈夫な塔を作ればよいと考えている児童の意識を、折り方だけでは十分とはいえないというゆれを通して 支柱の長さや数 接着の仕方にも気をつけなければという意識に変容させる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 前時を振り返る	5	<p>〈薄い画用紙から丈夫で高い塔が作れるだろうか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折り曲げ方を工夫すればできる ・前時の学習を活かせば作れそうだ 	0 前時の画用紙の折り曲げ方を利用すれば 丈夫で高い塔ができそうだという意識にさせる (安定の場)
2 本時のめあてをもつ	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">一枚の画用紙から台風や地震にも負けない丈夫で高い塔を作ろう</div> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px; text-align: center;"> 折り曲げ方を工夫した高い塔 </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">↔</div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px; text-align: center;"> 折り曲げ方の他にも支柱の数や長さを工夫した高い塔 </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・途中で曲がりそうだ ・横からの力に弱そうだ ・不安定だ ・どこから見ても丈夫そう ・安定感がある ・接着がていねいだ 	・同じ高い塔でも 折り曲げ方の工夫だけでは横からの力や震動で崩れそうだという思いにさせる (ゆれの場)
3 塔作りをする	25	<p>〈支柱の数をふやして下を安定させたり接着をていねいに して もっと丈夫で高い塔を作ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙の使い方はどうだろう ・下からしっかり作ろう ・傾かないよう気をつけよう ・上下のバランスがよいだろうか ・折り曲げ方を工夫しよう 	・丈夫に作るには 折り曲げ方の他にも支柱の組み立て方や全体のバランス 接着の仕方 紙の使い方の工夫も考えなければいけないことに気づかせたい (追求の場)
4 本時のまとめをし次時のめあてをもつ	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">折り曲げ方だけではなく 組み立て方や支柱の工夫やていねいな接着で丈夫で高い塔ができそうだ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・続きをしてもっと高くしたい ・丈夫にしっかりできた ・紙を大切に残しておこう 	・次は何をどうすればよいか見通しをもって一つ一つていねいに作業をさせたい

1 題材名 軽くて柔らかい感じ（表現運動）

2 目標

- ・ 日常生活では表わすことの少ない、軽くて柔かい動きを、身近な題材になりきることを通して、自己の体で工夫しながら表現する楽しさを味わわせる。
- ・ 友だちの動きを見て、自分の動きのイメージと関連づけて考え、自己の動きに取り入れる力を育てる
- ・ はずかしがらず、みんなの前でも動き、友だちの動きを素直に認める態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 本単元では、日常生活で表わすことの少ない動きを、腕を大きくふったり広げたりし、体をかたげたりまわしたりして表現する満足感を味わえる、また、いろいろな方向へ早く走ったり、ゆっくり歩いたりすることにより、工夫する楽しさが味わえる。しかし、自分のイメージする動きと実際の動きが違うというギャップもある。
- ・ この学年の子ども達は、1、2年の時、模倣遊びで、動きをまねする動物や乗物になりきることは十分経験してきた。しかし、本単元では、たんぼの形を模倣する部分と、自ら飛んでいる状態を創造する部分がある。動きたいのにどう動いてよいかわからなくなる子どもが出てくることも予想される。
- ・ そこで、友だちの動きを見ることを手がかりとして、自分に取り込もうとする意欲を授業に生かしたい。それには、教師の言葉かけを中心とし、楽器の音や音楽を使い、子どもの表現したいという意欲を持続させるようにしたい。友だちの動きをまね、自己の表現を広げることで、自己の動きがより深まると考えている。また、本題材に入る前に、リトミックで体の可動範囲を広げておくことで動きを創造する追求力の手がかりとなると考え、指導した。

4 単元計画（総時数4時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<p>〈軽くて柔らかい感じのするものにはどんなものがあるかな〉</p> <p>・ 鳥の羽 しゃぼん玉 風船 雲 たんぼの種などがあるよ</p> <p>しゃぼん玉が飛ぶところを表わそう</p> <p>・ 軽い感じを出すためには つま先立ちで走ったり歩いたりすればいいな</p> <p>たんぼの種が軽く柔らかく飛ぶところを表わそう</p> <p>・ 体をひねったりかたげたりすると柔らかい感じが出せるよ</p> <p>・ くるりと回ったり いろいろな方向に走ると軽い感じが出せるぞ</p> <p>・ 強い風や弱い風を考えて とばされ方を変えるとおもしろいよ</p> <p>・ 風によって たんぼの種の飛ばされ方も 変える方がいいよ</p>	3 (本時3/3)
	<p>班ごとに「〇〇〇の旅」の発表会をしよう</p> <p>・ つま先立ちして、体を大きく動かせば軽くて柔かい感じが出せるよ</p> <p>・ 班で仲良く話を作れたぞ</p> <p>・ マナーよく他の班の表現を見て 良いところを見つけられたよ</p>	1

5 本時の学習（一次の3時）

授業の教室（体育館）
協議会場（1の1）

ねらい 軽くて柔らかい感じのたんぽぽの種を、友だちの動きを見て自分に取り入れていく中で、風の吹き方に合わせた多様な体の動きで表わすことができる。

意識の変容 体を大きく動かしていればよいという意識から、自分の動きは軽くて柔らかく、風の吹き方に合っているのかというゆれを通し、自己の体の動きも早くしたり遅くしたり強弱をつけて変化させればよいという意識に深化させる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 準備運動をする	5	・ジンギスカンのレクリエーションダンスで体をほぐしながら 楽しくおどる	・おどり慣れたダンスで 心も体もほぐしたい
2 課題を知る	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 風によって飛ぶたんぽぽの種を表現しよう </div> <p><どんな風があるかな></p> <ul style="list-style-type: none"> ・強い風 弱い風 台風 たつ巻 そよ風があるよ ・きのうのたんぽぽの種はどの風かな ・そよ風か ちょっと強い風にふかれた種だよ ・いろいろな風に吹かれるたんぽぽの種になろうよ ・きのうやったからもうできるよ ・つま先で走ったり 体をくねらせたりすればいいんだよ 	・前時のつま先立ちで軽く表わすことや柔らかく体を使うことを思い出させ強い風でも動けたぞという意識にさせる (安定の場)
3 動きを深める	25	<p><強い風に吹かれるたんぽぽの種を表わしてみよう></p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> 風の強さに合っていない動き </div> ↔ <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> 体をくねらせたり上体をたおしたりして風の強さに合わせている動き </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・風のことばかり考えて たんぽぽの種だということを忘れているぞ ・つま先立ちしたまま くるくる回ったり大きくゆれたり軽い感じのまま表している子もいるよ ・軽くて柔らかい感じがよく出ている友だちや風の強さに合わせた感じがよく出ている友だちを見つけよう ・○さんはくるくる回っているけど つま先立ちを忘れているよ ・△さんは風の強さに合わせて走る速さを変えているよ ・体をかたげて工夫しているぞ ・<工夫している友達の動きを自分にも取り入れよう> 	・自分はただ速く走っているだけで 強い風に吹かれるたんぽぽの種の軽くて柔らかい感じが本当に表せているのかなという意識にさせる (ゆれの場)
4 本時のまとめをし 次時の課題を知る	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 風の強さに合わせて大きく速く動いたり ゆっくりやさしく動いたりすると 風に吹かれているたんぽぽの種をよりうまく表せられるよ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・次は 班ごとにお話を作り発表会をしよう 	・楽器の音で風の強弱を想像させ 動きが単調にならないよう配慮する ・友だちの良い動きを 視点を限定して見せることにより自分のイメージに合った動きを見つけ易くし 自分に取り入れさせたい (追求の場) ・はずかしがらずに自分の表現を見せられる態度を養う ・動きの深まった部分がどの友だちから取り入れたのか確認する

1 単元名 市のみどりしらべ

2 目 標

- ・ 緑の樹木は、私たちの生活環境を守る大事なはたらきをしていることに気づかせ、緑を守り、ふやす市や市民の努力の大切さを理解させる。
- ・ 地図や資料をもとに、緑のはたらきや人々の緑を守り、ふやそうとする努力を具体的に与えられる力を育てる。
- ・ 自分の考えを持ち、友だちの考えと比べながら聞くことによって、自分の考えをより深めようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 便利で快適な暮らしをもとめ、町は再開発の波でビル化が進んでいる。一方、郊外に目を移せば、住宅や工場、道路建設のために山はけずられ、どんどん田畑はつぶされている。このような開発のエネルギーのなかで、森の都とよばれる金沢でも、人々に安らぎを与え、環境を保全してきた緑は、だんだんと失われようとしている。本小単元では、このような自分たちの住む環境に対して関心を高め、緑の大切さに気づかせ、その保全のために市や市民が努力していることをつかませることをねらっている。
- ・ 児童は、毎日の通学のなかで、町の様子や緑のあり様についてはある程度目を向けていると思われる。しかし、その目は、意識されたものとなっておらず、町を住環境として考えてみようとしたり、緑の役割や分布について注意をはらおうという意識は弱いと考える。
- ・ そこで、児童が興味や関心を持ちやすい動物を登場させることによって、緑の現状や分布をとらえることから学習を始めることにした。また、小鳥や小動物のために緑を守ろうという人々の存在を知るとは、児童に動物の住めないような環境は、人間にとっても住み良い環境とはいえないことに気づかせ、緑の大切さについても十分考えを深めさせれると考える。

4 単元計画（総時数7時間＋課外）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>県庁にタヌキが出たのは どうしてか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近くの城跡は 緑が豊かだ ・ 小立野のガケは 山から緑が続いている ・ 金沢は 町の真ん中でも緑が豊かだ ・ タヌキは この緑を利用して生活している <div>道路建設に反対し緑を守ろうとするのは</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 便利な暮らしのために道路は 必要だ ・ 緑は 心をなごませる 空気をきれいにする 町中の騒音をふせぐ etc ・ 人間が快適に暮らすためには緑は 大事だ 	2 (本 時 2 / 2 時)
	<div>市の緑の多い所 少ない所を調べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山や海べでは緑は 豊かだ ・ 片町や武蔵等町中は緑は少なくビルが多い ・ 町中でも城跡 兼六園 中央公園 犀川べり 寺町等では緑は多い <div>今も昔も市の緑の様子はいっしょかなあ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町中はビルが少なく 緑が今より少し多い ・ 昔は 田畑はすごく多かったのだ ・ 郊外の緑は家や工場 道路のために減った 	2
三 次	<div>市や県の緑を増す計画や活動を調べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑化の市民への宣伝 ・ 緑化協定 ・ 公園や緑地づくり ・ いろいろな緑を守り ふやす努力をしている <div>文や図 絵で金沢の緑をまとめよう</div>	3 + 課 外

5 本時の学習（一次の2時）

授業の教室（3の2）

ねらい 緑を守ろうとする人々の存在に気づき、私たちが生活していくうえで、緑が大事なはたらきをしていることに気づく。

意識の変容 道路は生活に欠くことのできない大事なものであるという意識を、緑を守るために道路建設に反対する人々の存在を知らせることでゆらし、道路は大事だが、人間が快適に暮らすためには緑も大事であるという意識に変容させる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 本時の課題をつかむ	10	<p>道路建設に反対し 緑を守ろうという人々がいるが どうしてなのだろうか 緑の大切さを考えよう</p> <p>〈学校までこれたのは 何を利用できたからか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスに乗ってこれたから ・歩いてこれたから ・バスも歩きも 道路が必要だ ・道は 生活になくてはならないものだ <p>(映像資料) 道路建設に反対する人々</p>	<p>・通学を例にして 道路は私たちの生活に欠かすことのできない大切なものであるという意識に安定させる</p> <p>(安定の場)</p>
・道路の大切さ			
・緑を守ろうとする人々			
2 課題について話し合う	15	<p>・薬学部の植物園の緑を守るために反対しているのだから 道路建設か それとも緑を守ることが大切か</p> <p>〔道路建設が大切〕 ↔ 〔緑を守ることが大切〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路ができると近道 ・動物や昆虫が住めない ・店や家が建ってにぎやか ・緑がなくなると殺風景 ・大学に通う人が助かる ・道路ができると騒音や ・市民全体にとっても便利 交通事故がおこる <p style="text-align: center;">↓ ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路も緑も両方とも大切だ ・鳥や昆虫の住む緑を守ろうと言っているぞ 	<p>・緑を守るために道路建設に反対する人々の存在を知り どうして反対するのか ゆれを生む</p> <p>(ゆれの場)</p> <p>・道路建設も緑を守ることともによりよい暮らしをもとめるものであり 両方とも大切であるという意識に落ちつく</p>
3 緑のはたらきについてしらべる	15	<p>〈鳥や昆虫の住む緑は ぼくたちの生活にとって どうして大切なのだろうか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町に緑があると心がなごむ ・鳥や小動物 昆虫が住む町は うるおいがある ・緑は 町の騒音をふせぐ ・緑は よごれた空気をきれいにしてくれる ・緑は 土地の流出をふせぐ ・緑は 水をたくわえる ・緑は 風から家や田畑を守る etc 	<p>・生活のために必要な道路建設に反対してまで 緑を守ろうとするわけを追求する</p> <p>(追求の場)</p>
4 本時のまとめをし 次時のめあてをつかむ	5	<p>緑は ぼくたちが生活していくうえで 大事なはたらきをしている 鳥や小動物 昆虫の住めないような町は 人間も住みにくいのだ</p> <p>・金沢は 町の真ん中にタヌキが出るほど 緑が豊かなが 緑の現状や分布についてもっとよく調べよう</p>	<p>(資 料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香林坊の街路樹と南町 ・中央公園とハトと遊ぶ人 ・運動場の樹木 ・グリーンベルト ・寺町のガケ ・屋敷森 <p>上記の写真資料で 緑のはたらきを具体的につかまることによって 緑の意味を理解させる</p> <p>(追求力)</p>

1 単元名 わたしの体

2 目 標

- ・ 人の体を観察したり、他の動物と比べたりして、人の体には目、耳、皮膚など生きるのに役立つ感覚器官のあることや、骨や筋肉の働きによって体を動かせることを知る。
- ・ 事実の観察からその理由を考え、確かめるための活動（実験）を、観点を決めて行なっていけるという一連の科学的解決法を育てる。
- ・ 互いに意見を聞き合い、その良い所を自分の考えに生かしていこうとする態度を養なう。

3 指導にあたって

- ・ 外から観察しやすい感覚器や骨格、筋肉の働きなどを、体感を生かして調べることで、その役割や仕組みを知る。そして、改めて人の体の巧みなつくりに気づかせると共に、生命あるものを大切にしていこうという気持ちも育てたい教材である。

- ・ 子ども達は1、2年の生活科で、自然や社会との関わりの中で「自分」を見てきているが、生物としての学習は初めてである。また、この頃の子ども達は体も成長し活発で、筋肉や感覚器を充分使う活動を好むが、これらが日常生活にどれ程役立っているかの自覚は殆んどないし、その巧みな働きへの関心も低い。

一方、学習態度は活発だが、他の意見を自分の考えに生かすことが不十分である。

- ・ まず自分の体に興味を持たせるため、うでずもう遊びから入り、強さの秘密を探る中で筋肉と感覚器の存在に気づかせる。次に、筋肉の働きを体感から調べさせ、腕から全身、そして他の動物と比較させることにより、骨と筋肉の役割を理解させる。感覚器としては目と耳、皮膚を扱い、各々の事実の観察（目が2つあることなど）から、その理由を考えさせ、器官としての巧みなつくりに気づかせたい～そして、単元を通して生物としての人の体のすばらしさに気づかせ、生命を大切にしようとする心情も育てていきたい。

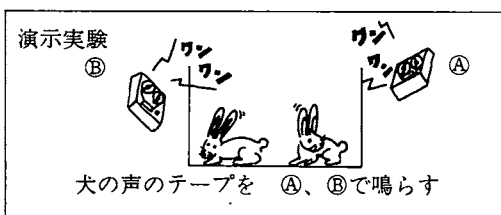
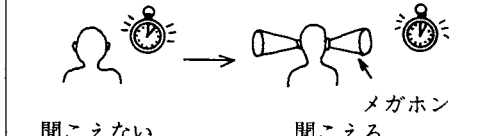
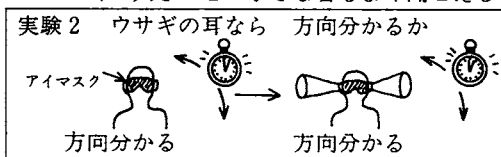
4 単元計画（総時数8時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなでうでずもう大会をしよう チャンピオンが強いのはどうしてかな ・ 力が強いから（うでが太い 筋肉ある…） ・ 相手の動きをよく見ている ・ コツを知っている（手前に倒す…） 力を入れた時のうでのきん肉を調べよう ・ 腕の上の筋肉は曲げると縮んで固い ・ 腕の下は筋肉は曲げると伸びて柔らかい ・ 腕のもけいを作って実験しよう ・ 腕は骨と それに付く筋肉の伸縮で動く 人の体の骨ときん肉のつき方を調べよう ・ 外から手でさわって調べてみよう ・ よく動かす所は たくさん筋肉がある ・ 他の動物も調べて比べてみよう 	3
	<ul style="list-style-type: none"> 周りのようすを知るのに役立つものは？ ・ 目 耳 皮膚 鼻 舌など 目が2つあって 良いことは何だろう ・ 2つの方がよく見え 見える幅も広い ・ 両方で見ると遠い近いがはっきりする 耳の役目は何だろうか ・ ウサギの耳が大きい理由を考えよう ・ 音の聞こえ方と方向を調べてみよう 皮膚の役目は何だろうか ・ 指先の感覚の鋭さを調べてみよう 	4 (本時3/4)
三 次	私たちの体についてまとめよう	1

ねらい 私たちの耳は音を聞くだけでなく、その方向も知ることができるということを、ウサギの耳の動きの観察や、その特徴を生かした実験の結果を元に、気づくことができる。

意識の変容 ウサギの耳の動きを見せることにより、耳は音を聞くだけでなく、その方向を知ることでもあるのではないかと意識をゆらす。そこで、耳が大きいとよく聞こえることを確認し、耳を動かすと音の方向がよく分かるのかの実験を元に、耳は方向を知ることでもある大切な役目があるのだという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 課題を把握する 演示実験	5	<p>耳の役目は何だろう 音を聞く役目がある 〈ウサギの耳のはたらきを調べてみよう〉</p> <p>演示実験 ③</p>  <p>犬の声のテープを ③、④で鳴らす</p>	<p>・耳は「音を聞くためにある」という意識に落ち着かせる (安定の場合)</p> <p>・音に反応するウサギの様子を観察させることにより 耳は音を聞くだけでなく 音の方向を知ることでもあるのではないかと意識をゆらす。 (ゆれの場合)</p>
2 予想をする 話し合い	10	<p>・声がすると 耳が立ったよ ・耳を 声のする方向に向けている 〔小さな音でもよく 聞こえる〕 ↔ 〔音のくる方こうも 分かる〕 ウサギの耳にして 調べてみよう</p>	<p>・「よく聞こえる」は良いが「音の方向も分かる」はどうか という対峙をさせる</p>
3 実験による 検証と結果 実験 1 話し合い 実験 2 話し合い	20	<p>実験 1 ウサギの耳なら よく聞こえるのか</p>  <p>聞こえない 聞こえる</p> <p>耳が大きいと 小さな音もよく聞こえる</p> <p>実験 2 ウサギの耳なら 方向分かるか</p>  <p>方向分かる 方向分かる</p> <p>耳は大きくても小さくても方向わかる ウサギの耳が大きいのは 主によく聞かためだ 耳は 聞くだけでなく 音の方向も分かるのだ 耳がないとしたら 生活していてとても不便だ</p> <p>耳は、音を聞くとともに 音の方向を知るはたらきもある。耳は生活していく上で とても大切なのだ</p>	<p>・それぞれのねらいに合った実験をしているか、各グループの助言や指導をする (追求の場合)</p> <p>・ウサギの耳と 人間の耳の動きを比べながら実験する中で 耳としての働きと ウサギの耳の特徴を見つけさせる</p> <p>・音の方向も分かることを確認する</p> <p>・ウサギの耳が大きいのは 主に聞こえやすいためと確認する</p>
4 結果をまとめる 生活との関連	7	<p>今度は ひふのはたらきについて考えよう</p>	<p>・「耳」としてのはたらきを考えさせる</p>
5 次時の課題をもつ	3		

1 単元名 火事をふせぐ

2 目 標

- ・ 火災から人々の生命や財産の安全を守るために、関係の機関が相互に協力体制を組み、いつ、どこで火災が発生しても、その被害を最少限にいくとめる消火体制が作られていることや、日常も防火にそなえて活動していることを理解させる。
- ・ 問題解決に向けて、資料などでつかんだ事実をもとに多面的にとらえる力を育てる。
- ・ 自分の考えの根拠は何かをはっきりさせて友達の考えと比べることを通して、自分の考えをより確かなものにしていこうとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 火災は、人々のそれまでの営みを一瞬にして文字通り「灰」と化してしまう恐ろしい災害である。本単元は、火災から人々のくらしを守るために、消防本部を中心に関係する諸機関が相互に協力体制を組んで万一の時に備えているほか、日常も訓練や点検、市民への呼びかけなど努力している事の理解を深めさせるものである。
 - ・ 3年生もいる複式学級の実態を考えると、火災や消火活動は、他の災害に比べて身近なものであり、見学や作業を取り入れれることから適切な教材であろう。また、火事の消火活動に関する知識も豊富ではあるが、それが組織的・計画的に行われているということには気づいてはいないし、事実を多面的にとらえる力は十分ではない。
 - ・ そこで、本単元では、まず火事の恐さとともに、消防車が短時間で出動できるシステムを理解させた上で、実際の火事現場での消火活動を、ポンプ車のしくみと水源に目を向けてとらえさせたい。そしてその際、実物や写真、見学などによってより具体的に事実をつかませることを重視したい。
- さらには、身近な学校や家の消火施設を見直したり、火災の原因を追求させる中で、防火に対する関心・態度を一層深めたい。

4 単元計画（総時数 10 時限＋課外）

主 な 学 習 活 動		時数
一 次	<div>火事による被害とはどんなものだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火事は怖い ・ 早く通報することが大切だ <div>119番にかけるとどこにつながるのかな</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防本部につながるのか ・ 本部からいろいろな所に連らくがいくんだ ・ 短い時間で消防車が来れるように市にはたくさんさんの消防署や消防団があるんだ 	3
二 次	<div>火を消すのに必要な水はどこにあるのか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消火栓があったぞ たくさんあるなあ ・ 川や池 学校のプールの水も利用するのか <div>ポンプ車にホースは何本つんであるか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 20本もつんである ・ 大きな火事などで足りなくなったらこまる <div>ポンプ車をどこに止めたのだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必ずしも現場近くの消火栓のそばではない ・ いろいろな条件を考えて止めている <div>学校が火事になっても早く消せるかな</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消火器や消火栓がいくつもあがるぞ ・ 広坂消防署もすぐ近くにあるよ 	5 (本時4/5)
三 次	<div>消防署の人達はふだんは何をしているのか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見学してこよう ・ 消火訓練や点検活動も大切な仕事だな <div>私達はどんなことに気をつけたらよいか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出火原因で火遊びも多い ・ 自分の家の消火施設も見直そう 	2＋課外

ねらい 風の向きや、消火栓の地下水系やパイプの太さのちがいなどから、実際の火事現場では、様々な状況を考慮してポンプ車を止めていることに気づく。

意識の変容 ポンプ車を火事現場に近い水源のそばから順に止めるだろうという意識を、そうではない実態をとり上げることによってゆれを起こし、その現場の状況に応じてどこから水をひけばよいか考えて止めるんだという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 課題を知る	5	<p>（実際に起きた火事現場の消火活動の様子）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> ポンプ車をどこに止めたのだろう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・消火栓のそばだ ・川からも水をとれるぞ 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を提示し 発生状況や消火までの時間を知らせる
2 止めた位置を予想し話し合う ・4分以内にきた5台の位置を予想する	15	<p>〈止めたと思う所を地図に書きこもう〉</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 現場に近い水源のそばに止めた図 （児童） </div> <div style="margin: 0 10px;"> \longleftrightarrow </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 現場近くの2か所の消火栓のそばに止まってない図（教師） </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・火事現場の近くの消火栓から順に止めよう ・川も近いぞ （風向きと地下の水利の条件から 使わない消火栓を2か所設定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・火事現場に近い水源のそばから順に止めるという意識を持つであろう （安定の場） ・現場近くの2か所の消火栓のそばに止まってない図を提示し ゆれを起こす （ゆれの場）
3 自分達の予想とちがったわけを考える ・資料をもとに追求する ・消防署の人の話で確かめる	20	<p>〈現場近くの2か所の消火栓のそばに止めなかったのはどうしてだろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近すぎてかえってあぶないんじゃないかな ・ポンプ車に火がうつたら大変だよ ・風の向きと関係がありそうだ <p>資料①現場付近の風の向き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・でも もう1か所は風の向きとは関係なさそうだ <p>資料②現場付近の地下水系とパイプの太さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火栓は1本のパイプでつながっているぞ ・使われてない消火栓のパイプは細いぞ（75mm） ・水の出方と関係がありそうだ 家でもおふろで水を出すと台所の水の出方が弱くなったよ <p>『風向きはもちろん 地下のパイプの太さや水の流れ方も考えてポンプ車を止めている ほかにも……』</p> <p>〈近くの消火栓が使えないのは他にどんな時だろう〉</p> <p>資料③車が駐車してあるせまい道（スライド）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんな所で車が止まっててもし火事になったら すぐ近くの消火栓が使えないよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・風向きや地下水利などの条件に目を向けさせ 近くの水源全てが使えるわけではなさそうだという意識にさせる （追求の場） ・単純に現場近くの水源のそばから止めなかったわけをいくつかの条件から多面的にとらえさせたい ・道路のはばにも目を向けさせる
4 まとめる ・次時の予告	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> ポンプ車を止める所は 風向きや地下のパイプ道はばなどにも関係があるんだ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・もし学校が火事になっても早く消せるかな 	

1 単元名 火事をふせぐ

2 目 標

- ・ 火災発生時には、被害を最小限にとどめようと消防署や警察など関係諸機関が相互に連絡を取り合い、協力し合っていること。さらに、市では、消防署が中心となって市民を火災から守るために、施設や仕組みを整え組織的な活動がなされていることを理解させる。
- ・ 消防署や関係諸機関の相互活動を理解させるために、資料を具体的に捉える力を育てる。
- ・ 自分の考えを持ち、友だちの考えと比べながら聞くことによって、自分の考えをより深めようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 火災は、時として私たちの生命や財産をも奪ってしまう恐ろしい災害である。市では、人々を火災から守ったり、一刻も早く火を消すために消防署を中心に消防団、警察署、電力会社、ガス・水道局が組織的に活動している。また、火災をすぐ消し止めることができるように消火施設が整備されている。この単元では私たちよ安全なくらしを守るための市の組織的な活動を理解させることがねらいとなる。
- ・ 児童は火災を実際に見たり、新聞やテレビの報道によって直接的に、または間接的に知っている。しかし、火災といっても児童の目は燃えている火の恐ろしさや消防車、救急車のカッコよさ、消火活動の華々しさに向いており、火災に対して興味本位的な見方をしたり現象面だけにとらわれがちである。また、火災を防ぐための設備や仕事についても見ているが気づいていないことが多くある。
- ・ そこで、児童の身近な学校の中の防火施設から学習を始める。それから広坂近辺で起きた実際の火災現場を取り上げ、火災の危険性や恐怖は毎日の生活と隣合わせであるという意識に追い込むことによって、安全のための協力体制や防火施設の持つ意味を理解させたい。さらに、市民の一人として注意すべきことがあるのだということにも気づかせたい。

4 単元計画（総時数9時限+課外）

主 な 学 習 活 動		時数
一 次	<div>学校ではどのように火災を防ごうとしているか</div> <div>・ 消火器 ・ 消火栓 ・ 防火扉など</div> <div>学校の中の防火施設分布図を作ろう</div> <div>・ 学校の中にもたくさんの防火施設がある</div>	3
	<div>火災の様子と被害について調べよう</div> <div>・ 市内の火災発生件数</div> <div>・ 町の様子</div> <div>・ 消防署や消防分団はどこにあるのかな</div> <div>どのようにして火を消すのだろう 協力体制を調べてみよう</div> <div>・ 消防車は用水や消火栓のそばに止まる</div> <div>・ 近くの消防署と協力している</div> <div>・ 同時火災にも備えている</div> <div>・ 消防本部の指令室からの連絡で関係諸機関からも出動し消火活動に協力している</div> <div>・ 消防団があり5分以内で行ける</div>	4 (本時3/4時)
三 次	<div>消防署の人たちは火災を防ぐためにどんなことをしているのかな</div> <div>見学しよう</div> <div>・ 消火訓練 ・ 広報活動</div> <div>・ 建築物の検査</div> <div>まとめの消防新聞を作ろう</div> <div>・ 図や絵であらわそう</div>	2+課外

ねらい 火災現場へ出動してくる消防車は、一つの消防署からではなく隣の消防署管内からも出動してくることを知ることにより、同時火災や第二出動に備えて一つの消防署などから全台出動してこないことに気づく。

意識の変容 火災現場に出動してくる消防車は全て広坂消防署からだろうという意識をなぜ広坂消防署や玉川分署から全台出動させないで遠い出張所からも出動させるのかというゆれによって各消防署などは同時火災や第二出動に備えているのだという意識に変える。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 前時のふりかえりをする	5	<div>7台の消防車（指令車1台を含む）はどのように火を消したのだろう</div> <ul style="list-style-type: none">消防車は消火栓や用水のそばに止まって水を確保していた指令車の指示を受けて消火活動をしていた	
2 本時の課題をつかみ予想する	15	<div>7台の消防車のうち広坂消防署からは何台の消防車がかけつけたのだろうか</div> <ul style="list-style-type: none">広坂消防署の保有台数6台（ポンプ車5台 指令車1台）ほとんど広坂消防署から出動するだろう ↔ 2台しか出動しない広坂消防署が近いか ・ 事実を知らせるらだろう（教師）半分くらいかな	<ul style="list-style-type: none">自分の考えを持てたことで安定する（安定の場）
3 予想とちがったわけを考える	20	<div>他の5台はどこから来るのだろう</div> <p>（資料① 消防署 分署 出張所の位置を表した図）</p> <ul style="list-style-type: none">玉川消防分署 神田出張所からも来るのかな5カ所の消防署などから出動してくるんだな <div>どうして全台が広坂消防署から出動しないで遠い鳴和出張所から出動してくるのだろうか</div> <ul style="list-style-type: none">各消防署の保有台数は何台なのかな（資料② 各消防署の消防車（ポンプ車）の保有台数）消防士さんがいなかったのかな広坂消防署や玉川消防分署には出動していない消防車があるな燃え広がった時のための待機なのかな他の所で火事が起きた時のためなのかな	<ul style="list-style-type: none">火災現場に近い広坂消防署や玉川消防分署から全台出動していないという事実からゆれを起こす（ゆれの場）
・ 資料をもとに考える			<ul style="list-style-type: none">広坂消防署や玉川消防分署から全台出動していないのは同時火災や第二出動に備えているのではないかという意識にさせる（追求の場）
・ 消防署のおじさんのお話			
4 まとめる	5	<div>広坂消防署から2台しか出動しないのは同時火災や第二出動に備えてだ しかも広坂消防署だけではなく他の消防署などもそうなのだろう</div>	<ul style="list-style-type: none">広坂や他の消防車の出動体制を関連づけてとらえさせる

1 主 題 名 ロンとわかれたくない（1主題2時限）

2 目 標

- ・ 主人公勇二に自我関与することにより、友達のこうすけとの約束を大切にすること（信頼・友情）と自分の近くにおいて世話する（動物愛）こととの間で悩む中から、勇二のとるべき行動を考えさせることにより、ロンのためにはどうするのがよいか人間と動物愛について考えさせる。
- ・ 勇二に役割取得できる能力と置かれた状況に対応できる道徳的判断力や心情を育てる。
- ・ 話し合い活動の中から、友達の考えと自己の考えの共通点やちがいに気づき、自己の考えを深めようとする。

3 主題設定の理由

・ 価値について

人間は、自然の中の一員である。このことがはっきりと認識されるならば、自然の動物や植物に対してもこれを保護し、共存できる関係が成り立つものと考ええる。ところが昨今の高度成長をとげ、その結果物質的に恵まれた現代社会の中にあっては、自然破壊が進み人間と自然との共存関係は、危機的状況にあると言わなければならない。今こそ、人間と自然との関係を見直し、人間が本来の自然の中の一員であるとの原点に立ち返り、自然を愛する心をはぐくみ育てなければならないと考える。人間を動植物や自然とのかかわりの中でとらえてこそ、人間が人間らしく、よりよく生きるこてにつながることになるであろう。

・ 児童について

子でもは動物好きである。クラスで動物を飼っている実態を調べてみると、35人中19人が現在飼っている。その種類は、金魚（6人）犬（5人）鳥（4人）うさぎ（2人）、その他となっている。以前、飼ったことのある児童を含めると全員が飼ったことがあると答えている。動物が好きだということはわかるが、その世話となると大変なことである。フンのしまつ、エサやり、小屋や水そうの掃除など朝早く起きたりして世話をしなければな

らない。途中で飼うのをやめてしまった児童の大半は、根気が続かない あきてしまったなどの理由が考えられる。そこで自然の動物も人間と同じように精一杯生きていることをとらえさせ、人間と動物が自然界の中で共存して生きるためその成長を共に喜び、やさしい心で世話していこうという態度を育てたい。

・ 資料について

父の都合で東京へ引っ越すことになった勇二は愛犬ロンを連れて行くことができないので、友達のこうすけにロンの世話をたのむ約束をする。ところが父の友人の青木さんの所で預かってもらえることになり、勇二はどうしようかと迷う。勇二の心の葛藤を浮きぼりにすることにより、自分が勇二になったつもりで考えさせたい。

4 単元計画

主 な 学 習 活 動		時 数
第 一 次	・ みんなどんな動物を飼っているかな ・ 友達の作文「金魚の死」を聞こう ・ 資料を読んで勇二について話し合う 〈勇二はどうするのが一番だろう〉	1
第 二 次	・ 判断・理由づけをもとに話し合う ・ 勇二との共通点や違いを話し合う ・ ロンの望んでいることを話し合う 〈勇二はどうするのが一番だろう〉	1 (本 時)

5 本時の学習（二次の1時）

授業の教室（4の3）
協議会場（4の2）

ねらい 主人公勇二に自我関与することにより、友達のこうすけとの約束を大切にすることと、引っ越し先にロンを連れていって世話をすることとの間で悩む中から、勇二のとるべき行動について話し合う。ロンのためにはどうするのが一番よいか人間と動物愛について考える。

意識の変容 「こうすけとの約束を守ってゆずる」立場の児童には、ロンと離れてしまってもよいのかとゆさぶりをかけ、ロンに対する愛着の気持ちと呼び起こさせる。「引っ越し先へ連れていく」立場の児童には、友達との約束をかんたんに破っていいのかとゆさぶりをかけることにより友達との約束も大切だという意識にさせたい。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 資料を読み 主人公勇二の 置かれた状況 を明らかにする	8	＜勇二の置かれた場面をふり返ってみよう＞ ・勇二はどんなことで迷っていたのだろう 自分が勇二だったらどうするのが一番だろう （友達のこうすけ） にゆずる ・きだ ・親友との約束だから守るべきだ ・こうすけに責任をもつて世話をし ・東京へ連れていってからも充分に世話できないから （自分の近くにおいて世話する） ・自分の近くにおいて世話する ・このすけとはやくそくした ・けど事情がかわったから ・かわいがってきたロンとわかれたいから （せっかく自分で世話できるのにロンと離れてしまってもいいのだろうか） （友達との約束をかんたんに破ってもいいのだろうか）	・前時で学習したことを簡単にふり返り勇二の置かれた状況を把握する（安定の場） ・異質なものが児童の意識の中に明確になるように板書する（ゆれの場）
2 勇二に自我 関与し最初の 判断・理由づけをもとに話し合う	10	（友達のこうすけ） にゆずる ・きだ ・親友との約束だから守るべきだ ・こうすけに責任をもつて世話をし ・東京へ連れていってからも充分に世話できないから （自分の近くにおいて世話する） ・自分の近くにおいて世話する ・このすけとはやくそくした ・けど事情がかわったから ・かわいがってきたロンとわかれたいから （せっかく自分で世話できるのにロンと離れてしまってもいいのだろうか） （友達との約束をかんたんに破ってもいいのだろうか）	・児童の発言の雰囲気を見て小集団による話し合いを取り入れる ・二つの立場の意見がかたよらないように指名する ・教師のゆさぶりによりもう一方の価値に目を向けさせる（追求の場）
3 勇二と自分の 共通点や違いを話し合う	10	・ロンとはわかれるのはつらい ・こうすけにゆずった方がよく世話をしてもらえるのではないだろうか 追求	・勇二と自分との共通性や違いに着目させ主人公の立場に立ち 主人公の心の葛藤と同化できるようにする
4 ロンの望んでいることを話し合う	10	＜ロンはどうすることを望んでいるのだろう＞ ・本当に動物を愛するとはどういうことなのだろう	・視点を転換し ロンの立場に立って考えさせる
4 主人公はどうすべきか最終的な判断・理由づけを書く	7	自分が勇二だったらどうするのが一番だろう ・ロンのためにはどうするのがよいか考えて書こう	・グループや全体での話し合いをふまえて自分の判断や理由づけの変容した姿を書かせる

1 題材名 ソフトベースボール(ボール運動)

2 目標

- ・ ボールを打ったり、投げたり、捕ったりする技能を高め、自分たちでルールを工夫したり、作戦を考えたりして、ベースボール型のゲームを楽しむことができるようにする。
- ・ いろいろな場面を想定し、試してみる中から、より有効な作戦を考える力を育てる。
- ・ 自分たちのチームだけでなく、友達の良いグループを見つけて、自分に生かしていこうとする態度を育てる。

4 単元計画(総時数8時限)

3 指導にあたって

- ・ 本題材は、一定のルールの中で集団で勝敗を競う楽しさが中心である。また、ベースボール型のゲームであり、他の運動にはない。打つ、投げる、捕る、走るという四つの基本的技能から成り立っており、ゲーム様相にも特色がある。しかし、攻撃と防御が分離しており、運動量不足や指導の効率の悪さなどの問題点がある。そこで、攻撃と防御が一体となるゲーム様相へと近づけることが、ゲームの楽しさに迫る大切なポイントだと考えている。
- ・ 本学級は、男子19名、女子18名である。このうち、キャッチボールやソフトボールの経験のある子は男子の中の一部である。女子では、ほとんどの子が、ベースボール型のゲームを体験するのが初めてである。このため用具の工夫や、簡単なルールから始める必要があると考えられる。
- ・ そこで、本題材では、技能差を考慮しティーバッティングからのゲームをすることで、よりスピーディな試合展開をさせたい。また、守備側にも得点できる機会を設けることで、より積極的な守りを引き出したいと考えている。そのためには、ゲームの中での攻撃や守備のいろいろは局面を想定し、自分たちにとって、より有効な作戦を考えることが必要になってくる。その作戦を生かして、攻撃と守備が一体となった、楽しいゲームを作っていきたいと考えている。

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<p>マナーを守って ためのゲームをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームのやり方が分かったぞ ・ 作戦を考えてゲームをしよう 	1
	<p>得点するための攻撃を工夫しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 打順を考えるといいぞ ・ 遠くへ打つ 間へ打つティーバッティングの仕方を考えるといいぞ ・ 早い走塁の仕方も考えよう <p>得点するための守備を工夫しよう</p> <p>(一塁アウト タッチアウトは1点 ダイレクトキャッチ2点のルールを加える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早くボールをとって 早く投げよう <p>↓ ↓</p> <p>動いて 声をかける どこへ投げるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アウトの取りやすい守備位置と打球に合った動きをするといふぞ ・ 中継プレーやカバーの動きをすることで 遠くへ飛んだボールでもアウトを取り得点できるぞ 	5 (本時5/5)
	<p>攻撃と守備の作戦を考えてゲームをしよう</p> <p>(ホームインで1点のルールに変える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダブルプレーやホースアウトがあるよ。 ・ 今までの学習を生かして ソフトベース大会を自分たちでやれたぞ 	2

5 本時の学習（二次の5時）

授業の教室（運動場）

ねらい ボールが間を抜けた時や、遠くへ跳んだ場合を想定して練習し、中継プレーや打者に応じた守備位置を考えた積極的な守りを使ってのゲームができる。

意識の変容 子どもたちは、自分の守備位置については考えている。しかし、外野まで遠くまで飛んだボールや、間を抜けていったボールの処理は考えていない。そこで、外野に飛んだボールでもアウトを取れるのではというゆれを通して、中継プレーなどを生かした、全員で守ろうという意識へ深化させる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 準備運動で体をほぐす	5	・ストレッチ キャッチボール ランニングをして体をほぐしておこう	・チームごとに協力しあってやらせたい
2 本時の課題をつかみ 試しのゲームをする	15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">得点するための守備を工夫しよう</div> ・どこへ動いて 捕ったらどこへ投げるのかを考えられたよ ・打球に合わせて 常に動いて守らなくてはいけない 〈よく動いて 守りで得点できるゲームをしよう〉 ・今日は○対○ 審判は○○さんだぞ	・前時までの学習を生かした作戦を考えて ゲームをすることができたという意識にする （安定の場） ・攻守交代は スムーズに素早くできるようにさせたい
3 中継プレーについて考えて練習する	10	〈守りで得点できたかな〉 <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> 内野ゴロでアウトを取り 得点したよ フライでアウトを取り 得点したよ </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">⇔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> 外野へ飛んだボールや 間を抜けたボールでもアウトを取り 得点したよ </div> </div> 〈外野へ飛んだボールでもアウトを取って得点できる〉 ・中継して パスすれば 遠くでも大丈夫だ 〈一人で投げた方が早いのではないの〉 ・直線的にパスすれば良い ・捕ったらすばやく投げれば良い ・遠投力のある子を外野に置く ・早くて 正確な中継プレーをするといいぞ	・内野と外野を明確にし 間を抜けた遠くへ飛んだボールでもアウトにして得点できるのだろうかというゆれを起こす （ゆれの場） ・遠くへ跳んだ場合を想定し 一人で投げた方が早いのではないかという問いで どんな子でも早くて 正確な中継プレーをすれば アウトが取れるのではないかという意識で練習させる （追求の場）
4 確かめのゲームをする	10	〈作戦を生かしてゲームをしよう〉 ・守りでも攻めでも得点が取れて 増えそうだ	
5 本時の振り返りをする	5	〈守りで得点できたかな〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">素早い中継プレーを使ったり 打者によって守備位置を変えることで 守りの得点も増えてきたぞ</div>	・中継プレーを使っの得点の伸びに目をつけて 追求の場での学習を振り返らせたい

1 題 材 名 動物の体（東書5年下）

2 目 標

- ・ 動物の体は、生きていくうえでそれぞれの住む自然環境に適応した機能を持っていることを読みとらせる。
- ・ 抽象的なことばと具体的なことばを結びつけることや、対称的な例を比べることにより、内容を読みとる力を育てる。
- ・ 自分の持った考えと、友達の考えを比べて聞くことにより、お互いの考えをより深めようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 本単元は、様々な動物たちが、それぞれの環境に適応しながら生きていることを、主にその体の特徴から説明した文章である。筆者は、気温や風土に合った動物の体を、外から見える形（体形、体格の大小、毛皮）と体の仕組みに分けて説明している。また、対称的な例を用いたりしてわかりやすく表現している。自然の神秘ともいえる動物の体は、子どもたちの興味を喚起することだろう。
- ・ 子どもたちは、個人の考えは持つようになったが、他の意見を参考にしたり、比べたりして、さらに深まるということはまだ意識していない。この教材では、動物の体について興味は持つだろう。しかし、これまで印象的な読みが多く、叙述の細部にまで気をつけて読めないため、動物の体がどのように環境に適応しているかまでは読みとれないだろう。
- ・ そこで、丸くて小さい耳をしているホッキョクギツネと大きな耳をしているフェネックという対称的な例を比べることにより、環境への適応を考えさせる。またヒトコブラクダの適応のしかたは、「体温の上昇にたえられる」を「体温が四十度をこえると初めてあせをかき始める」という具体と結びつけることによって読みとらせる。それが本単元において育てたい追求力である。

4 単元計画（総時数 10 時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	・ 全文を読み 読みのめあてを持つ	1
二 次	・ 一人学習をする	3
三 次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み深める <div>ホッキョクギツネやフェネックの体はどのように環境に適応しているか</div> ・ それぞれの環境の中で体温を一定に保っておくために体の形がちがう <div>ニホンシカの体はどうだろう</div> ・ 寒い地方では熱量が必要なので あたたかい地方よりも体が大きいのだ <div>カモシカやフェネックはどうだろう</div> ・ それぞれの環境に合わせて 毛皮の役割がちがうのだ <div>ヒトコブラクダの体の仕組みはどのように環境に適応しているか</div> ・ 体温の上しようにたえられる によ うが少量ですむ……等 ヒトコブラクダの体の仕組みは 高温・水の欠 けというきばく的环境に適応して いるのだ <div>筆者のいいたいことは何だろうか</div> ・ 動物の体は 自然が長い年月をかけて作 りあげた最高のけっさくといえる 	5 (本 時 4 /5)
四 次	・ 筆者の述べ方を考え まとめをする	1

5 本時の学習（三次の4時）

授業の教室（5の2）

ねらい ヒトコブラクダの体の仕組みは、高温・水の欠乏というさばく的环境に適応していることを「体温の上しようにたえられる」と「体温が四十度をこえると初めてあせをかき始める」などを結びつけることで読みとる。

意識の変容 子どもたちはまず、ヒトコブラクダの体の仕組みを並列的にあげてくる。そこで〈すべて環境に適応しているか〉と問い、ゆれを起こす。抽象的なことばと「四十度ぐらいに上がっても…」「四十パーセントまでたえられる」のような具体的事実を結びつけることにより、それだけヒトコブラクダの体はさばく的环境に適応していると深めさせたい。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 本時のめあてを確認する	3	ヒトコブラクダの体の仕組みはどのように環境に適応しているか	
2 めあてについて話し合う	12	<p>〈どんな体の仕組みをしているの〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体温の上しようにたえられる・水分が節約できる ・によが少量ですむ・そまつな食物ですむ ・生きるのに必要な水分を体全体からしぼり出せる ・人間などよりずっと少ない水分で生きていける ・一度に大量の水を飲むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・カード式にして互いを関連づけさせながら板書する ・すべて外形ではなく体の仕組みであることを確認する（安定の場）
3 読み深める	27	<p>〈これらはすべて環境に適応しているといえるかな〉</p> <p>「さばくには水が必要」 ↔ 「いえないのもあるよ」</p> <p>「だからいえそうだよ」</p> <p>（体の仕組みそれぞれについてもっと読んでみよう）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体温の上しよう…四十度をこえると初めて汗 ・によが少量…少量の中へ老廃物 ・水分を体全体からしぼりとる ・人間よりずっと少ない水分で…四十パーセントまでたえられる ・そまつな食物ですむ ・一度に大量の水を飲むことができる ・一度に九十リットルぐらいの水を十分で <p>高温・水の欠乏・植物が少ないさばく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さばくという環境をはっきりと意識させる ・これまでの動物に比べてさらに複雑な仕組みであることからゆれを起こす（ゆれの場） ・具体的にあげられた事実と結びつけることによりさらにさばくという環境に適応していることをはっきりさせる ・さばくの旅が続けられるということは 環境に適応していることだと結びつける（追求の場）
4 本時のまとめをし 次時のめあてを持つ	3	<p>ヒトコブラクダの体の仕組みは 一つ一つが高温水の欠乏というさばく的环境に適応するようになっているのだ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに本時のまとめをする <p>〈筆者のいいたいことは 何か〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の述べ方の工夫にも気づかせ 次時につなげたい

1 単元名 水溶液の濃さと重さ

2 目 標

- ・ 固体が水に溶ける量を調べ、水溶液の濃さと重さの関係を理解させる。
- ・ 水溶液の濃さと重さの関係を調べるために、様々な量で実験を繰り返しながら、その規則性を見つける力を育てる。
- ・ 自分の考えと他の考えを比べ、自分の考えをより確かなものにしていく態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ この単元では溶けていて目に見えない物質も重さが変わらないことをもとにして濃さと重さの関係を調べていく。そして前学年で定性的に理解していた溶けるという現象を定量的に理解する単元である。

したがって上皿てんびんやメスシリンダーが使えるようになることも大切なねらいである。

- ・ 子供たちは日常生活において溶けてしまった物の重さについて意識することは少ないし溶けのこりができるほど大量に物を溶かした経験もない。したがって未知の現象が多い単元だが、工夫して、目の前で実験して確かめることができるので、子供たちにとっておもしろい素材ではないだろうか。

- ・ まず少しずつ濃い食塩水を作りながら、濃くなっていくことをどうやって調べたらよいかいろいろ試していく中で、水溶液は濃くするほど重くなっていくこと及び物は溶けても重さは失なわれないことという本単元を貫く二つの概念を見つけさせる。

その上に立って、さらに濃い食塩水を作らせ、食塩が水に溶ける量には限度があることを見つけさせる。次に上限があるために飽和食塩水の水を蒸発させると食塩が現れてくるだろうと予想を立てさせ、実験させることによって、物質の保存を確かめさせる。

4 単元計画（総時数 12 時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<p>食塩水の食塩をふやしていくと濃くなることはどうすればわかるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なめてみればよい ・ 蒸発させてみればよい ・ 重さを量ってみればよい 	5 (本時 4/5)
	<p>食塩水が濃くなっていくと入れた食塩の分量だけどんどん重くなるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入れた分ほど重さは増えないだろう ・ 入れた分量通り重さが増えるだろう <p>濃い食塩水と薄い食塩水を見分けるにはどうしたらよいか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ体積をとって重さを比べるとよい 	
	<p>どれだけでも濃い食塩水はつくれるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 溶ける量には限度があるんだなあ ・ 水の量によって決まっている ・ もうこれ以上溶けられない食塩水の濃さはどれも同じだ 	
二 次		4
三 次	<p>限度まで溶けている食塩水の水を蒸発させると食塩はどうなるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水だけ蒸発する ・ 食塩がつぶになって出てくる 	3

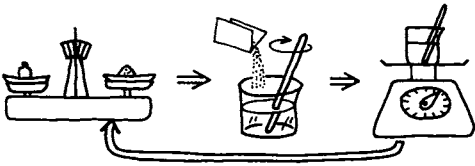
5 本時の学習（一次の4時）

授業の教室（第1理）

ねらい 食塩水の濃さを増していくとき重さは加えた食塩の重さと同じだけ増していくことを、食塩の量を増しながら測定していくことによって見つける。

意識の変容 子供たちにとっても、食塩を水に溶かせば食塩水の重さが増していくだろうということは容易に予想できるだろう。しかし食塩は溶けてしまっ見えなくなってしまうので、少し重さが減ってしまうのではないかという意識であると考えられる。そこで見えなくなっても重さはなくなるのではないかということでゆれを起し、実際に食塩の重さをふやしながら水溶液の重さを量ることで重さが失なわれることを見つけさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 学習の課題をつかむ	5	<div>水溶液が濃ければ濃いほど重くなっていくだろう</div> <div>か</div> <div>濃ければ濃いほど重くなっていくだろう</div> <div>入れた食塩の分量だけどんどん重くなっていくのだろうか</div>	<div>濃さが増すと重さが増していくだろうという意識にさせる</div> <div>(安定の場)</div>
2 課題に対する予想を立てる	10	<div>入れた分ほどは増えず 少し軽くなるのではないか</div> <div>見えなくなるからちよつとは減るのではないか</div> <div>入れた分と同じだけ重さが増えると思う</div> <div>見えなくなっても食塩は水の中にあるのだから重さは減らない</div>	<div>加えた食塩の重さに着目させ、溶かす前と後で変化するかしないのかでゆれを起したい</div> <div>(ゆれの場)</div>
3 課題を解決するための実験をする	20	<div>少しずつ食塩を溶しながら、そのたびごとに重さを量って確かめてみるとよい</div> <div>実験</div> <div></div> <div>重さが増していった</div> <div>どのときも 加えた食塩とほとんど同じだけ増していった</div>	<div>何回か量りどれも同じ結果になるか調べさせる</div> <div>(追求の場)</div>
4 まとめをする	10	<div>食塩はとけても重さはそのまま 食塩水は入れた食塩の重さと同じだけ重さがましていく</div>	

1 単元名 米の生産にはげむ人々——稲作農業の問題点——

2 目 標

- ・ 米の生産地では、米の生産調整や兼業農家の増加に加えて、米の価格の国際競争力も問題となっていることを知らせ、農村の様子に変化してきていることに気づかせる。
- ・ 稲作農業の問題点やその対策について、農業の現状だけでなく、消費者の声や国際的な視点に立つなどさまざまな面から考える力を育てる。
- ・ 事実に基づいて自分の考えを持ち、他の考えと比較しながら自分の考えを深めようとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 近年、日本の米市場に対する風あたりが強い。原因は、日本の米の流通の閉鎖性にあるといえよう。今、米市場の解放を求める海外の声に対し、政策的な見直しを迫られている。また、小規模集約的な稲作農業自体も、体質改善を余儀なくされている。本単元では、このような日本の稲作農業の問題点を知らせるとともに、米を国際競争力のある作物にするための農家の努力や、それに伴う農村社会の変容に気づかせることがねらいである。
- ・ 児童はこれまでに、稲作農家が消費者の要望に応えるため良質米の生産に努力してきたことや、機械化を進めた結果、労働力が余り兼業化が進んだことを学習してきた。しかし、子どもたちが農業をしている人と接することが少なく、具体性を持った理解は不十分である。また、稲作農業が持っている問題点についての関心も薄い。
- ・ この単元では、まず農村がこれまでかかえてきた生産調整の問題にふれる。その上で米の輸入自由化問題を窓口として、新たな課題となっている高い米の生産コストについて考えさせたい。また、新しい農家の動きとして、受託経営をしている農家を具体事例としてとりあげるにより、農村の様子の変化に関心を持たせて学習に取り組ませたい。

4 単元計画（総時数6時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>米の生産調整はなぜおこなわれたのだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米の消費が減った ・ 収穫量が増えた <div>生産調整によって農村は変化したのだろうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米さえ作ってあれば安心ということではなくなった ・ 転作は技術や価格の面などでむずかしい ・ 兼業農家がますます増えた 	2
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米の輸入自由化の問題が起きた <div>日本の米の値段が高いのはどうしてだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 味はアメリカの米もあまりかわらない ・ 日本の稲作は肥料や農薬を多く使う ・ 機械化を進めたのでなおさら費用がかかる ・ 日本は狭い土地からおいしい米を少しでも多く収穫しているから費用がかかるのだ <div>日本の米はもっと安く生産できないだろうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ もっと大規模にすればよい ・ 委託栽培で経営面積を広げている農家があり専業で米作りをしている ・ 共同で広い土地をまとめて耕作している ・ 安い米が輸入されてもだいじょうぶなようにいろいろ農村では工夫している 	3 (本 時 1 / 3 時)
三 次	<div>これからの稲作農業はどうなるだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安い米 味の良い米を作ることが中心 	1

5 本時の学習（二次の1時）

授業の教室（5の3）
協議会場（4の1）

ねらい 日本とアメリカの稲作の状況をさまざまな面から具体的にとらえることにより、日本の米は小規模で集約的な農業であるために値段が割高になることを知る。

意識の変容 日本の米がアメリカの米と比べて高いのは、品質が良いのが主な理由だろうという意識を、味があまり変わらないのにどうして日本のはこんなに高いのかというゆれによって、日本の稲作は規模が小さいところに機械を多く使い、肥料や農薬も大量に使って収穫をあげているから値段が高くなるのだという意識に変容させる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 米の輸入の問題点を考える	5	<p>日本はアメリカから米を輸入するよう要求されているのに断っているのはどうしてだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は米が余っているから輸入する必要がない ・アメリカの米は安いので日本の米が売れなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の米の値段が非常に高い事実を示し問題意識を高める
2 本時の課題をつかみ考えを話し合う	15	<p>日本の米がアメリカの米より何倍も値段が高いのはどうしてだろう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の米は味がいい ・農家の人は手間をかけて作っている ・安い値段だと農家の生活が困る ・主食だから高くても売れるのではないか </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカは土地が広いのでたくさん作っている ・アメリカの米の味は日本の米とそれほどかわらない </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習経験や生活の中で得た知識をもとに各自が考えを持つことで安定させる（おいしいから高いとか高く売っているという意識） （安定の場） ・アメリカの米は日本の米と味が同じという事実によって「どうしてこれほど値段が違うのか」というゆれを起こす（ゆれの場）
3 アメリカと日本の米作りの様子を比べる	20	<p>味が同じなのに日本の米はどうして高いのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の米は高く売っているのだろうか ・アメリカとは稲作のしかたが違うのかも知れない ・アメリカではどのように米作りをしているのだろう ・田がとても広い（農家一戸あたり日本の100倍） ・10aあたりの収穫量は日本より多いほどだ ・大がかりな機械を使い 生産にかかる費用が少ない ・肥料代は1/7 農薬代は1/8 機械代は1/18 ・1000kgの生産費を比べると日本の約1/9しかない <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の稲作——狭い田でおいしい米をたくさん収穫 →高い肥料代・農薬代・機械化の費用 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカと日本では米の作り方が違うのではないかという意識で追求を深めさせる （追求の場） ・良質の米作りの工夫をしてきた農家の姿をもとにアメリカの米作りと比べてどうして高くつくのか いろいろな資料を具体的にとらえる力を追求力と考えたい
4 本時のまとめをし 次時のめあてをつかむ	5	<p>日本の米作りは狭い土地で機械を使い 多くの肥料や農薬を使って良い米をたくさん収穫しようというやり方だから 値段が高くつくのだ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このままで米の輸入をしてもいいのだろうか ・日本の米はもっと安く生産できないのだろうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りの様子を比較する場合 いろいろな面から具体的に考えることの大切さに気づかせたい

1 題材名 毎日の食事

2 目標

- ・ 自分達の食生活の実態から、計画的な食事のとり方が必要であることを理解させる。
- ・ 米やみそについて栄養上、調理上の特徴を知らせ、ごはんのみそ汁作りの基礎的な知識や技能を身につけさせる。
- ・ 食品の栄養的な組み合わせに視点をあてて、毎日の食事を考察する力を育てる。
- ・ 食品に関心を持ち、健康的な食生活を実践しようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 食事は子ども達の健康を保ち、成長を促す大切な役割をもっている。また、今までの学習から食品を片寄りにくく組み合わせて食べることの必要性を理解している。しかし、現実の食生活を見つめてみると問題点も多く、毎日の食事により強く関心を持たせねばならないと考える。中でも、ごはんのみそ汁の学習や1食分の献立作りは、毎日の食事と係りが深く、よりよい食生活を考える上で意義深い内容である。
 - ・ ごはんのみそ汁の調理実習に児童は、高い関心を示しているが、栄養についての興味、関心となると低調である。また、献立作成の基盤となる日常の食生活や調理経験などに個人差がみられる。
 - ・ そこで、ごはんのみそ汁の調理実習を初めに位置づけ、次の献立作成に向けての共通学習経験と考えたい。それでも、まだ調理経験の乏しい児童にとって、色々な食品や料理を組み合わせる1食分の献立を考えることは、かなり困難であろう。そこで、初めはグループで話し合いながら1食分の献立を考えさせ、次に各自で作成させたい。
- 本題材でつけたい追求力は、食品の栄養的な組み合わせに視点をあてて食事を見つめ直すことにある。そこで、食品の栄養素を常に資料などで確かめさせながら進めて行きたい。

4 単元計画（総時数 10 時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>1日の食事調べをしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝食は簡単にすませている ・ 夕食は1日で最も量が多く 栄養のバランスもとれているようだ ・ 和食が多い ・ 加工食品も使っている <div>加工食品にはどんなものがあるのだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加工食品の問題点と選び方 ・ 手作りの食事が一番よい 	2
	<div>ごはんのみそ汁を作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米の種類 栄養素 ごはんのたき方 ・ みその栄養素 みそ汁の作り方 ・ 実習計画 ・ ごはんのみそ汁の調理実習 	4
三 次	<div>家庭で食事を作るときに気をつけているのはどんなことだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養 味 家族の好み 季節感 費用など ・ 食事の計画＝献立の必要性 <div>ごはんのみそ汁に合う1食分の献立を考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで1食分の献立 ・ わが家の夕食の献立 <div>よい食事とは</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族そろって食べる大切さ 	4 (本時3/4)

5 本時の学習（三次の3時）

授業の教室（家庭室）

ねらい ごはんとみそ汁を中心にした栄養的に片寄りのない献立を、自分の家族を思い出して作ることができる

意識の変容 栄養的に片寄りのない献立を作ればよいと考えている児童の意識を、栄養面以外にも考えることができるのだというゆれを通して、栄養的に整い、しかも家族への思いやりが感じられるのがよい献立であるという意識に変容させる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 課題を知る	5	<p>〈献立を作るときに一番大切なことは何だったかな〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養のバランスがとれていること ・どの食品群からも食品を選ぶこと <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ごはんとみそ汁を中心としたわが家の夕食の献立を作ろう</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> <p>〔栄養素が整っている〕 献立を作ろう</p> </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;"> <p>↔</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;"> <p>〔栄養素の他にも考えよう〕 ・家族の好みがある ・季節も考えたい</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養的に片寄りのない献立がよいのだ（安定の場） ・栄養的にバランスがとれていることも大切だが 他にも考えるともっとよくなるのだというゆれを起こす（ゆれの場）
2 わが家の夕食の献立を考える	25	<p>〈どんな献立にしたらよいだろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかず みそ汁 両方とも考えよう ・食品の組み合わせは ・栄養素は ・すべての食品群がそろったかな ・家族の好き嫌いも考えよう ・季節感も出したい ・1食分を絵で表そう 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養的に整い しかもわが家に合った夕食の献立を考えさせる（追求の場） ・前時にグループで考えた献立の作り方を想起させる
3 作った献立を発表し合う	10	<p>〈各自で考えた夕食の献立を発表しよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごはん みそ汁 おかず（主菜 副菜） ・使われている食品 ・考えたわけ ・友達の考えた献立のよいところ 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたわけも発表させそれぞれのよさを確認し合わせたい
4 よい献立をまとめる	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>栄養的に片寄りがなく 家族のことなどを考えるととてもよい献立になる</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈献立の他に 楽しい食事にするためには どのようなことが大事なのだろう〉</p> </div>	

1 単元名 電磁石と電熱線

2 目 標

- ・ 電磁石の導線や電熱線に電流を流して、電流のはたらきを調べさせる。
- ・ 電磁石の強さや電熱線の発熱量を調べるなかで、導線の長さ・電流の強さなどの電気エネルギーに関する条件をそろえて考えられる力を育てる。
- ・ 友だちの考えを自分の考えと似ているところ、違っているところを明確に意識しながら聞くことにより、お互いに考えをより深めようとする態度を育てる。

3 指導にあたって

- ・ 本単元は、電流のはたらきを主に電磁石づくり・性質しらべ・電熱線の発熱しらべという力と熱の面からとらえるようになっている。

そして、学習を日常生活に活用できるように、モーター・ベル製作、電熱線を用いた実験が多く取り入れられている。

これらから、目に見えない電気をより身近なものとして意識できるようにするのである。

- ・ 子どもたちは、2・4学年で電気の学習をしている。電流そのもののはたらきについての意識は少ないが、回路についての見方はできるだろう。また、3学年で磁石の性質しらべについては学習している。しかし、電流による発熱については全く学習経験がない。

一方、このクラスの子どもたちは、実験を好みかなり見通しを立てて学習できると思われる。

- ・ そこで、本単元は「電流のはたらき」という観点で構成し、学習を展開させていきたい。そのため、生活の中から電流に気づかせるところからはいる。

磁力と熱は内容として直接にはつながらない。そこで、電磁石についての学習をしていくなかで、「電流の強さ」を意識させていく。そして、熱についても「電流の強さ」という条件をふまえて実験をしていかなければならないことに、子どもたちが考えつき、実行していけるように指導したい。

4 単元計画（総時数 13 時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>電気製品の仲間わけをしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電気は力 熱 光 音 に変わるのだ 	1
二 次	<div>電磁石をつくり 性質を調べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電磁石をつくってみよう ・ 磁石のはたらきがあるのかな ・ 電流の向きを変えると 極の向きも変わるよ <div>もっと強い電磁石にしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電流を強くすればよい ・ 巻き線の数を増やせばよい <div>巻き数のちがいと電磁石の強さを調べるとき条件は何か</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 導線の長さをそろえることだ ・ 電流の強さが同じになっていないといけな 	6
三 次	<div>ニクロム線の性質を調べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ エナメル線とニクロム線では どちらの方が発熱しやすいのだろうか ・ 電熱器に使われるニクロム線が熱くならなかった理由を調べよう ・ 電流の強さが大きいと 発熱量も大きいぞ 	3 (本時1/3)
四 次	<div>電磁石の性質を利用した道具をつくろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ モーターをまわそう ・ ベルをつくって ならそう <div>電熱線の性質を利用した道具をつくろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発泡スチロールカッターをつくろう 	3


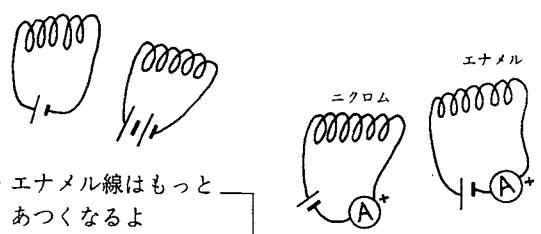

5 本時の学習（三次の1時）

授業の教室（第1理）
協議会場（第1理）

ねらい ニクロム線とエナメル線の発熱量を比べるには、電流の強さを同じにしなければならないことを実験事実から気づく。

意識の変容 電熱器に使われるニクロム線は発熱しやすいと思っている子どもの意識を、乾電池につないだ実験ではエナメル線よりも発熱しないという実験事実でゆらす。この理由をさぐるなかで、電磁石の強さ比べをしたときに「電流の強さを同じにして」調べたことを想起させ、発熱量を調べるときにもそれがあてはまるという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 課題を知る	5	<p>（電熱器に使われる）ニクロム線の性質をエナメル線と比べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 電流を通して 発熱を調べよう （電熱器に使われる）ニクロム線と（電磁石で使った）エナメル線では どちらの方があつくなりやすいか 電熱器に使われているニクロム線の方があつくなるだろう 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちはニクロム線を知らないので 電熱器に使われていることを知らせ 赤くなることを見せる このことから ニクロム線の方が発熱しやすいと考えるだろう（安定の場合）
2 予想を確かめる	5	<p>実験 手でふれながら 比べる</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果を発表するなかでニクロム線が発熱しないのはおかしいぞ 何か理由がありそうだと 調べようという気持ちにさせる（ゆれの場合）
3 実験結果について話し合う	10	<p>〈ニクロム線の方が発熱しなかったわけは何か〉</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> パワー不足なのだ 電池の数を増して調べよう </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">⇔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 電流の強さが違うのではないかと 電流を測ろう </div> </div>	
4 自分の考えにあった検証実験を行う	15	<ul style="list-style-type: none"> 電熱器では まちがいなくニクロム線の部分があつくなっている  <ul style="list-style-type: none"> エナメル線はもっとあつくなるよ 流れる電流が弱いので 発熱しなかったのだ 	<ul style="list-style-type: none"> ニクロム線とエナメル線の何がちがうのかに目を向けていくようにさせる（追求の場合） 電熱器で発熱するのはニクロム線の部分で 導線はあつくならないことを知らせる 両方の考えをまとめる形として共通実験を考えさせる
5 本時のふりかえりをする	5	<ul style="list-style-type: none"> 流れる電流の強さを同じにすると 発熱するかもしれない どうすれば 流れる電流を同じにできるかな 	
6 次時の学習課題をつくる	5	<ul style="list-style-type: none"> ニクロム線とエナメル線を直列つなぎにすれば 電流の強さが同じになるのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> 電流の流れにくいニクロム線と流れやすいエナメル線をつないだときの電流の流れ方が一定になるのか考えさせる

1 主 題 名 曲の感じを生かして (ミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』より)
「ひとりぼっちの羊飼い」「エーデルワイス」

2 目 標

- ・ 曲の背景を理解し、曲の感じを生かした歌い方を工夫することができるようにする。
- ・ 曲のイメージを豊かに表現しているかどうかを、発声をもとに聴き分ける力を育てる。
- ・ 友だちの表現や範唱テープなどを、自分の表現に生かそうとする態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ ヨーデルは、スイスのアルプス地方やオーストリアのティロル地方の民衆や牧人の間で歌われている。「ひとりぼっちの羊飼い」では、ひとりぼっちのヨーデルにさそわれ、羊雲までやってくるといったように、高音の美しい響きを要求される。広大なアルプスの山々に響きわたるヨーデルのイメージを大切にすることにより、体の安定してきた6年の児童は、自然に高音の響きのある発声法を身につけていくことができる。
- ・ これまでに数多くの合唱曲を歌いこんできた。高音域も低音域も、だいたい同じような音色で歌い、ハーモニーの美しさを味わい歌えるようになってきた。しかし、ヨーデルを歌った経験がなく、高音域がやや不慣れであるように思える。ヨーデルの曲のイメージを感じ取ることはできるが、高音域の発声に、やや抵抗があると思われる。
- ・ すがすがしい高原で歌うヨーデルの美しさを十分感じ取らせたい。自分たちの力で美しいヨーデルを表現できたと安定している児童に、高音の響きの美しいヨーデルを聴かせることにより、ゆれを起こしたい。歌い方の秘密をさぐり追求が始まるであろう。しかし、曲の感じを出そうとして歌うのだが、発声法に問題があるため、自分たちの力でゆれをおさめることができなくなると思われる。このような時、高音の声のあて方のポイントをふり返らせ、張りのあるヨーデルとなるよう追求させたい。

4 単元計画 (総時数9時限)

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	<div>「ひとりぼっちの羊飼い」を歌おう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミュージカルを見た感想を出し合い 曲のイメージをつかむ ・ ヨーデルについて知る ・ 高の跳躍のはげしいところなど いねいに練習する ・ 美しい響きの二部合唱にする 	3
	<div>ヨーデルの歌い方を工夫しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに役を決め ヨーデルの部分に分けて歌い 役になりきって歌う <div>ひつじ雲を呼ぶようなヨーデルの歌い方を工夫しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雲までとどくようなヨーデルの歌い方の秘密をさぐる ・ 遠くまで響く高音の発声を試唱する ・ 高音の声のあて方のポイントを知り 繰り返して練習をすることにより ひつじ雲を呼ぶようなヨーデルが歌える 	3 (本時2/3)
三 次	<div>「エーデルワイス」を歌おう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美しい旋律の流れを感じ取り フレーズのまとまりのある歌い方を工夫する ・ 祖国の花エーデルワイスに語りかけるように歌う 	3


5 本時の学習（二次の2時）

授業の教室（音楽室）
協議会場（音楽室）

ねらい 高音の声のあて方に気をつけることにより、ひつじ雲も呼ぶようなヨーデルとなることがわかる。

意識の変容 児童は、自分たちの歌い方で美しいヨーデルが表現できたという意識に安定するであろう。このような児童の意識に、高音の声の響きの美しいヨーデルを聴かせることにより、もっと他に、ひつじ雲を呼ぶ歌い方があるんだというゆれを起こしたい。ヨーデルの歌い方を工夫すると、もっと遠くまで呼べるんだという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 歌う	7	〈ひとりぼっちの羊飼いを歌おう〉 ・アルプスで歌ってる感じがしたよ ・ヨーデルの部分が美しく響いていたよ ・雲がたくさん集まっていたよ	・アルプスの山にいるような気持ちにさせ すがすがしく歌わせる ・美しいヨーデルが歌えたと満足させる（安定の場）
2 課題をつかむ	10	<div>ひつじ雲を呼ぶようなヨーデルの歌い方を工夫しよう</div> <div>《みんなのヨーデルは 雲までとどいたかな》</div> <div>〔自分たちのヨーデル〕 ↔ 〔範唱テープのヨーデル〕 ・雲までとどいていない ・ヨーデルの発声に秘密があるぞ</div>	・聴く観点を 雲までとどいているかどうか限定して聴かせる ・範唱テープが 自分たちの表現より はるかに遠くまでとどいている表現になっているのに驚き 歌い方の秘密をさぐりだすであろう （ゆれの場）
3 グループごとに追求する	23	〈グループごとに ひつじ雲にとどくようなヨーデルの歌い方を工夫しよう〉  ・高いソの音もきれいにひびくといいね ・のどに力を入れると高い音は遠くまでひびかないね ・高音の声のあて方にポイントがあるぞ ・〇〇君みたいに声を出すといいね	・グループごとに分かれてこれまでの発声法を手がかりに試唱させる（追求の場） ・上手な児童の範唱を聴かせ高音の声のあて方に気づかせる ・児童の実態に応じて 部分的な跳躍の発声練習をさせ 高音が瞬間的にでもひびくようにさせる
4 本時のふり返しをし 次時のめあてをつかむ	5	〈どんな歌い方をしたら ひつじ雲を呼ぶようなヨーデルになるかな〉 <div>アルプスの山にいるようなすがすがしい気持ちで高音の声のあて方に気をつけて歌うと ひつじ雲を呼ぶようなヨーデルになるよ</div>	・秘密はわかるのだが 実際に表現するのは難しいと思われるので 次時は表現を重視するようにする

1 単元名 対称な形

2 目 標

- ・ 線対称、点対称な図形について、対応する点を結ぶ線分と対称の軸や対称の中心とのきまりを理解させる。
- ・ 線対称、点対称な図形をとらえるために、線を細分化して点でみたり、対称の軸や対称の中心の位置を変えてみるができる。
- ・ 自分の判断の根拠と友だちの判断の根拠を比べて聞くことにより、自分の根拠を吟味する態度を養う。

3 指導にあたって

- ・ 本単元では、線対称、点対称についてそれぞれ次のように規定する。

線対称な図形は対応する点を結ぶ全ての線分が対称の軸によって垂直二等分される図形である。点対称な図形は対応する点を結ぶ全ての線分が対称の中心により二等分される図形である。いずれも折ると重なる、回すと重なるということを契機として点の対応を明らかにしていくことが重要になると考える。

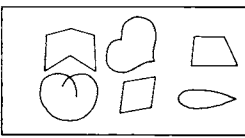
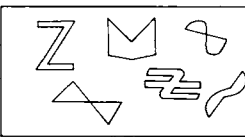
- ・ 児童は、身の回りの文字やマークなどについて、整った形を直観的にとらえることはできるであろう。しかし、整って見えるのは何故かについては、左右のつり合いがとれているという意識であると思われる。

また、点の対応についても直観の域を出ることはなく、大体重なるという意識であろう。

- ・ 点の対応を明らかにしていくためには、まず点の対応を意識づける必要がある。そこで辺や角のない曲線を含んだ図形を素材に取り入れることにする。曲線図形で対称性を吟味するには、線を細分化して点でみてその対応を考えることになるからである。

また、対称な形の部分として図形を示し、全体を考えさせることにする。対称の軸や対称の中心の位置を変えてみることにし、その任意性に気づかせたいからである。

4 単元計画（総時数11時限）

主 な 学 習 活 動		時 数
一 次	 <p>仲間分けをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 折るとぴったり重なる形—対称な形 ・ 対称の軸に対して合同な図形ができる <p>対称な形を完成させよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応する点を結ぶ線分は、対称の軸で垂直二等分される ・ 対称の軸は自由にとることができる（対称な形の作図） 	4 (本時3/4)
	 <p>仲間分けをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 180°回転するとぴったり重なる形 ・ 対応する点を結ぶ線分は1点で交わる <p>点対称 対称の中心</p> <p>点対称な形を完成させよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応する点を結ぶ線分は対称の中心で二等分される ・ 対称の中心を通る直線で合同な図形 ・ 対称の中心は自由にとることができる（点対称な形の作図） 	4
三 次	対称な形の自分のマークをつくろう	1
四 次	学習のふり返りとまとめ	2



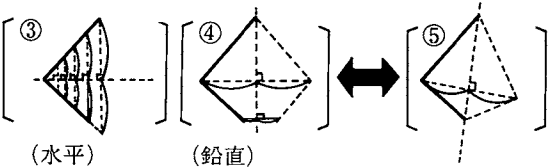
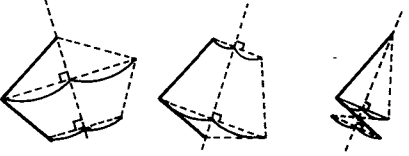
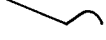
5 本時の学習（一次の3時）

授業の教室（6の3）

ねらい 与えられた図形について観点を変えることにより、対称の軸は水平、鉛直方向だけでなく、自由にとることができることに気づく。

意識の変容 児童は、与えられた図形に対して、対称の軸は水平方向か鉛直方向にあるという意識であろう。そこで、対称の軸がななめでも対称な形はできるのかというゆれから、軸に対し左右つり合いさえとれていれば対称の軸は自由に考えることができるのだという意識にさせる。

授業過程

学 習 活 動	配時	教 師 の 働 き か け と 児 童 の 反 応	教 師 の 意 図
1 前時のふり 返りをする	5	<p>〈対称な形を完成させなさい〉</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応する点を明らかにして完成することができることを復習する
2 課題を知る	3	 <p>対称な形を完成させよう</p>	
3 課題について考える	25	<ul style="list-style-type: none"> ・対称の軸がわからない ・対称の軸がわかればかける ・決めてかいてみよう  <p>（水平） （鉛直）</p> <p>〈③でも対称な形といえるのだろうか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いえる ・対応する点を結ぶ線分は軸に垂直で 同じ長さ（二等分） <p>〈対称な形は他に考えられないか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつもある！ ・軸のとり方さえ決めればいくつも！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・①、②をもとに自分で軸をとってやれそうだという意識にさせる（安定の場） ・軸が水平で鉛直でもない方向でも対称な形がかけられるのだろうかという意識にさせる（ゆれの場） ・対称の軸のとり方を変えると対称な形はいくつでもかけるという意識にさせる（追求の場）
4 練習をする	7	<p>〈  対称な形を完成させよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対称の軸はたくさんとれる ・対称な形はたくさんかける 	
5 まとめをする	5	<p>対称な形を完成させるとき 対称の軸はいくつも考えられる 対称の軸のとり方により 対称な形はちがう</p>	

音 楽 科

表現が豊かになる追求の場をめざして

本校教諭 曾 山 哲 夫

は じ め に

1 研究経過

2 本年度の重点

- ・音楽科における追求力とは
- ・追求力を育てるために

3 器楽表現（リコーダー）の実践例から

- ・主題・ねらい・児童の実態・指導計画等について
- ・追求力の設定の仕方
- ・追求力を育てる手立て
- ・ふりかえって

4 四年間の成果と反省

お わ り に

国 語 科

読みが深まる追求の場

——「ビーバーのす作り」の実践を通して——

本校教諭 坂 根 順 子

は じ め に

1 国語科における追求力

2 追求の場 成立のために

- (1) 必要とする追求力の見きわめ
- (2) 子どもの追求力に応じた授業設計

3 授業の実際から

お わ り に

「ビーバーのす作り」東書二年下より

⑩すの 中には、ベット、えさをたくわえる ところ、ぬれた 体を かわかす ところなどが あります。

⑪すの 入り口は、水の 中にあるので、ビーバーのように、およぎの じょうずなどうぶつで なければ、けっしてすの 中に入る ことができません。

⑫この すの 中で、ビーバーの家ぞくは、あんしんしてくらすことが できます。

講 演

第 2 日

学習指導要領の改定について

14:10~15:30 於 小学校体育館

文部省大臣官房審議官（初等・中等教育局担当）

熱 海 則 夫 先生